納事務順序ヲ定メ日本銀行ヲシテ之カ事務ヲ取扱ハシムルコトヽセリ蓋シ從來歳入金ハ國庫金取扱所ニ納入セシメ歳出金ハ現金支拂所ニ於テ取扱ハシメ收支全ク其機關ヲ區別シ來リシカ是ニ至リ中央金庫ノ出納ノ外ハ悉ク日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽナレリ明治二十年二月大藏大臣ヨリ日本銀行ヘ令達セルモノ左ノ如シ

日本銀行

本年四月一日ヨリ各地ニ國庫金出納所ヲ設置シ歳入出及雜部金ノ出納事務ヲ爲取扱候條別紙國庫金出納事務順序ニ依リ取扱フヘシ國庫金出納所事務取扱所ニ付テハ明治十六年四月二十七日相達候國庫金取扱命令ノ旨ヲ遵奉スヘシ

國庫金取扱所現金支拂所ノ事務ハ本年三月三十一日ノ殘務ヲ以テ國庫金出納所ヘ引繼ヲ受クヘシ

但國庫金取扱所現金支拂所ヘ別紙ノ通リ相達候條此旨相心得ヘシ

國庫金出納所及出納支所ノ位置區域ハ追テ相達スヘシ

國庫金出納所取扱上ノ經費ハ追テ相達スヘシ

右及命令候也

明治二十年二月三日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

同月二十二日大藏大臣ハ國庫金出納本所及同支所ノ位置竝ニ出納區域ヲ定メテ日本銀行ニ達シ三月二十一日國庫金出納所ニ事務引續ヲ了シ翌四月一日ヨリ改正制度ヲ實施セリ

明治二十二年二月法律第四號會計法ノ公布アルニ及ヒ其第三十一條ニ於テ政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルヲ得ル旨ヲ定メ同年四月勅令第六十號會計規則第百十一條ヲ以テ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘキ旨ヲ規定シタリシカ同年十一月勅令第百二十六號ヲ以テ金庫規則ヲ制定シ從來ノ國庫金取扱ニ關スル制度ヲ改正シ新ニ金庫制度ヲ設ケ國庫金ノ取扱ハ總テ日本銀行ヲシテ當ラシムルコトト爲セリ金庫規則ノ規定ニ依レハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ハ金庫ヲシテ取扱ハシムルコトトシ金庫ヲ中央金庫本金庫支金庫ノ三種ニ分チ東京ニ中央金庫ヲ置キ各府縣廳下及札幌函館根室ニ本金庫ヲ置キ大藏大臣ノ必要ト認メタル場所ニ支金庫ヲ設置ス金庫ハ大藏大臣之ヲ管理シ中央金庫ハ各地本金庫ヲ、各地本金庫ハ所屬支金庫ヲ總轄ス但東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ之ヲ總轄ス而シテ中央金庫本金庫支金庫ノ現金保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシメ之ニ關スル一切ノ責任ヲ政府ニ對シ負ハシムルモノトセリ乃チ日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設置シ日本銀行ノ支店長又ハ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人トシテ其事務ヲ分擔シ代理店ノ支店ニ於テ金庫事務ヲ取扱フトキハ代理店長其支店長ニ代理ノ事務ヲ委囑ス而シテ日本銀行ニシテ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ經ヘキモノトシ大藏大臣ハ檢査官吏ヲ派シテ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ檢査スルヲ得ルノミナラス同時ニ其銀行ノ總テノ金櫃帳簿ヲ併セテ檢査スルコトヲ得ヘク又金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ檢査規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルモノトシ明治二十三年四月一日ヨリ之ヲ實施セラレタリ是ニ於テ大藏大臣ハ同年十二月大藏省訓令第七十二號ヲ以テ金庫出納事務規程及同第七十一號金庫出納證明規程ヲ定メテ金庫出納役ニ令達シ明治二

十三年二月大藏省訓令第六號ヲ以テ各金庫ノ金櫃帳簿ハ銀行本業ノ部分ト區別方ニ付令達セリ
斯クテ同年三月三十一日ヲ以テ大藏省金庫局及同局大阪出張所竝ニ各地金庫出納所事務及現在
金ヲ金庫出納役ヘ引繼ヲ了シ四月一日ヨリ金庫事務ヲ開始セリ
明治二十八年九月勅令第百二十九號ヲ以テ金庫規則中ニ改正ヲ加ヘ本金庫ノ位置ハ大藏大臣ノ
定ムル所ニ依ルモノトシ其他二三ノ條項ニ改正ヲ施シ爾來日本銀行ノ國庫金取扱ハ多大ノ變革
ナクシテ今日ニ至レリ而シテ國庫金取扱ニ關スルコトハ極メテ複雜ナルモノアリ本款ハ唯其概
要ヲ摘記セルノミ其詳細ニ至リテハ宜ク第五編國庫出納ノ部ヲ參看スヘシ

第二款　預金保管供託事務

政府カ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル預金事務ハ分テ之ヲ二種トナスコトヲ得卽チ一ハ國庫遊
金ノ預入ニカヽルモノニシテ二ハ政府預金ノ運用是ナリ而シテ第一ニ屬スルモノハ國庫金收支
ノ緩急ヲ量リ其餘裕ヲ以テ直接ニ日本銀行ニ付託シ以テ官民ノ爲メ有益ナル事業ニ使用セシメ
シモノニシテ明治十五年十二月八日大藏卿松方正義ノ建議ニ其端ヲ啓ケルモノトス
日本銀行ヲシテ追テ國庫金ノ取扱ニ從事セシメラレ候儀ハ條例第十二條ニ於テ既ニ其豫約モ
之有候儀ニ付漸ク其端緒ヲ開カン爲メ先ツ該銀行ト約定ヲ結ヒ官金收支ノ都合ヲ量リ其餘裕
アル毎ニ時々定期預ケ金ヲ爲シ漸次其取扱ニ慣熟セシメ候樣致度存候ニ付右定期預ケ金ノ儀
至急御裁可相成候樣致度此段相伺候也
明治十五年十二月八日

太政大臣　三條實美殿　　大藏卿　松方正義

右國庫金定期預入ノ件ハ直ニ裁可ヲ得タレハ大藏卿松方正義ハ更ニ日本銀行ニ對シ其取扱ニ關
シ遵守スヘキ命令書ヲ定メ太政大臣經伺ノ上之ヲ同行ニ達示セリ

日本銀行

當省ヨリ其銀行ヘ定期預ケ金ヲナスニ付條款ニ遵ヒ取扱フ可シ
第一條　定期預ケ金ノ期限ハ一箇年以內トス
但政府ノ都合ニ據リ期限內ト雖モ全額或ハ其幾部ヲ引出スコトアルヘシ
第二條　定期預金ノ期限三箇月未滿ノ者ハ無利息トシ三箇月以上六箇月未滿ノ分ハ利息年四
分六箇月以上ノ分ハ年五分トシ期限ニ至テ元金ト共ニ上納スヘシ
第三條　定期預ケ金ヲナシタル時ハ一口毎ニ預リ證書ヲ金員引換ニ相納ムヘシ
第四條　定期預ケ金ヲ引出ス時ハ預リ證書ヲ返付スヘキニ付右證書引換ニ金員ヲ利息ト共ニ
返納スヘシ
第五條　期限內ニ定期預ケ金ヲ引出ス時ハ其金額ニ限リ利息ヲ付スルニ及ハス
第六條　此定期預ケ金ニ對シテハ別ニ抵當ヲ納ムルヲ要セス
第七條　此定期預ケ金ノ證書ハ他ヘ授與セサル可シ
右條款ノ趣旨承諾ノ上ハ請書可差出事
明治十六年一月二十五日

斯ノ如クニシテ第一種事務ハ同行ノ任務トナルニ至レルカ其取扱ハ人民ノ通常預金ト異ナル所アラス

第二種卽チ政府ノ預金ヲ日本銀行ニ命シテ運用利殖セシメタルハ明治十八年二月二十三日大藏卿松方正義ノ建議ニ由來セルモノニシテ同年五月三十日第十三號布告預金規則トナリ尋テ翌六月大藏省令第八十八號ヲ以テ預金取扱手續ノ公布ヲ見ルニ至レリ是ニ於テ預金規則ニ據リ大藏省中ニ預金局ヲ置キ以テ第一驛遞局貯金第二各省ノ成規ニ從フ積立金第三社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ル貯金ヲ預リ之カ利殖運用ハ預金規則第六條ニ依リ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽナレルモノナリ政府預金運用方取扱ニ關シ同行ニ達示セシ命令書左ノ如シ

大藏卿 松方正義

日本銀行

本年五月第十三號布告預金規則第六條ニ據リ預金局預リ金運用ノ取扱ヲ命シ候條左ノ條々可相心得此旨相達候事

明治十八年六月十六日

大藏卿 伯爵 松方正義

第一條 預金局預リ金ヲ國立銀行其他ヘ貸出ストキハ日本銀行ハ其借主抵當物品及其代價等ヲ詳記セル書面ヲ預金局ニ差出シ其承認ヲ受ケ預リ證書引換ニ其金員ヲ受取リ更ニ同銀行ノ名義ヲ以テ之ヲ轉貸スヘシ

但貸付金ノ抵當ニ徵スル物品ハ諸公債證書政府發行ノ手形及地金銀ノ三種ニ限ルモノトス

第二條 預金局預リ金ヲ出納局ニ貸出ストキハ日本銀行ハ預リ證書引換ニ其金員ヲ預金局ヨリ請取リ同銀行ヨリ更ニ之ヲ出納局ヘ轉貸セシムルコトアルヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ手數料ヲ給セス日本銀行ハ其受取リタル利子ヲ預金局ヘ皆濟スヘシ

第三條 公債證書又ハ大藏省證券ノ買入方ヲナサシムルトキハ日本銀行ハ其買入基金ヲ預金局ヨリ請取リ之ヲ買入記名ノ公債證書ハ預金局長ノ名義ニ書換其精算書ト共ニ之ヲ預金局ヘ納ムヘシ

第四條 預金局ヨリ日本銀行ヘ定期預ケ金又ハ當座預ケ金ヲナスコトアルヘシ但定期預ケ金ヲナストキハ其期限及ヒ利子等ノ割合等時々之ヲ約定スルモノトス

第五條 日本銀行ヨリ預金局ヘ差出ス預金受渡ニ屬スル證書ハ預金規則第八條ニ據リ都テ證券印紙ヲ貼用スルニ及ハス

第六條 預金局ヨリ左ノ通リ預金運用ノ手數料ヲ支給スヘシ

一 公債證書又ハ大藏省證券ノ賣買ヲナサシメタルトキハ其手數料トシテ左ノ割合ニ依リ賣買ヲナス每ニ之ヲ支給スヘシ但日本銀行ヨリ直ニ買入又ハ日本銀行ヘ賣却スルトキハ手數料ヲ給セス

一 公債證書記名ノ分

一箇年賣買代價金拾萬圓未滿 千圓ニ付金五拾錢

一　公債證書記名ノ分　一箇年實買代價金拾萬圓以上　千圓ニ付金貳拾五錢

一　公債證書無記名ノ分及大藏省證券　同金拾萬圓未滿　千圓ニ付金參拾錢

一　同　上　同金拾萬圓以上　千圓ニ付拾五錢

一　第一條貸付金取扱手數料トシテ其利子高ノ千分ノ五ヲ其利子ノ收入ヲナス毎ニ支給スヘシ

是レ卽チ政府預金事務ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタルノ嚆矢ナリ

明治十八年十一月ニ至リ日本銀行ハ曩ニ定メタル預金運用取扱手續ヲ改正シタリシカ明治十九年二月更ニ之ヲ改正シ預金局運用取扱順序ヲ定メタリ明治二十年七月預金局預金運用ノ爲メ預金局ト日本銀行トノ間ニ有利當座預金假規約ヲ締結シテ假ニ之ヲ實施シタリシカ當初ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシヲ以テ同年十一月右假規約ヲ解除シ同年十二月大藏大臣ハ曩ニ日本銀行ニ與ヘタル預金運用取扱命令中ヲ改正シ運用金ハ無利子ヲ以テ日本銀行ニ預ケ更ニ同行ノ名義ヲ以テ國立銀行其他ヘ貸出シ詳細ヲ預金局ヘ報告スヘキモノトセリ然ルニ明治二十二年十月ニ至リ政府ハ預金運用ノ法ヲ改メ預金ノ運用スヘキ金額ハ年三分ノ利子ヲ以テ日本銀行ヘ定期預ケトナスコトヽシ之ニ關スル規定ヲ日本銀行ヘ達セリ

明治二十二年勅令第二十六號金庫規則ノ發布ニ由リ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽナリシヲ以テ明治二十三年三月政府預金モ亦金庫出納役ヲシテ取扱ハシムルタメ預金受渡事務順序ヲ定メ各地本支金庫ニ於テ預金規則第一條第二項及第三項ノ積立金受渡ヲ爲スニ付テノ手續ヲ日本銀行ニ達セリ次テ同年四月大藏省訓令第五十八號

ヲ以テ各金庫預金報告順序ヲ定メ金庫出納役ニ令達セリ

明治二十三年一月法律第一號保管金規則ノ公布アリ勅令第二號ヲ以テ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ大藏省預金局ニ寄託スヘキモノト爲セルヲ以テ同年十一月勅令第二百七十三號ヲ以テ大藏大臣ハ各地金庫ヲシテ法律命令ニ依リ大藏省預金局ノ保管ニ屬スヘキ金錢及證券ノ取扱ヲ爲サシムルヲ得ルコトヽシ各地本支金庫ニ於ケル保管物受渡事務順序ヲ定メ同年三月大藏省訓令第四十四號ヲ以テ金庫出納役ニ達セラル同年八月法律第七十五號ヲ以テ預金ヲ以テ公債ヲ買入ルヽノ制ヲ採リタルヲ以テ明治二十四年一月政府ハ預金ヲ以テ公債證書購入方ニ關スル方法ヲ日本銀行ニ達セリ

明治二十三年七月勅令第百四十五號ヲ以テ供託規則ノ公布アリ法律ノ規定ニ由リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スルコトヽ爲シタルヲ以テ同年十二月大藏省令第三十九號ヲ以テ供託物取扱規程ヲ定メ供託物ノ受渡及保管ハ東京府內ハ大藏省預金局其他ノ各地ハ本支金庫ニ於テ取扱フコトヽ爲セリ然ルニ明治二十六年九月大藏省令第二十一號ヲ以テ供託取扱規程ヲ改定シ供託物ノ保管受渡ハ金庫ニ於テ取扱フコトヽセリ此ヨリ以前明治二十四年七月預金局保管ニ係ル預金保管金及供託物ニ對シ各地金庫ニ於テ裁判所ヨリ差押命令ヲ受ケタル場合ノ取扱手續ヲ定メ金庫出納役ヘ令達セリ

從來預金保管物及供託物ノ保管出納及ヒ之カ整理決算ノ責任ハ總テ大藏省預金局長ヲシテ擔當セシメ來リシカ明治二十六年十一月一日以降金庫出納役ヲシテ直接之ヲ負擔セシメ大藏省ハ專ラ之ヲ管理監督スルノ一途ニ止ムルコトヽシ同年九月二十日大藏省令第十九號ヲ以テ預金取扱

規程ヲ改定シ同第二十號ヲ以テ保管物取扱規程ヲ改定シ又同第二十一號ヲ以テ供託物取扱規程ヲ改定シ預金保管金供託物ノ保管出納ハ此等ノ規定ニ依リ都テ金庫ニ於テ取扱フモノトシ同第二十二號ヲ以テ大藏省預金局ニ於テ直接保管ヲ爲シ來レル預金保管金供託金及有價證券ハ十一月一日ヨリ中央金庫ヘ引繼キ之カ保管出納ハ同金庫ニ於テ取扱ハシムルコトヽシ八月二十一日大藏省訓令第三十二號ヲ以テ預金保管物及供託物ノ保管出納ハ總テ金庫出納役ノ直接取扱ニ歸スルコトヽナリ金庫出納事務規程ヲ定メ金庫出納役ヘ達示シ斯クテ明治二十六年十一月一日以降預金保管物供託物ノ保管出納ハ金庫出納役ニ於テ直接取扱フコトヽナレリ爾來日本銀行ハ前掲諸規程ニ依テ預金保管物供託物ノ取扱ヲ爲シ來リシカ其間或ハ二三ノ改正ヲ經タリト雖モ其大體ニ於テハ敢テ異動ヲ生セス而シテ預金保管物供託物ノ取扱ニ關スル詳細ノ事項ハ第十編預金ノ部ニ詳カナルヲ以テ本款ニ於テ其大要ヲ示スニ止メタリ

第三款　公債事務

政府カ日本銀行ヲシテ公債ニ關スル諸般ノ事務ヲ取扱ハシメタル目的ハ其取扱上ニ要スル種々ノ費用ヲ省キ併テ官民ノ便宜ヲ計ルノ主旨ニ本ツクモノニシテ實ニ明治十七年一月二十三日中山道鐵道公債及金札引換無記名公債ノ取扱方ヲ命シタルヲ以テ其嚆矢トス明治十六年十二月中山道鐵道公債證書條例及金札引換公債證書條例ヲ發布シ尋テ之カ募集元利仕拂等ニ關スル方法ヲ定メ翌明治十七年一月右二公債ノ取扱方ヲ日本銀行ヘ命セラル其命令書左ノ如シ

命令書

明治十六年十二月第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例竝同第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例ニ據リ發行スル公債ノ取扱ヲ命スルニ付左ノ條々ヲ遵守スヘシ

第一條　日本銀行ヲシテ取扱ハシムヘキ事務ハ大藏卿漸次令達スルモノトシ其取扱順序ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏卿ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　日本銀行ハ此公債ヲ取扱フニ付其事務判然區劃シテ他業ト混淆スヘカラス

第三條　公債ニ關スル金圓ハ運轉使用スルヲ許サス

第四條　日本銀行ハ公債ニ關スル事務ヲ各地方ニ在ル國立銀行若クハ私立銀行等ヲシテ代理セシムルヲ得ヘシ其代理約條ハ大藏卿ノ許可ヲ請ケ之ヲ定ムヘシ

第五條　公債ニ關スル金圓本支店取扱ニ係ル分ハ勿論代理店ニ係ル分ト雖モ日本銀行ニ於テ一切其責ニ任シ何等ノ事故ニ據テ損失ヲ蒙ムルコトアルモ總テ日本銀行ニ於テ之ヲ辨償スヘシ但避クヘカラサル變災ニシテ其證跡アルニ於テハ大藏卿ハ詮議ノ上之ヲ處分スヘシ

第六條　公債發行ノ時々其取扱費ハ左ノ通支給ス尤モ此費用ハ公債本證書債主ヘ附與濟後ハ支給セサルモノトス

一　拂込金高千圓ニ付金參圓宛

但中山道鐵道公債證書引受申込ノ最初ヨリ本證書發付濟迄ノ取扱手數料

一　拂込金高千圓ニ付金壹圓宛

但金札引換無名公債證書代リ金受取後本證書發付濟迄ノ取扱手數料

第七條　公債元金償還手數料ハ其償還金高千分ノ五利子支拂手數料ハ其支拂金高千分ノ十ノ

割合ヲ以テ支給スヘシ

第八條　公債發行ニ關スル諸證書類ハ印紙界紙ヲ用ユルニ及ハス

第九條　公債證書ヲ引受ンコトヲ申込ヘキ場所ヲ急速指定シテ大藏卿ノ認可ヲ請ケ新聞紙ヲ以テ世上一般ヘ廣告スヘシ

第十條　中山道鐵道公債證書ヲ引受ンコトヲ申込モノアルトキハ別紙第一號書式ノ引受申込證書並ニ保證金ヲ受取リ其保證金ヘ對シ別紙第二號書式ノ領收證書及ヒ第一回拂込金ニ對シ第三號書式領收證書第二回拂込金ニ對シ第四號書式ノ假證書ヲ附與スヘシ

但本條假證書ハ保證金領收證書並ニ第一回拂込金領收證書ト引換ニ交付スヘシ

第十一條　金札引換無記名公債證書ヲ引受ンコトヲ申込ムモノアルトキハ其代リ金ヲ受取別紙第五號書式ノ公債假證書ヲ附與スヘシ

第十二條　公債ヲ引受ケン爲メ拂込金、金銀貨ヲ以テスルモノハ時價ヲ以テ之ヲ受取ルヘシ

第十三條　第十條第十一條ノ公債證書申込高ハ毎日大藏省ヘ屆出ヘシ

第十四條　拂込金五拾萬圓ニ滿ツルトキハ其都度大藏省ヘ上納スヘシ

第十五條　中山道鐵道公債跡金拂込ヲ期日迄ニ出金セサルモノハ速ニ當省ニ屆出處分ヲ請フヘシ

第十六條　同公債ハ當省需用ノ金高ニ滿チタル上本證書ヲ請求スヘシ

但保證金並跡金拂込高ニ係ル利子ハ條例第八條ニ據リ算計シテ本條同時ニ請求スヘシ

第十七條　金札引換無記名公債證書ト引換タル紙幣ヲ支店又ハ代理店ヨリ本店ヘ現送スル場合アルトキハ十四年當省乙第五號達本文ニ比準シ該紙幣大藏卿ノ印面ヲ打拔其打拔キタル印面ト紙幣ト別日ニ回送セシムヘシ

第十八條　汚染又ハ毀損證書引換手數料ハ日本銀行ニ於テ相當ノ割合ヲ計リ大藏卿ノ認可ヲ請ケテ之定メ置クヘシ

第十九條　公債本證書日本銀行ヘ下付シタルトキハ其記號番號及引受人ノ住所氏名ヲ簿冊ヘ登記シ他日汚染又ハ毀損等ニテ交換ヲ爲シタル時又ハ亡失シタル時ハ其趣詳細記入スヘシ

第二十條　此命令條款ハ大藏省ノ都合ニ因リ改正增削スルコトアルヘシ

右及命令候也

明治十七年一月二十三日

（書式略）

大藏卿　松方正義

斯ノ如ク日本銀行ハ公債取扱ニ關スル事務ヲ命セラレタルヲ以テ命令書第四條ニ據リ各地方銀行ヘ右取扱方代理ヲ爲サシムル爲メ各銀行トノ代理約條ヲ定メ同月大藏卿ノ認可ヲ經テ中山道鐵道公債ハ横濱正金銀行外二十六箇所金札引換公債證書ハ横濱正金銀行外二箇所ヘ代理約定ヲ締結セリ次テ明治十七年三月、日本銀行ハ中山道鐵道公債事務取扱代理店約條ヲ修正シテ大藏卿ノ許可ヲ得、同年四月公債ニ關スル命令書第一條ニ遵據シテ中山道鐵道公債及金札引換無記名公債事務取扱順序ヲ定メテ大藏卿ニ提出シ七月一日修正ノ上許可ヲ得タリ尋テ明治二十年四月十九日中山道鐵道公債、金札引換無記名公債取扱順序中實際上不便ノ點アルヲ以テ之ヲ修正シ四月二十七日大藏大臣ノ認可ヲ得タリ

明治十六年發行ノ中山道鐵道公債及金札引換無記名公債ニ就テハ其取扱事務ヲ日本銀行ニ命任セラレタルコトハ既ニ述ヘタル如シト雖モ是ヨリ以前發行ノ諸記名公債ハ明治十九年十月ニ至ル迄ハ各債主所在ノ地方廳ニ於テ元利仕拂ノ手續ヲナセリ然ルニ當時日本銀行ノ基礎鞏固トナリ既ニ無記名公債ノ取扱ヲ命シテ官民共ニ至便ヲ感スルニ至レルニ拘ラス獨リ記名諸公債ノミ之ヲ官廳ニ於テ取扱ハシムルノ理由ナキヲ以テ明治十九年七月大藏省令第二十四號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ總テ之ヲ日本銀行本支店代理店ニ於テ取扱ハシムルコトヽシ同月八日新公債舊公債金祿公債金札引換公債證書元利賦金支拂ニ關スル事務取扱方ヲ日本銀行ニ命令セリ即左ノ如シ

日本銀行

明治十九年七月第二十四號省令ニ據リ新公債舊公債金祿公債金札引換公債證書元利賦金支拂ニ關スル事務ノ取扱ヲ命令ス因テ左ノ條々ヲ遵守スヘシ

此ノ命令書ニ公債トアルハ右ニ記載スル各公債ト心得フヘシ

第一條　北海道府縣ニ於テ支拂フヘキ公債元利賦金ノ金高債主ノ姓名等ヲ夫々其行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘキ旨本月訓令第三十號ヲ以テ令達シタルニ依リ道廳又ハ府縣廳ト引合ニ及ヒ來ル十一月一日ヨリ元利賦金支拂ニ差支無之樣取計フヘシ又公債證書所有者ヨリ印鑑ヲ屆出ヘキニ依リ印鑑簿ヲ設置スヘシ

第二條　其行ハ公債元利賦金支拂ノタメニ下渡シタル金額ハ之ヲ他ノ費途ト混用スルヲ得ス

第三條　其行ハ公債元利賦金支拂ニ關スル事務ヲ各地方ニ在ル國立銀行若クハ私立銀行ヲシテ代理セシムルヲ得ヘシ其代理條約ハ其行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ但代理店ハ新聞紙五種以上ヲ以テ少クトモ七日間之ヲ廣告スヘシ

第四條　各地方ノ代理店ハ其地方便宜ノ場所ニ於テ之ヲ選ヒ其地方管轄所割ノ證書ニ限リ取扱ハシムヘシ又各地方代理店ニ於テハ遠隔ノ地ニ住スル債主ノ爲メ各地國庫金取扱所ノ出張場ニ於テ元利賦金ノ支拂ヲナサシムルコトヲ得

第五條　公債證書ノ元利賦金ヲ支拂フ時ハ債主ノ印鑑竝ニ北海道廳又ハ府縣廳ヨリ報告ノ表ニ據リ債主ノ姓名及證書利賦札ノ員額ヲ調査シ其ノ眞正ナルヲ認ムルノ後之ヲ支拂フヘシ

第六條　公債ノ元利賦金支拂ニ充ツヘキ金額ハ其支拂期節ニ先チ十日前ニ其行ヘ當省ヨリ下渡スヘキニ依リ北海道廳又ハ府縣廳ヨリ報告スル表ニ據リ其支拂場所及ヒ員額ヲ大藏省ヘ申出ヘシ

第七條　公債ノ元利賦金支拂ノ爲メ當省ヨリ金員ヲ受取タルトキハ金庫局長ニ對シ領收證書ヲ差出スヘシ

第八條　公債ノ元利賦金支拂ノ爲メ下渡シタル金額ニシテ其行本支店取扱ニ係ル分ハ勿論代理店ニ係ル分ト雖モ一切其責ニ任シ損失ヲ蒙ルコトアルトモ總テ其行ニ於テ之ヲ辨償スヘシ但避クヘカラサル變災ニ罹ルモノハ事情ヲ詳具シ之ヲ大藏大臣ニ上申スヘシ

第九條　公債ノ元利賦金支拂ノ爲メ下渡シタル金額中定期ノ支拂ヲ了シタル上殘金アラハ右定期ノ翌月二十日限リ其金高ヲ當省國債局ヘ報告スヘシ

第十條　前項殘金ハ定期以前ノ各定期ニ受取ヘキ金員ニシテ債主事故アリ定期外ニ受取方申

出タルモノヽ支拂ニ宛テ翌年度八月三十一日ニ至リ尚ホ殘金アラハ十月三十一日限リ返納書ニ現金ヲ添ヘ金庫局ヘ納付シ同時ニ支拂未濟仕譯書ヲ製シ之ヲ國債局ヘ送付スヘシ

第十一條　前條定期外ニ於テ受取方申出タルトキ殘金在高不足スルトキハ其行ニ於テ立換支拂置半箇月毎ニ取纏メ當省國債局ヘ請求スヘシ但本文立換金ニハ相當ノ利子ヲ付スヘシ

第十二條　公債元利賦金支拂高ハ一箇月分ヲ取纏メ(公債種類元利並ニ拂渡期及支拂タル金員ノ年度ヲ區別スヘシ)翌月二十日限リ當省國債局ヘ報告スヘシ

第十三條　拂渡公債證書又ハ利賦札ハ一箇月分取纏メ內譯表相添前項ノ報告ト共ニ當省國債局ヘ還納スヘシ

第十四條　公債元利金支拂ニ係ル手數料並ニ費用ハ左ノ割合ヲ以テ支給スヘキニ付一箇月毎ニ取纏メ當省國債局ヘ請求スヘシ

一　公債元金支拂手數料ハ其支拂高千分ノ一

一　公債利賦金支拂手數料ハ其支拂高千分ノ三

一　拂濟ノ證書及拂濟利賦札ノ遞送費ハ其實費

第十五條　公債元利賦金支拂ノ順序ハ其行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ經テ執行スヘシ

右命令ス

明治十九年七月八日

大藏大臣　伯爵　松方正義

右ノ如ク記名諸公債元利賦金支拂ニ關スル事務取扱方ヲ日本銀行ニ命セラレタルニ由リ同行ハ同年八月四日前記命令書第三條ニ據リ諸記名公債事務取扱代理約條書ヲ定メ同月八日大藏大臣

ノ認可ヲ受ケ又同月五日命令書第十五條ニ基キ記名諸公債事務取扱順序ヲ定メテ之ヲ大藏大臣ニ提出シタリシカ大藏大臣ハ多少ノ修正ヲ施シテ九月十三日之ヲ認可シ斯クシテ日本銀行ハ諸記名公債事務取扱ヲ實施セリ

明治二十年三月ニ至リ大藏大臣ハ曩ニ日本銀行ニ與ヘタル記名諸公債元利賦金支拂方取扱ニ關スル命令書中實際上不便ノ箇條アルヲ以テ左ノ如ク修正ヲ施シ日本銀行ニ達セリ

日本銀行

諸記名公債元利賦金支拂方取扱ニ關シ客年七月八日其行ヘ下付シタル命令書中第九條ヲ削除シ第四條第六條第十條第十一條第十三條ヲ左ノ通修正シ第十條ヲ第九條トシ以下順次ニ繰上ケ候條此旨心得ヘシ

第四條中「國庫金取扱所ノ出張場」ノ十字ヲ「國庫金出納支所」ノ七字ニ修正シ「ルコトヲ得」ノ五字ヲ刪除ス

第六條中「十日」ヨリ以下「大藏省ヘ申出ツヘシ」マテノ五十六字ヲ「北海道廳又ハ府縣廳ヨリノ報告ニ據リ當省ヘ請求スヘシ」ノ二十五字ニ修正ス

第十條　公債元利賦金支拂ノ爲メ下ケ渡シタル金額ノ內毎年三月三十一日(即年度末)マテニ支拂ヲ了セサルカ爲メニ殘餘ヲ生スルモノアルトキハ翌年度六月三十日マテ其行ヘ預リ置キ定期外ノ請求ニ對スル支拂ニ充ツヘシ

但本文ノ期限ヲ經過シ尚殘餘アルトキハ其翌月三十日限リ返納上申書ヲ當省ヘ差出シ現金ハ金庫局ヘ還納スヘシ

第十一條中「半箇月毎ニ取纒メ」ノ八字ヲ「直ニ」ノ二字ニ修正シ「當省」ノ下「國債局」ノ三字ヲ削除ス

第十三條中「內譯表相添前項ノ報告ト共ニ」ノ十三字ヲ「精算報告書證書利札還納表及證書記番號明細表相添翌月二十日限リ」ノ三十字ニ修正ス

明治十九年八月日本銀行ニ於テ定メタル記名諸公債取扱順序ハ其後二三ノ小修正ヲ加ヘタリシカ明治二十年四月ニ至リ取扱上ノ不便アリシヲ以テ其全部ヲ修正シ四月七日大藏大臣ノ修正認可ヲ得タリ

是ヨリ曩キ明治十九年六月勅令第四十七號ヲ以テ海軍公債證書條例ヲ發布シ海軍公債ヲ發行スルニ及ヒ其證書ノ取扱元利金支拂ノ方法等ハ總テ中山道鐵道公債證書條例ニヨリ日本銀行ヲシテ之カ事務ヲ取扱ハシムルコトヽシ六月十六日大藏大臣ヨリ日本銀行ヘ左ノ如ク命令セリ

日本銀行

本年六月十二日勅令第四十七號海軍公債證書條例ニ據リ發行スル公債ノ取扱ヲ命スルニ付左ノ條々ヲ遵守スヘシ

第一條　日本銀行ヲシテ取扱ハシムヘキ事務ハ大藏大臣隨時命令スルモノトス其取扱順序ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ承クヘシ

第二條　公債發行ノ時ニ其取扱費ハ左ノ通リ之ヲ定メ應募者申込ノ最初ヨリ本證書發付濟マテ一切ノ手數料トシテ之レヲ支給ス

一　拂込金高千圓ニ付金參圓宛

第三條　公債元金償還手數料ハ其償還金高千分ノ五利子支拂手數料ハ其支拂金高千分ノ十ノ

割合ヲ以テ支給スヘシ

第四條　公債證書ノ引受ヲ申込ムヘキ場所ハ速カニ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ承ケ五種以上ノ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第五條　公債證書申込高ハ前日分ヲ翌日（休日ヲ除ク）大藏省ニ申報スヘシ

第六條　拂込金高拾萬圓ニ滿ツルトキハ其都度大藏省ニ上納スヘシ

第七條　公債引受ノ跡金拂込ヲ期日マテニ出金セサルモノアルトキハ速カニ其處分方ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八條　此命令ニ掲載無キ事項ハ明治十七年一月二十三日相達タル中山道鐵道公債證書發行取扱方命令書ノ條件ニ準據スヘキ儀ト心得ヘシ

右命令ス

明治十九年六月十六日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

斯ノ如ク日本銀行ハ海軍公債事務取扱方ヲ命セラレタルヲ以テ同年六月前記命令書第四條ニ據リ海軍公債事務代理店及代理約條ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ得テ其取扱ヲ實施スルニ至レリ然ルニ曩ニ大藏大臣ヨリ達セル海軍公債事務取扱ニ關スル命令書ハ改正ヲ要スル箇條アリシヲ以テ明治二十年三月三日左ノ如ク改正シタリ

日本銀行

客年六月十六日其行ヘ命任候海軍公債發行ニ關スル取扱方命令書中左ノ通改正ス

明治二十年三月三日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

第三條　公債ノ利金支拂ニ關シテハ左ノ割合ヲ以テ手數料ヲ給ス

元金ハ仕拂高千分ノ二

利金ハ仕拂高千分ノ三

第五條　公債ノ應募高竝ニ保證金及一期以下拂込ノ金額價格ハ前日分ヲ翌日國債局ヘ報告シ毎回應募ノ期日ヲ過クルトキハ更ニ總計募集報告書竝ニ一人別明細書ヲ製シ之ヲ國債局ヘ差出スモノトス

第六條　保證金及第一期以下ノ拂込金額五拾萬圓ニ滿ルトキハ其都度現金ニ上納書ヲ添ヘ金庫局ヘ納入スヘシ

第七條　其行支店又ハ代理店ニ於テ保證金及第一期以下ノ拂込金額壹萬圓ニ滿ツルトキハ之ヲ其地所在ノ國庫金出納所ヘ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ其行ヘ送付セシムヘシ

第八條　此命令ニ掲載ナキ事項ハ客年十月十九日命任候整理公債發行取扱方命令書中第二條第三條第八條第九條第十三條及第十五條ニ準據スル儀ト心得ヘシ

明治十九年十月政府ハ從前發行ノ六分以上利付內國債ヲ償還整理スル爲メ漸次壹億七千五百萬圓ノ公債發行ノ計畫ヲ爲シ勅令第六十六號ヲ以テ整理公債條例ヲ發布セリ而シテ此整理公債條例ハ規定ノ內容頗ル完備セルモノアルヲ以テ明治二十一年十一月從來ノ諸公債條例ヲ改メテ一般整理公債條例ニ據ルモノトシ元金償還ノ期限利子歩合竝ニ其仕拂期日及期滿免除ノ期限ヲ除クノ外證書ノ賣買讓與紛失消滅汚染毀損其他ニ係ル事件ハ總テ右整理公債條例竝ニ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ルモノトセリ斯クテ同月十九日大藏大臣ハ日本銀行ニ

向テ整理公債事務取扱方ヲ命任セリ卽左ノ如シ

日本銀行

本年十月十六日勅令第六十六號整理公債條例ニ依リ發行スル公債ノ取扱ヲ命スルニ付左ノ條件ヲ遵守スヘシ

第一條　整理公債ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フヘキ其行代理店ノ名稱及場所ハ本月二十五日マテニ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ經テ應募者申込書ノ書式ト共ニ官報及ヒ五種以上ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第二條　此公債ニ關スル出納ハ判然區劃シ之ヲ他業ノ出納ト混淆スヘカラス

第三條　此公債ニ關スル金員竝ニ證書ニシテ其行本支店ニ係ル分ハ勿論代理店ニ係ル分ト雖モ一切其責ニ任シ損失ヲ蒙ルコトアルモ總テ其行ニ於テ之ヲ辨償スヘシ但避クヘカラサル變災ニ係ルモノハ其事情ヲ具申シ大藏大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條　此公債ノ應募額竝ニ保證金及第一期以下拂込ノ金額（現金拂込ニ係ル分ト現在公債證書ヲ以テ納付スルモノトヲ區分スヘシ）ハ前日分ヲ翌日國債局ヘ報告スヘシ毎期應募ノ期日ヲ過クルトキハ更ニ應募金額價格及ヒ姓名等ヲ詳記シタル總計報告書ヲ製シ三日以內ニ之ヲ國債局ヘ報告スヘシ

第五條　其行支店又ハ代理店ニ於テ保證金及第一期以下ノ拂込額壹萬圓ニ滿ルトキハ之ヲ其地所在ノ國庫金取扱所ヘ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ其行ヘ送付セシムヘシ但現在ノ公債證書ヲ以テ拂込タルモノハ卽日現證書ヲ以テ其行ヘ送付セシムルモノトス

第六條　保證金竝第一期以下拂込金ノ上納ハ國債局長ヨリ其行ヘ納額告知書ヲ交付スヘキニ

由リ之ヲ現金又ハ前條ノ預リ證書ヲ添ヘ金庫局ヘ納付スヘシ

第七條　從前發行ノ公債證書ヲ以テ拂込タルモノハ新證書發行ノ日マテ其行ヘ預リ置クモノトス

第八條　每期拂込ノ末日マテニ拂込未濟ノモノアルトキハ其金額ヲ國債局ヘ報告スヘシ拂込期日後三箇月ヲ過キ猶拂込ナキモノモ亦前項ノ手續ヲナスモノトス

第九條　此公債發行ニ關スル諸證書類ヘ證券印紙ノ貼用方ハ別冊樣式ニ據リ取扱フヘシ

第十條　此公債發行ニ就テハ其取扱ヲ命スルノ日ヨリ應募者ヘ證書交付濟マテ一切ノ手數料トシテ拂込高千圓ニ付金參圓ヲ給ス

第十一條　此公債元利金支拂ニ關シテハ左ノ割合ヲ以テ手數料ヲ給ス

元金ハ償還高千分ノ一

利金ハ支拂高千分ノ三

拂濟證書及利札ノ遞送費ハ實費

第十二條　條例第三十條ニ據リ此ノ公債證書ヲ下付スルトキハ命令第二十條ノ發行手數料ヲ給シ本年七月諸記名公債元利賦金支拂方命令第十四條竝ニ明治十七年一月中山道鐵道公債及金札引換無記名公債取扱方命令第七條ノ元金支拂手數料ヲ給セス

第十三條　此公債取扱順序ニ據リ要スル所ノ諸般ノ書式ハ別冊樣式ニ準シ其行ニ於テ之ヲ定メ各取扱店ニ備ヘ置クヘシ

第十四條　此公債發行ニ關スル事務ノ細則ハ其行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條　前各條ニ記載ナキ件ニシテ此公債ノ償還利拂書換等證書ニ關スル事務ノ取扱方ハ追次令達スルモノトス

明治十九年十月十九日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

整理公債事務取扱方ノ日本銀行ニ命セラルヽヤ同行ハ右命令第一條ニ依リ同月十二日整理公債事務代理店及代理約定書ヲ定メ大藏大臣ニ提出シ同月二十三日其認可ヲ經更ニ命令書第十四條ニ據リ整理公債事務取扱手續ヲ定メ同月二十九日大藏大臣ニ提出シ十一月一日修正認可ヲ受ケ其取扱ヲ實施セリ

整理公債事務取扱命令書第十五條ノ規定ニヨレハ右命令書ニ規定ナキ事項ニシテ公債償還利拂書換等ニ關スル事務ノ取扱方ハ追テ令達スヘキ旨ヲ定メタルヲ以テ同年十月大藏大臣ハ右命令書第十五條ニ依リ整理公債利金支拂方ニ關シ遵據スヘキ條件ヲ定メテ日本銀行ニ命令セリ

整理公債發行ノ主旨ハ從前發行ノ六分以上利付內國債ヲ償還整理スルニアルヲ以テ同條例第三十條ニハ從前發行六分以上利付ノ公債證書ヲ所有スル者ハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘキ旨ヲ規定セシヲ以テ大藏大臣ハ明治二十年一月二十一日ヲ以テ日本銀行ニ向テ整理公債證書ヲ請求スルモノアルトキノ心得方ヲ令達セリ卽左ノ如シ

整理公債證書條例第二十條ニ據リ整理公債證書ヲ請求スルモノアルトキハ左ノ條項ニ據リ取扱フヘシ

日本銀行

第一條　從前發行ノ六分以上利付公債償還ノ時元金ノ代リトシテ整理公債證書ヲ請求スルモノアルトキハ其時々當省ヨリ告示スル申込期限內ニ債主ヨリ申込書ヲ差出サシメ一人別明細書ヲ調製シ證書ノ交付ヲ請求スヘシ

但本條ノ申込期限ヲ過キテ請求スルモノアルトキハ毎月二回ニ之ヲ取纏メ請求スヘシ

第二條　前條ニ依リ證書ノ交付ヲ受クル後之ヲ債主ニ交付スルノ期日ハ客年十月第六六六三號達ニ準據スヘシ

第三條　整理公債證書ト交換シタル從前發行ノ六分以上利付公債證書ハ證書面大藏卿印章ノ上ニ（何公債償還元金ノ代リトシテ整理公債證書交付濟）ノ印ヲ捺シ計算書並ニ還納表相添ヘ速ニ當省國債局ヘ納付シ國債局長ノ認可ヲ受クヘシ

但支店及代理店ノ取扱ニ係ル分ハ交換ノ即日其行ヘ送付セシムルモノトス

明治二十年一月二十一日

大藏大臣　伯爵　松方正義

然ルニ前記ノ手續ニ依レハ交換請求者アルニ當リ日本銀行ハ一旦大藏省ヘ交付ヲ請求シ更ニ之ヲ本人ニ交付スルモノニシテ頗ル煩雜ナルヲ以テ同年四月七日ニ至リ右手續ヲ改正シ日本銀行ヲシテ直ニ引換交付方ヲ取扱ハシムルコトヽセリ即左ノ如シ

日本銀行

從前發行六分以上利付各種ノ公債共所有者ノ望ニ由リ其交換ヲ請求スルモノアルトキハ其交換ノ手續左ノ通相定ム

第一條　整理公債證書五萬圓乃至五拾萬圓ヲ限リ其行ヘ豫メ交付スヘキニ由リ其行ヘ備ヘ置キ從前發行六分以上利付各種公債證書ヲ以テ其行本支店及京都府下代理店ヘ交換ヲ請求スルモノニ限リ直ニ引換渡方ヲ取計フヘシ

前項豫備證書交換ノ爲メ減少シタルトキハ前項ノ制限ニ充ツルマテ該證書ノ交付ヲ請求シ引換ニ差支ヘナキ樣取計ヘシ

第二條　前條整理公債證書ノ交付ヲ受タルトキハ其證書ノ種類金額番記號ヲ詳記シタル領收書ヲ大藏省國債局長ヘ差出スヘシ

第三條　第一條ノ交換ヲナシタルトキハ從前發行證書ノ種類金額枚數竝ニ交換下付シタル整理公債證書ノ種類金額枚數ヲ記載製表シテ翌日當省國債局長及ヒ記錄局長ヘ宛屆出ヘシ

第四條　整理公債證書ト交換シタル從前發行ノ證書ハ何月何日整理公債證書ト交換濟ノ印ヲ捺シ每一箇月分取纏メ翌月二十日マテニ其種類金額枚數ヲ詳記シタル表ヲ添ヘ國債局ヘ還納スヘシ

第五條　整理公債證書ト交換シタル從前發行證書ノ月割利子及ヒ整理公債證書ノ端數利子ハ現年度ノ支拂基金ヲ以テ繰換若シ基金ナキトキハ其行本業部ヨリ立換支辨シ直ニ大藏省ヘ請求シテ該基金又ハ本業部ヘ戻入ヲナスヘシ

第六條　第一條ノ豫備證書ニ附屬スル利札ノ支拂期限ヲ經過シタルトキハ其行ニ於テ其利札ヲ切取リ其金額枚數ヲ詳記シタル表ヲ添ヘ國債局ヘ還納スヘシ

第七條　第一條ノ豫備證書ノ出納ハ其行ニ於テ嚴重ニ取扱フヘシ若シ證書及利札ノ紛失等ヨリ政府ノ損失トナリタルトキハ本店取扱ノ分ハ勿論支店代理店ノ分ト雖モ都テ其行ニ於テ

之ヲ補償スヘシ

明治二十年四月七日　大藏大臣　伯爵　松方正義

是ヨリ先キ三月三日、日本銀行ハ整理公債募集ニ關シ應募者及證書所有者心得ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ各事務取扱店ヘ配布セリ而シテ明治十九年十月三十日大藏大臣ヨリ日本銀行ヘ命令セシ整理公債利金支拂方ハ專ラ募集金ノ中ヲ以テ支出スル利金ノ仕拂方ノミニシテ未タ公債證書ノ取扱方及國債費中ヨリ支出スヘキ元利金仕拂方ニ付テハ何等ノ令達ナカリシヲ以テ明治二十年四月十四日前命令ヲ改正シ左ノ如ク日本銀行ヘ令達セリ

日本銀行

客年十月三十日整理公債利金支拂方命令之儀今般更ニ左之通リ改正候條當籤滿期償還ニ係ル元利金支拂方竝ニ證書取扱等ニ關スル手續ハ其行ニ於テ取調至急伺出ヘキ儀ト心得ヘシ

第一條　整理公債定期ノ利子ハ支拂期月ニ先チ請求書ヲ當省ヘ差出シ整理公債取扱順序第八條保證金還付額ニ對スル利子竝ニ同第十五條發行ノ時拂渡スヘキ利札面金額未滿ノ利子ハ募集金ヨリ繰替支辨シ該金額ノ下ケ渡ヲ當省ヘ請求スヘシ

但國債局長ヨリ支拂切符ヲ以テ交付スヘキコトアルヘシ其場合ニアツテハ同局長ヘ對シ請求書ヲ差出シ本文下ケ渡金ト區別シ計算スヘシ

第二條　前條ノ支拂基金ハ其行ニ於テ無記名證書ニ屬スルト記名證書ニ屬スルトヲ區別セス總テ豫算ヲ以テ本支店及代理店ヘ配賦スヘシ

第三條　整理公債ノ利金ハ利札引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘキニ由リ利札ノ眞正ナル

ヲ認ムルノ後之ヲ支拂フヘシ但記名證書ノ利札ハ相當ノ手續ヲ以テ記名者又ハ記名者ノ代理人タルコトヲ認ムヘキモノニ限リ之ヲ支拂フモノトス

第四條　債主ノ未請求ニ由リ整理公債利金支拂期日內ニ其支拂ヲ了セス支拂基金ニ殘餘ヲ生スルモノアルトキハ翌年度六月三十日マテ其行ニ於テ之ヲ預リ置キ期日後請求ノ支拂ニ充テ六月三十日ニ到リ尙ホ殘餘アルトキハ七月三十一日限リ返納上申書ヲ當省ヘ差出シ現金ハ金庫局ヘ返納スヘシ

但國債局長ヨリ仕拂切符ヲ以テ交付シタルモノニシテ毎年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノアルトキハ支拂未濟報告書ヲ製シ四月三十日マテニ國債局長ヘ差出シ支拂殘金ハ其後ノ請求ニ充テ置キ其返納ヲ要スルトキハ同局長ヨリ納額告知書ヲ交付スヘキニ由リ之ニ現金ヲ添ヘ金庫局ヘ返納スヘシ

第五條　前條未拂ノ利金ニシテ返納以降請求スルモノアルトキハ現年度ノ支拂基金ヲ以テ繰換支辨シ基金ナキトキハ其行本業部ヨリ立換支辨スヘシ但立換金ハ相當ノ利子ヲ付スルモノトス

第六條　前條ノ繰換金又ハ立換金ハ其都度立換金ニ係ル利子ハ年二回ニ當省ヘ請求スヘシ

第七條　其行ハ毎月支拂タル實際額ヲ取纏メ（拂渡期及支拂タル金員ノ年度ヲ區別スヘシ）翌月二十日限リ國債局ヘ報告スヘシ

第八條　拂濟利札ハ還納表及精算報告書相添ヘ翌月二十日マテニ之ヲ國債局ヘ還納スヘシ

但國債局長ヨリ仕拂切符ヲ以テ交付シタル分ハ別ニ精算帳ヲ製シ本文ノ期日マテニ同局

へ差出シ同局長ノ認可ヲ受クヘシ

明治二十年四月十四日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

是ニ於テ日本銀行ハ同月十五日整理海軍兩公債取扱順序ヲ改定シ大藏大臣ニ提出シ修正認可ヲ經タリ

明治二十一年十一月六日勅令第七十三號ヲ以テ各種公債條例ヲ改正シ元金償還ノ期限利子歩合並ニ其支拂期日及期滿免除ノ期限ヲ除クノ外證書ノ賣買讓與紛失消滅汚染毀損其他ニ係ル事項ハ總テ整理公債條例ニ據ルモノトシ各種公債ノ取扱ヲ統一シテ日本銀行ヘ命任セシムルニ至レリ其命令書左ノ如シ

日本銀行

本月六日勅令第七十三號ヲ以テ諸公債證書條例改正相成候ニ付テハ是迄道府縣廳ニ於テ取扱ヒ來リタル事務ハ一切其行ヘ取扱ヲ命任候ニ付來ル十二月二十五日マテニ道廳府縣ヨリ債主簿其他必要ノ書類ヲ引受クヘシ但其取扱事務順序ヲ取調ヘ至急伺出ヘシ

明治二十一年十一月十三日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

是ニ於テ日本銀行ハ十二月五日右勅令ノ主旨ニ基キ諸公債事務取扱順序ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ經タルヲ以テ從來同行ニテ定メタル各公債取扱順序ハ消滅ニ歸セリ右諸公債事務取扱順序ハ六章九十五條ヨリ成リ日本銀行ニ於ケル各種公債取扱ニ關スル詳密ナル規定ヲ爲セリ然ルニ明治二十二年法律第四號ヲ以テ會計法ノ公布アリ明治二十三年四月一日ヨリ實施セラル

ルニ至レルヲ以テ從來公債取扱ニ關シ日本銀行ニ令達セル命令ト多少牴觸スル所アルノミナラス數多ノ命令ヲ概括シテ一命令ト爲スノ便利ヲ認メ明治二十三年三月二十九日大藏大臣ヨリ左ノ如ク日本銀行ヘ命令セリ

日本銀行

整理公債募集各種公債證書ノ管理及元利賦金仕拂並大藏省證券發行等ニ關シ從前命任セシ條件ヲ廢シ二十三年四月一日ヨリ更ニ別紙ノ條々ヲ命任ス

但從前ノ指令及認可シタル件ニシテ本命任ト牴觸セサルモノハ遵由ノ效アルヘシ

會計檢査院ヘ證明スル計算書及年度末ニ於テ仕拂未了ノ金額整理ノ件ハ追テ相達スヘシ

明治二十三年三月二十九日　　大藏大臣

（別紙）

第一條　整理公債證書大藏省證券及各種公債證書ノ取扱並ニ元利賦金仕拂事務ヲ取扱フヘシ

各種公債ハ左ノ十五種トス

一　無利子　舊公債
一　四分利付　新公債
一　六分利付　金札引換公債
一　五分利付　金祿公債
一　七分利付　金祿公債

一 七分利付 中山道鐵道公債
一 六分利付 金札引換無記名公債
一 五分利付 整理公債
一 五分利付 海軍公債
一 五分利付 鐵道費補充公債
一 八分利付 秩祿公債ノ未請求元利金
一 八分利付 舊神官配當祿公債ノ未請求元利金
一 一割利付 金祿公債ノ未請求元利金
一 大藏省證券

第二條 各種公債ニ關シタル法律命令等從前ノ公布ニ係ルモノハ勿論將來公布アルモノハ之ヲ遵守シ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 各種公債ニ關スル出納ハ他ノ業務ノ出納ト區別シ取扱フヘシ

但本條出納ニ關スル帳簿ヲ設置シ樣式ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 本命任書ニ依リ取扱ヲ委託スル其行ノ代理店ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ官報、五種以上ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

前項ニ依リ其行ト代理店トノ條約ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第五條 本命任書ニ依リ其行取扱ニ係ル整理公債證書大藏省證券ノ發行及各種公債ニ關スル現金竝ニ證書ニ付其行ハ一切ノ責任ヲ負ヒ損失ヲ生シタル場合ニハ之ヲ辨償スヘシ

但變災等ニ由リ其保管上避ケ得ヘカラサリシ事實アルトキハ之ヲ證明シ其處分ヲ請フコトヲ得

第六條 整理公債證書ヲ募集スルトキハ其應募額竝ニ保證金及拂込ノ金額（現金拂込ニ係ルモノト公債證書ヲ以テ應募ニ係ルモノトヲ區別ス）大藏省證券發行ニ係ル拂込元金ハ共ニ前日分ヲ翌日（日曜日ナレハ翌々日）國債局ニ報告スヘシ

整理公債證書ノ募集ヲ了シタルトキハ更ニ應募金額價格之氏名等又大藏省證券ノ發行ヲ了シタルトキハ引受申込金額及氏名ヲ詳記シタル總計報告表ヲ製シ三十日以內ニ之ヲ國債局ニ報告スヘシ

第七條 其行支店又ハ代理店ニ於テ整理公債應募保證金竝ニ拂込金額及大藏省證券發行ノ拂込元金ニシテ壹萬圓ニ滿ルトキハ之ヲ其地所在ノ金庫ニ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ又整理公債募集金ノ代リトシテ拂込タル公債證書ハ現證金ヲ以テ其行ニ送付セシムヘシ

整理公債募集ノトキ公債證書ヲ以テ應シタル證書ハ新證書發行ノ日マテ其行ニ預リ置クヘシ

第八條 整理公債應募保證金竝ニ拂込金大藏省證券發行元金ニ對シテ納入告知書ヲ受ケタルトキハ直ニ中央金庫ニ納付スヘシ

整理公債條例第六條第二項ニ據リ整理公債ヲ發行スルトキハ其發行ノ金額價格及日限等ヲ

定メ令達スヘキニ依リ該證書ニ對スル代リ金ハ前項同樣中央金庫ニ納付スヘシ

第九條　大藏省證券ノ發行ハ豫メ其時日ヲ定メ其行ヲシテ發行額利子歩合償金期限等ヲ廣告セシメ又ハ特ニ其行總裁ニ令シ引受ケ人ヘ賣渡サシムルニ由リ其賣却元金ハ第八條第一項ニ據リ中央金庫ニ納付スヘシ

第十條　整理公債應募拂込及大藏省證券拂込期限ノ末日マテニ拂込未濟ノモノアルトキハ其金額ヲ國債局ニ報告スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ猶拂込ナキモノモ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第十一條　整理公債發行ニ關スル諸證券ヘ證券印紙ノ貼付方及發行取扱上要スル處ノ諸般ノ書式ハ明治十九年十月中下付セシ樣式ニ據ルヘシ

第十二條　各種公債償還元金及利賦金竝ニ大藏省證券元利金ハ總テ會計法第十五條第二項ニ據リ現金前渡ヲ以テ受付スヘキニ由リ左ノ區別ニ依リ請求書ヲ當省ニ差出スヘシ

一　定期渡利子及賦金ハ仕拂期日ヨリ二十五日前

一　償還元金及之ニ對スル月割利子ハ仕拂時期ヨリ二十五日前

一　整理公債募集外レ保證金還付額ニ對スル利子竝ニ整理公債發行ノトキ利札ニ滿タサル月割利子ハ前項ニ同シ

一　大藏省證券ノ元利金ハ滿期償還ノ日ヨリ二十五日前

第十三條　各種公債元金ノ仕拂基金ハ歲計豫算ニ據リ償還スルモノト整理償還ニ係ルモノ及大藏省證券ノ元金ハ總テ區別ヲナシ報告書又ハ計算書等別冊ヲ以テ差出スヘシ

第十四條　各種公債及大藏省證券ニ關スル收入支出ニ對シテハ明治二十三年(三月)勅令第二十號ニ依リ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第十五條　各年度仕拂基金ニシテ當該年度三月三十一日マテ債主未請求ノ爲メ仕拂ヲ了セサルモノハ翌年度五月三十一日限リ仕拂未濟報告書ヲ國債局ニ差出スヘシ

第十六條　前條仕拂未濟ノ元利賦金ニ對シ返納告知書ヲ交付スヘキニ由リ其金額ハ之ヲ中央金庫ニ還納スヘシ

第十七條　整理公債償還金ニシテ當該年度三月三十一日マテ債主未請求ノ爲メ仕拂ヲ了セサルモノハ翌年度四月二十日ヲ限リ仕拂未濟報告書ヲ國債局ニ差出スヘシ

第十八條　前年度仕拂未濟金ニシテ後年度ニ於テ仕拂フヘキモノハ年度開始後直ニ其年度內ニ於テ豫メ仕拂フヘキ見込額ヲ以テ請求書ヲ當省ヘ差出スヘシ

第十九條　各種公債元利賦金及大藏省證券元利仕拂竝ニ整理公債大藏省證券發行手數料ハ左ノ割合ヲ以テ支給スルニ由リ支拂手數料ハ毎月仕拂計算書ヲ差出シタル後發行手數料ハ發行ヲ終リタル後請求スヘシ

一　整理公債證書發行ノトキハ之ニ對スル拂込高ノ千分ノ三

但條例第六條第二項ニ據リ發行スルモノハ發行額ノ百分ノ二ヲ支給ス

二　元金及賦金支拂ノトキハ舊公債賦金ハ支拂高千分ノ三其他ノ公債ハ支拂高千分ノ一

三　利子支拂ノトキハ支拂高千分ノ三

四　大藏省證券ハ發行及元利金ノ仕拂トヲ合セテ元利金支拂高萬分ノ五

五　拂濟證書證券及利賦札ノ遞送費竝ニ整理償還ニ關スル官報及新聞廣告料ハ實費

第二十條　現在ノ六分以上利付公債ト交換シ整理公債證書ヲ發行スルトキハ前條第一項ノ手數料ヲ給シ第二項ノ手數料ヲ給セス

第二十一條　仕拂濟證書證券及利賦札ハ還納表ヲ添ヘ主務ノ物品會計官吏ニ還納シ其證明ヲ得毎月仕拂計算書ノ證憑ニ充ツヘシ

第二十二條　整理公債募集金及大藏省證券元金ノ收入ニ對シ其行ハ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以內ニ下檢査ヲ受クル爲メ當省ヘ差出スヘシ

第二十三條　各種公債元利賦金及大藏省證券元利金仕拂ニ對シ其行ハ毎月一回仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月末日限リ下檢査ヲ受クル爲メ之ヲ當省ニ差出スヘシ

前項計算書ヲ差出シタル後各代理店ヨリ送付シ來ル仕拂濟證書證券及利賦札ノ廻著スルカ又ハ事故アリ翌々月ニ渉ルモノアルトキハ何月分追加トシテ計算書ヲ差出スヘシ

第二十四條　各種公債元利賦金ニシテ期滿免除ノ期限ヲ過キタルトキハ其公債ノ種類金額及渡期月等ヲ期限經過後三十日以內ニ當省ニ報告スヘシ

第二十五條　明治十九年九月二十一日同二十一年十二月五日附ヲ以テ認可シタル各公債事務順序及大藏省證券發行竝ニ元利金拂渡事務順序ニシテ本任命書ノ主旨ニ據リ增補改正ヲ要スヘキ條件ハ其行ニ於テ取調更ニ認可ヲ經ヘシ

尋テ同年九月十五日右命令中左ノ如ク改正セリ

日本銀行

本年三月二十九日及四月十五日附ヲ以テ整理公債募集各種公債證書ノ管理元利金仕拂及大藏省證券發行等ニ係ル取扱方及命任候處右條項中別紙ノ通改正候條此段相達ス

明治二十三年九月十五日

大藏大臣　伯爵松方正義

（別紙）

第十二條ノ第三項ヲ左ノ通リ改ム

第三　整理公債募集外レ保證金ニ對スル利子ハ前項ニ同シ

第十五條「當該年度三月二十一日」トアルヲ「翌年度六月三十日」ニ「五月三十一日」トアルヲ「八月二十日」ニ改ム

第十六條「返納」トアルヲ「納入」ニ改ム

第十八條ヲ左ノ通リ改ム

第十八條　第十六條ノ仕拂未濟金ニシテ翌年度ニ於テ仕拂フヘキモノハ同年七月一日後又第十七條ノ仕拂未濟金ニシテ翌年後ニ於テ仕拂フヘキモノハ同年度四月一日後直ニ仕拂フヘキ見込額ヲ以テ請求書ヲ當省ヘ差出スヘシ

第二十三條ノ第二項「何月分追加」以下ヲ削除シ「該月ノ計算書ニ編入スヘシ」ト改ム

前掲命令書ニ據レハ公債ノ募集及大藏省證券ノ發行ニ對シ其收入金壹萬圓ニ達スルトキハ日本銀行ノ支店又ハ代理店ハ之ヲ其地所在ノ金庫ニ預入レ國庫ヘ收入ヲ要スルトキハ日本銀行ニ對シ納入告知書ヲ發シ中央金庫ヘ納付セシムルノ規定ナリト雖モ大藏省訓令第百三十四號ヲ以テ爲替納金取扱順序ヲ定メタル結果多少其手續ヲ改正セサルヘカラス又公債整理金部支出公債償

還仕拂未濟金返納ノ手續ハ命任書中ニ規定スルヲ便宜トナスカ故ニ明治二十三年十月二十九日之カ改正ヲ令達セリ即左ノ如シ

日本銀行

整理公債募集各種公債證書ノ管理及元利賦金仕拂竝大藏省證券發行ニ關シ本年三月二十九日下付シタル命任書中第七條第八條第十六條第十七條別紙ノ通リ改正シ第十八條第十六條トアルヲ第十五條ト、第十七條トアルヲ第十六條ト修正ス

明治二十三年十月二十九日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

（別紙）

第七條　整理公債募集及大藏省證券發行ニ係ル收入金ニ對シ其行ヘ納入告知書ヲ發スルトキハ支店及代理店ニ係ル分ハ各地ノ金庫ニ爲替納金ノ請求ヲナシ該金庫ノ領收證書ハ本店ニ之ヲ集合シ中央金庫ニ納付スヘシ

整理公債條例第六條第二項ニ依リ整理公債ヲ發行スルトキハ其發行ノ金額價格及日限ヲ定メ令達スヘシ該發行ニ對シ納入告知書ヲ發スルトキハ直ニ中央金庫ニ納付スヘシ

第八條　整理公債募集ノ時公債證書ヲ以テ應シタルモノハ支店及代理店ニ係ル分ハ現證書ヲ以テ其行ヘ送付セシメ本店ニ係ル分ト共ニ新證書發行ノ日マテ其行ニ預リ置クヘシ

第十六條　整理公債金部支出公債償還金ニシテ當該年度三月三十一日マテ債主請求ノ爲メ仕拂ヲ了セサルモノハ翌年度四月二十日ヲ限リ仕拂未濟報告書ヲ國債局ニ差出スヘシ

第十七條　第十五條仕拂未濟金ニ對シテハ納入告知書第十六條仕拂未濟金ニ對シテハ返納告

知書ヲ交付スヘキニヨリ其金額ハ之ヲ中央金庫ニ納付スヘシ

右ノ如ク命令改正ノ結果曩ノ命任書第九條中ニ規定セル條項ハ自カラ修正セサルヘカラサルニヨリ同年十一月一日大藏大臣ヨリ命任書第九條中第八條第一項トアルハ第七條第二項ト修正スル旨ヲ令達セリ

尋テ明治二十六年十二月ニ至リ大藏大臣ハ右諸公債取扱ニ關スル命任書中改正ノ必要ヲ認メ左ノ如ク日本銀行ヘ令達セリ

日本銀行

曩ニ其行ニ下付シタル命任書中左ノ通リ改正追加ス

但明治二十七年一月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十六年十二月二十七日　　大藏大臣

明治二十三年三月二十九日下付命任書第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第五條ノ二　各種公債元利金及大藏省證券利子ハ會計法第十五條第二項ニ據リ現金前渡ヲ以テ其行ニ交付スヘシ

同上命任書第七條第一項中「納入告知書ヲ」ノ下ニ「（大藏省證券發行收入金ニ對シテハ納入令達書ヲ）」ノ割註ヲ加フ

同上命任書第八條及明治二十六年三月二十八日下付命任書第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條ノ二　（明治二十六年三月二十八日下付命任書ニハ「第八條ノ二」ヲ「第七條ノ二」トナス）國債證券及大藏省證券發行ノ際ハ其發行（明治二十六年三月二十八日下付命任書ニハ「國債證券」以下「其發行」ニ至ル十八字ヲ「鐵道公債募集ノ際ハ其募集」トナス）額ニ相當スル證券ヲ其行ヘ下渡スヘキニ付債主ヘ交付シタルトキハ本店ノ分ハ交付ノ翌日取扱店ノ分ハ交付ノ日ヨリ

十日以内ニ其額(證券種類ヲ區分シ)ヲ國債局ニ報告スヘシ

明治二十三年三月二十九日下付命任書第九條刪除

同上命任書第十二條第一項中「總テ會計法」ヨリ「交付スヘキニ由リ」ニ至ル三十字ヲ刪除ス

同上命任書第十四條中「大藏省證券」ノ下ニ「發行收入金竝ニ利子」ノ九字ヲ追加ス

同上命任書第十五條及明治二十六年三月二十八日下付命任書第十一條中「六月三十日」ヲ「七月三十一日」ニ「八月二十日」ヲ「九月二十日」ニ改ム

明治二十三年三月二十九日下付命任書第十八條及明治二十六年三月二十八日下付命任書第十三條中「七月一日」ヲ「八月一日」ト改ム

明治二十三年三月二十九日下付命任書第二十三條中大藏省證券ノ下「元」ノ字ヲ刪除シ同條第二項及二十六年三月二十八日命任書第十六條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但年度整理ノ末月(即チ翌年度七月)ノ計算書ニ本項ノ場合アルトキハ追加計算書ヲ差出スヘシ

明治二十三年三月二十九日下付命任書第二十三條及二十六年三月二十八日下付命任書第十六條ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十三條ノ二 (明治二十六年三月二十八日下付命任書ニ「第十六條ノ二」トナス)國債證券利賦札又ハ大藏省證券(明治二十六年三月二十八日下付命任書ニ於テハ「國債證券利賦札又ハ大藏省證券」ノ十四字ヲ「鐵道公債ノ證券」ノ十一字トナス)紛失ノ屆出アルトキハ其金額記番號及種類ヲ區別シ國債局ニ報告スヘシ

同上命任書第二十一條及明治二十六年三月二十八日命任書第十四條ヲ左ノ通改正ス

國債證券及大藏省證券(明治二十六年三月二十八日下付命任書ニ於テハ「國債證券及大藏省證券」ノ十字ヲ「鐵道公債元利金」ノ七字トナス)仕拂ニ對シ其

行ハ報告書ヲ調製シ仕拂濟證券及利札ト其還納表ヲ添付シ前月分仕拂高ヲ翌月二十日限國債局ニ報告スヘシ

前項還納表ハ主務物品會計官吏ノ證明ヲ得テ仕拂計算書ノ證憑ニ充ツヘシ

明治二十三年四月二十六日下付命任書第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ二紙幣交換濟ノモノハ其額(種類區分)ヲ政府紙幣ハ毎月二回國債局ニ鎖店銀行紙幣ハ毎月一回官房第三課ニ報告スヘシ

明治二十三年四月二十六日下付命任書第六條ヲ左ノ通改正ス

交換濟紙幣ハ(其政府發行ニ係ルモノハ大藏卿ノ印章若クハ中央ノ數位ヲ打拔キ鎖店銀行發行ニ係ルモノハ其表面及裏面ニ廢棄ノ印ヲ押捺シタル上)其種類金額枚數ヲ區分シタル還納表ヲ添付シ前月ノ交換高ヲ政府紙幣ハ翌月末日限リ國債局ニ鎖店銀行紙幣ハ翌月十日限リ大藏省官房第三課ニ報告スヘシ

前項還納表ハ主務物品會計官吏ノ證明ヲ得テ仕拂計算書ノ證憑ニ充ツヘシ

以上敍述シタル如ク從來ノ諸公債事務取扱方ヲ統一シテ日本銀行ニ命任シタルハ明治二十三年三月ニシテ爾來多少ノ修正ヲ加ヘ以テ其取扱ニ遺憾ナカラシメタリト雖モ鐵道軍事事業等ノ諸公債相繼テ發行セラレ其他國債證券ノ買入銷却亡失證券ノ取扱ニ關シ數次命令セラレタル爲メ再ヒ之カ命令ヲ統一スルノ必要ヲ認メ明治三十二年三月二十九日左ノ如ク命令ヲ改定シ從前ノ命令書中抵觸セルモノハ盡ク之ヲ廢止セリ

日本銀行

內國ニ於ケル國債事務取扱方ニ關シ別紙ノ條々ヲ命任ス

明治三十二年三月二十九日　　大藏大臣

（別紙）

第一條　其行ハ法律命令ヲ遵奉シ公債及大藏省證券ニ關スル事務竝ニ預金保管金及供託金利子仕拂ニ關スル事務ヲ取扱フヘシ

第二條　內國樞要ノ地ニシテ其行本支店若クハ出張所ノ設ケナキ所ニ於テハ他ノ銀行ニ委託シ代理店トシテ前條ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

代理店ノ廢置變更及代理店トノ契約ハ本大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

其行出張所及代理店ニ於テハ土地ノ狀況ニ由リ本大臣ノ認可ヲ經テ或ル一部ノ事務ヲ限リ取扱ヲ爲スコトヲ得

第三條　代理店ノ廢置變更其他ノ異動ハ官報及二種以上ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ前條第三項ノ場合亦同シ

第四條　其行ハ本命任ニ因リ取扱フ處ノ公債及大藏省證券ニ屬スル現金及該書類竝ニ預金保管金及供託金利子ニ屬スル現金ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ政府ノ損失ヲ生シタル場合ニハ之ヲ辨償スヘシ但避クヘカラサリシ事實アルトキハ之ヲ證明シテ處分ヲ請フコトヲ得

第五條　公債ノ募集ハ本大臣ノ告示ニ據リ整理公債條例第六條第二項ニ據ル公債證書ノ發行ハ本大臣ノ令達ニ基キ之ヲ取扱フヘシ

第六條　公債ヲ募集スルトキハ各取扱店ニ於テ申込ヲ受ケタル應募額ヲ每日理財局長ニ報告シ應募申込期限後三十日以內ニ應募總額應募價格及口數等ヲ本大臣ニ報告スヘシ

募入決定ハ本大臣ノ令達ニ基キ之ヲ各應募者ニ告知スヘシ

第七條　整理公債取扱順序第八條ニ據リ保證金還付ニ對スル利子ノ拂渡ヲ要スルトキハ其支出ヲ當省支拂命令官ニ請求スヘシ

第八條　公債ノ應募拂込收入額ハ每日各支店出張所及代理店ヲシテ本店ニ報告セシメ其到達ニ從ヒ本店取扱ノ分ト併セテ每日之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

左ニ揭クル事項ハ一箇月每ニ取調翌月末日限本大臣ニ報告スヘシ

一　應募保證金還付額及之ニ對スル利子仕拂額

二　延滯利子徵收額

三　應募拂込延滯ニ由リ無效ト爲リタル應募額及其失權ニ屬スル拂込金額

第九條　大藏省證券ヲ發行スルトキハ本大臣ノ令達ニ基キ之ヲ取扱ヒ其引受申込額引受價格及口數ヲ每日本大臣ニ報告スヘシ但特ニ發行價格及引受人ヲ指定シタルトキハ報告ヲ要セス

第十條　公債募集金整理公債條例第六條第二項ニ據リ證明スヘキ國債ノ募集ニ關スル出納ノ計算書ハ左ノ期限內ニ之ヲ當省ニ提出スヘシ

一　出納計算書ハ年度經過後二箇月以內

二　公債募集金出納內譯書ハ募集ヲ終リタル日ヨリ三十日以內

三　大藏省證券代リ金內譯書ハ翌月十五日以內

第十二條　公債ノ應募者ニ交付スヘキ假證書及大藏省證券引受人ニ交付スヘキ證券ハ豫メ所

要ノ額面種類及枚數ヲ概算シテ其交付ヲ本大臣ニ請求スヘシ

前項概算ヲ以テ交付ヲ受ケタル假證書及大藏省證券ハ毎月其受拂高ヲ精算シ翌月末日限本大臣ニ報告シ不用ニ屬スル假證書及大藏省證券ハ還納表ヲ添ヘ理財局物品會計官吏ニ還納スヘシ

第十三條　公債ノ應募者ニ交付スヘキ公債證書及整理公債條例第六條第二項ニ據リ交付ヲ受クヘキ公債證書ハ其額面種類、枚數及記名、無記名ノ區別ヲ詳記シテ之ヲ本大臣ニ請求スヘシ

月割利札及繼足利札亦之ニ準ス

大藏省證券ノ發行ニシテ其額面種類及枚數共ニ確定シ概算請求ヲ必要トセサル場合ニハ前項ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條　公債償還ノ抽籤ヲ執行シタルトキハ其翌日ヨリ五日以內ニ抽籤調書ヲ添ヘ抽籤ノ結果ヲ本大臣ニ報告スヘシ但抽籤ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條　國債證券ノ買入銷却ハ本大臣ノ令達ニ基キ之ヲ取扱ヒ其買入證券ノ名稱、額面總額買入價格及買入年月日ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第十六條　公債元利金ノ仕拂基金ハ左ノ期限ニ從ヒ所要金額ヲ算定シ各目ニ區分シテ現金ノ前渡ヲ當省仕拂命令官ニ請求スヘシ大藏省證券ノ利子亦同シ

一　相當年度所屬ノ元利金ニシテ仕拂期ノ定メアルモノハ其仕拂期前二十五日以內

二　相當年度所屬ノ元利金ニシテ隨時仕拂ノモノハ其仕拂ヲ要スルニ至リタルトキ

三　既往年度所屬ノ元利金ニシテ追拂ヲ要スルモノハ毎年度八月一日後二十五日以內

前項ノ外仕拂基金ニ不足ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ臨時請求ノ手續ヲ爲スヘシ

大藏省證券ニ對スル償還元金ノ仕拂基金ハ前各項ニ準シ本大臣ニ請求スヘシ

預金保管金及供託金利子ノ仕拂基金ハ理財局長ノ通知額ニ因リ隨時現金ノ前渡ヲ當省仕拂命令官ニ請求スヘシ

第十七條　現金前渡ヲ受ケタル公債元利金各目ノ仕拂基金ハ仕拂ノ都合ニ由リ彼此振換ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ其科目金額及事由ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第十八條　公債元利金竝ニ大藏省證券、預金保管金及供託金利子ノ仕拂基金ハ各年度毎ニ區分整理シ毎月其仕拂濟額ヲ精算シ翌月末日限科目及金額ヲ詳記シテ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

大藏省證券ニ對スル償還元金ノ仕拂濟額ハ前項ニ準シ別ニ之ヲ報告スヘシ

第十九條　公債元利金及大藏省證券利子ニシテ翌年度七月三十一日迄ニ仕拂ヲ了セサリシ金額アルトキハ八月二十日限リ科目及金額ヲ詳記シテ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

預金保管金及供託金利子ノ其年度三月三十一日マテニ仕拂ヲ了セサリシモノハ四月二十日限前項ニ準シ報告スヘシ

第二十條　公債及大藏省證券ノ元利金竝ニ預金、保管金、供託金ノ利子時效ニ罹リ仕拂ヲ要セサルニ至リタルモノアルトキハ直チニ其科目金額相當仕拂期及時效完成ノ年月日其他時效期間ノ計算ニ必要ナル事項ヲ詳記シテ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第二十一條　公債及大藏省證券元利金竝ニ預金保管金及供託金利子仕拂額ノ內誤拂過渡ノモノアルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ追徵シ直チニ仕拂基金ニ戻入スヘシ若シ年度後ノ追徵

ニ係リ戻入スヘキ相當仕拂基金ナキ場合ハ其科目、金額及事由ヲ本大臣ニ申出テ納入告知書若クハ納入令達書ニ依リ之ヲ中央金庫ニ納付スヘシ但シ追徵シ難キモノアルトキハ事由ヲ詳記シテ指揮ヲ請フヘシ

第二十二條　公債及大藏省證券元利金竝ニ預金、保管金及供託金利子仕拂基金ノ內不用ニ歸シタルモノアルトキハ其科目、金額及事由ヲ本大臣ニ申出テ納入スヘシ

第二十三條　明治二十三年勅令第二十號第一條ニ據リ證明スヘキ國債元利金仕拂計算書ハ一箇月每ニ整理シ其月經過後五箇月以內ニ之ヲ當省ニ提出スヘシ

第二十四條　元利金仕拂濟ノ公債證書及利賦札ハ每一箇月分ヲ取纒メ之ニ仕拂濟ノ印ヲ押捺シ前條仕拂計算書提出ノ前ニ於テ還納表二通ヲ添ヘ理財局物品會計官吏ニ還納スヘシ但買入銷却ノ國債證券ハ之ニ買入銷却濟ノ印ヲ押捺シ其都度本條ニ據リ還納ノ手續ヲ爲スヘシ前項還納表ノ內一通ハ物品會計官吏ノ證明ヲ得テ仕拂計算書ノ證憑ニ充ツヘシ

第二十五條　本證書ト引換濟ノ公債假證書及元金支拂濟ノ大藏省證券ハ每一箇月分ヲ取纒メ之ニ引換若クハ仕拂濟ノ印ヲ押捺シ翌月ヨリ二箇月以內ニ還納表ヲ添ヘ理財局物品會計官吏ニ還納スヘシ

第二十六條　其行ハ本店ニ公債證書臺帳ヲ備ヘ置キ各種公債證書每ニ區分シ發行額、額面、種類、枚數、記號、番號及發行年月日其他公債ノ償還及證書ノ亡紛失等ニ係ル異動ヲ登記シ其顚末ヲ明ニスヘシ大藏省證券ニ就テモ之ニ準ス

第二十七條　公債證書假證書及利賦札亡紛失ノ屆出ヲ爲ス者アルトキハ其都度證書ノ名稱額面種類、枚數、記號、番號、屆出人ノ氏名及屆出年月日ヲ本大臣ニ報告スヘシ其發見ノトキ及其證書若クハ利賦札ニ對スル元利金時效ニ罹リ仕拂ヲ要セサルニ至リタルトキ亦同シ

第二十八條　左ニ掲クル請求書ヲ接受シタルトキハ直チニ之ヲ調査シ請求表ヲ添ヘ當省ニ提出スヘシ但意見アルトキハ之ヲ副申スヘシ

一　公債證書ノ記名、無記名、變換及枚數變更ノ請求書

二　公債證書假證書及利賦札ノ汚染毀損引換ノ請求書

三　公債證書及利賦札ノ亡紛失ニ對シ本證書交付ノ請求書

前項第一及第二ノ請求書ヲ提出スルトキハ同時ニ還納表ヲ添ヘ其證書若クハ利賦札ヲ理財局物品會計官吏ニ還納スヘシ

第二十九條　前條第一項第三ニ掲クル請求ニシテ無記名證書ノ消滅ニ係ルトキハ左ノ期間內ニ同記番號ノ利札ヲ以テ利子ノ請求ヲスルモノナキヤ否ヤヲ調査シ其仕拂請求者ナキコトヲ認メタル上期限經過後二箇月以內ニ前條提出ノ手續ヲ爲スヘシ無記名證書ノ利札消滅ニ對スル代リ利札ノ交付若クハ利子ノ仕拂ヲ請求スル者アルトキ亦之ニ準ス

一　消滅屆出證書附屬ノ利札總テ利子仕拂期ニ達セサルモノナルトキハ屆出後ニ屬スル最近利子仕拂期ヨリ次回ノ利子仕拂期終了マテノ期間

二　消滅屆出證書附屬ノ利札中現ニ利子仕拂期ニ達シタルモノアルトキハ現仕拂期ヨリ次回ノ利子仕拂期結了マテノ期間

三　消滅屆出證書附屬ノ利札中已ニ利子仕拂期ヲ經過シタルモノアルトキハ屆出ノ日ヨリ

後第二回ノ利子仕拂期結了マテノ期間

第三十條　大藏省證券汚染毀損ノ爲メ引換交付ヲ要スルモノアルトキハ第二十八條ニ準シ請求及還納ノ手續ヲ爲スヘシ

亡紛失ニ係ル大藏省證券ニ對スル元利金ヲ仕拂ヒタルトキハ其都度額面、種類、仕拂期日、記號番號及債權者ノ氏名等ヲ詳記シテ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第三十一條　記名補足紙ハ概算ヲ以テ之ヲ本大臣ニ請求シ不用ニ屬シタルモノアルトキハ精算書及還納表ヲ添ヘ理財局物品會計官吏ニ還納スヘシ

第三十二條　其行ハ法律命令ノ範圍內ニ於テ公債及大藏省證券ニ關スル事務並ニ預金、保管金及供託金利子仕拂ニ關スル事務取扱ノ規程ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

前項ノ外事務取扱上ニ要スル帳簿及書類ノ樣式ヲ定メ若クハ之ヲ改正シタルトキハ之ヲ本大臣ニ屆出ツヘシ

第三十三條　本命令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

左ニ揭クル命令ハ本命令施行ノ日ヨリ廢止ス

一　明治二十三年三月二十九日命任整理公債募集各種公債證書ノ管理及元利賦金仕拂並ニ大藏省證券發行等ニ關スル取扱方中第十九條ヲ除ク外各條項

二　明治二十六年三月二十八日命任鐵道公債ノ募集證書ノ取扱及元利金仕拂事務取扱方

三　明治二十六年十月五日命任預金、保管金及供託金ノ利子仕拂ニ關スル事務取扱方

四　明治二十七年八月十七日、同年十一月二十六日、同二十八年十月十五日及同二十九年三月

四日命任軍事公債ニ關スル事務取扱方

五　明治三十年三月三十日命任事業公債ニ關スル事務取扱方

六　明治三十年四月九日第八四〇號達公債證書消滅代リ交付請求ニ關スル取扱方

七　明治三十一年四月六日第七四八號達公債證書記名無記名變換諸取扱方

八　明治三十一年六月三日第一二八四號達國債證券買入銷却ニ關スル取扱方

而シテ明治二十一年十二月、日本銀行ニ於テ創定セル各種公債事務順序ハ爾來全部又ハ一部ノ改正ヲ經タルコト殆ト數フルニ遑ナカラントス而シテ以上記述シタル所ノ外日本銀行取扱ニカヽル公債事務ニ關シテハ宜ク國債ノ部ヲ參照スヘシ

第四款　通貨事務

政府カ日本銀行ヲシテ通貨ニ關スル事務ノ取扱ヲ爲サシメタルハ明治十六年五月二十九日內外人民ヨリ造幣ノ爲メ大阪造幣局及東京同局出張所ニ輸入シタル金銀地金ノ成貨拂渡事務ヲ囑託セシヲ以テ嚆矢トス

爾來日本銀行ヲシテ或ハ損傷紙幣ノ引換、舊金銀貨幣ノ引換等ノ事務ヲ命任スルニ至レリ明治十六年五月二十九日大藏卿松方正義ハ日本銀行ニ令達シテ內外人民ヨリ造幣ノ爲メ大阪造幣局及東京同出張所ニ輸入シタル金銀地金ノ成貨拂渡證書面ニ照シ大阪又ハ神戶ニアル日本銀行支店若クハ代理店ニ於テ期日ニ至リ證書所持人ニ拂渡スコトヽセリ其令達書左ノ如シ

日本銀行

右ハ内外人民ヨリ造幣ノ爲メ大阪造幣局及東京同局出張所ニ輸入シタル金銀地金ノ成貨拂渡ノコトヲ取扱ハシムルニ付左ノ條款ヲ心得ヘシ

第一條　大阪造幣局ニ輸入シタル地金ノ成貨ハ造幣局ヨリ地金輸入人ニ交付シタル所ノ貨幣拂渡證書面ニ照シ大阪又ハ神戸ニアル日本銀行支店(若クハ代理店)ニ於テ期日ニ至リ證書所持人ニ拂渡スヘシ

第二條　東京造幣局出張所ニ輸入シタル地金ノ成貨ハ第一條手續ヲ以テ東京日本銀行本店又ハ横濱支店若クハ代理店)ニテ拂渡スヘシ

第三條　造幣局或ハ出張所ニ於テ貨幣拂渡證書ヲ地金輸入人ニ交付シタルトキハ即日日本銀行本店或ハ支店ニ通知スヘシ日本銀行ニ於テハ其通知ヲ得タル即日若クハ翌日國債局或ハ大阪出納支局ニ就キ其通知書面ノ成貨定期預ヲ請求スヘシ

第四條　定期預ノ成貨ハ造幣局或ハ出張所ヨリ發行シタル貨幣拂渡證書ヲ國債局或ハ大阪出納支局ニ返納シテ決算スヘシ

第五條　貨幣拂渡期日ニ先チ割引前渡ヲ請求スル者アルトキハ造幣規則第十條ノ割合ヲ以テ割引前渡ヲ爲スヘシ

第六條　割引ノ利子ハ悉皆國債局ニ納付スヘシ

第七條　成貨拂渡手數料トシテ成貨千圓ニ付通貨壹圓ノ割ヲ以テ毎年六月十二月兩度ニ造幣局ヨリ日本銀行ニ下付スヘシ

第八條　神戸又ハ横濱ニ於テ拂渡ノ成貨運搬費ハ造幣局ヨリ日本銀行ニ下付スヘシ

第九條　成貨拂渡ニ關係スル帳簿ハ國債造幣兩局及大阪出納支局官吏時々檢査スル事アルヘシ

第十條　貨幣拂渡證書期日ニ至リ拂渡ヲ請求スルモノナキトキハ其翌日之ヲ國債造幣兩局及大阪出納支局ニ屆出ツヘシ

〔第十一條　成貨ヲ國債局或ハ大阪出納支局ヨリ受取リタル後ハ異變アリトモ其損失ハ日本銀行ノ負擔タルヘシ

但非常兵亂ノ如キハ例外ノ處置アルヘシ

第十二條　此ノ命令ハ本年八月十六日ヨリ施行スヘシ尤大藏省ノ都合ニ依リテハ何時ニテモ改正若シクハ停止スヘシ

右條々堅ク遵守スヘシ

明治十六年五月二十九日

大藏卿　松方正義

而シテ右命令書ハ同年八月六日ヲ以テ左ノ如ク改正セラレタリ

日本銀行

成貨取扱方ニ付本年五月相渡置候命令書中第三條及第四條別紙ノ通改正候條此旨相達候事

命令書中改正

第三條　造幣局中或ハ出張所ニ於テ貨幣拂渡證書ヲ地金輸入人ニ交付シタルトキハ即日日本銀行本店或ハ支店ニ通知スヘキニ付日本銀行ニ於テハ其通知書ニ照シ代リ貨幣ヲ拂渡スヘ

シ尤可拂渡貨幣ハ豫メ其金額ヲ定メ成貨拂渡元金トシテ國債局或ハ大阪出納局ヨリ下渡スヘシ

第四條　成貨拂渡元金ハ造幣局或ハ出張所ヨリ發行シタル貨幣拂渡證書ヲ國債局或ハ大阪出納支局ニ返納シテ決算スヘシ

明治十六年八月六日　　大藏卿　松方正義

尋テ明治十六年八月七日、日本銀行ハ前記命令書ニ基キ日本銀行本店及大阪支店トノ間貨幣拂渡取扱手續ヲ定メ八月八日大藏卿ノ認可ヲ經タリ

是ヨリ曩キ明治十五年八月太政官布告第四十五號ヲ以テ從來發行ノ政府紙幣半圓、貳拾錢ノ損傷セルモノ交換ノ爲メ五拾錢、貳拾錢ノ改造紙幣ヲ發行スル旨ヲ公布シ茲ニ損傷紙幣交換ノ途啓カレシヲ以テ日本銀行ハ明治十六年九月二十日右損傷紙幣引換事務取扱ヲ命セラレンコトヲ政府ヘ申請セリ政府ハ十月二日之ヲ許可シ明治十七年二月一日損傷紙幣交換取扱順序ヲ令達セリ

損壞紙幣交換ノ儀願

曾テ御省ノ御布達ニ基キ當銀行ニ於テ營業上ノ都合モ有之一般人民之望ミニ應シ損傷紙幣引換方ノ事務取扱致度候間御許可被成下度此段奉願候也

明治十六年九月二十日　　日本銀行總裁代理
副總裁　富田鐵之助

大藏卿　松方正義殿

順ノ趣聞屆候條損傷札交換規則ニ照準引換方取扱可申尤手數料トシテ交換高千圓ニ付貳圓ノ割ヲ以テ支給候間人民ヨリ手數等受取候儀ハ一切不相成候事

但交換規則及ヒ損札取扱方ノ儀ハ出納局長ヨリ可相達候事

明治十六年十月二日　　大藏卿　松方正義

日本銀行

國庫金取扱所ニ於テ損傷紙幣交換取扱申候條別紙取扱順序ニ照準本年三月一日ヨリ實施可致此旨相達候事

明治十七年二月一日　　大藏卿　松方正義

損傷紙幣交換取扱順序

第一條　損傷紙幣ノ交換ヲ請求スルモノアルトキハ其目前ニ於テ檢査ヲ爲シ交換規則ニ據リ交換スヘシ

第二條　贋造及變造紙幣ヲ發見スルトキハ明治九年四月太政官第五十七號同年五月當省甲第十二號達ニ照準シ見本紙未整紛失紙幣ヲ發見スルトキハ同五年九月太政官第二百八十一號同八年三月當省甲第九號同九年四月太政官第五十七號同十一年一月當省甲第二號達ニ照準シ警察署若クハ警察分署ヘ屆出ヘシ

第三條　損傷紙幣交換代金ハ預金ノ中ヨリ同額ノ紙幣ヲ拂出交換請求人ヘ相渡シ損傷紙幣ハ預金中ヘ收入スヘシ舊損傷紙幣ハ預金ヘ收入スルト雖モ其現品ハ普通紙幣ト混同スヘカラ

ス

第四條　損傷紙幣ハ預金ノ中ニ於テ交換ヲ爲スト雖モ金員ニ增減ナキモノトス然レトモ日計表（國庫納金取扱順序第九圖）差立ノ都度損傷紙幣在高報告（第一圖）ヲ添付スヘシ

第五條　交換濟ノ損傷紙幣ハ打拔手續書ニ照準每日其印章ヲ打拔スヘシ

第六條　印章打拔濟ノ紙幣ハ出納局ヘ送納ヲ命スヘキニ付其令達ヲ得ルトキハ三日以內ニ荷造ヲナシ之ヲ出納局ヘ送納スヘシ而シテ差立タル當日送納書（第二圖）ヲ作リ同局ヘ送付スヘシ

第七條　送納スヘキ打拔濟ノ紙幣ハ通常物品ノ取扱ヲ以出納局用物トシテ海陸便宜ニ同送スヘシ但打拔濟ノ印章ト紙幣トハ別封ニ仕立符號ヲ付シ日ヲ隔テヽ（譬ヘハ紙幣ヲ甲日ニ差立タルトキハ印章ハ乙日ニ差立ツルカ如シ）同送スヘシ

第八條　印章打拔濟ノ損傷紙幣到著スルトキハ出納局鑑定人ヲシテ鑑定セシムヘキニヨリ日本銀行本店ヨリ立會人ヲ差出スヘシ

第九條　出納局ニ於テ鑑定ノ際贋造及見本紙幣未整紛失紙幣其他半額ニ交換スヘキモノヲ見誤リ全額ニテ交換ヲナシタルモノ發見又ハ員數不足スルトキハ總テ日本銀行ヨリ辨償スヘシ

第十條　辨償スル紙幣ハ總ヘテ同種類ヲ以テスヘシ萬一同種類紙幣ニテ辨償シ能ハサルトキハ帖簿計表ヲ式ノ如ク更正シテ他ノ種類ヲ以テスヘシ

第十一條　損傷紙幣交換ノ爲メ仕用スヘキ帖簿計表左ノ如シ

損傷紙幣種類別差引簿　第三圖

同　一旬受拂報告表　第四圖

同　受拂勘定書　第五圖

第十二條　損傷紙幣種類別差引簿ハ交換ヲ爲シタル每ニ各種類ヲ分チ之ヲ記入シ其殘高ヲ第四條ノ在高報告ヲナスヘシ

第十三條　損傷紙幣一旬受拂報告表ハ每旬損傷紙幣種類別差引簿ノ受拂高及打拔濟ヲ區分シ翌旬二日以內ニ日本銀行本店ヲ經由シテ出納局ヘ差出スヘシ

第十四條　損傷紙幣受拂勘定書ハ一週年（其年七月一日ヨリ翌年六月三十日マテ）ヲ一期トシ每期受拂額ヲ證明決算スルモノナレハ二通ヲ作リ其期限後十五日以內ニ日本銀行ヘ送致シ本店ハ之ヲ得テ奧書證印シ其到著ノ日ヨリ十五日以內ニ出納局ヘ差出スヘシ出納局ハ審査ノ上一通ハ留メ置一通ハ奧書證印シテ返戻スヘシ日本銀行ハ之ヲ得テ勘定ヲ決定シ決了セシモノトスヘシ

第十五條　交換規則ニ照準シ難キ損傷紙幣ニシテ交換額難決ノモノ或ハ燒損等强クシテ手ヲ觸ル每ニ破損スルモノハ交換請求人ヘ其旨ヲ示シ預リ證ヲ付與シ交換規則第十條ニ照シ損傷ノ原因書ヲ差出サセ現品ヲ添テ（燒損等强キモノハ其儘板ニ挾ミ或ハ第入レ可成丈傷マサル樣ニ注意スヘシ）交換方ヲ出納局ヘ伺出ヘシ

第十六條　損傷紙幣交換高千圓ニ付金貳圓ノ割ヲ以テ手數料ヲ支給スヘキニ付人民ヨリ手數料ヲ請取ルヘカラス但第十條更正受拂ニ係ルモノハ此手數料ヲ給セス

第十七條　印章打拔ノ手數料ハ千枚ニ付參錢六厘ノ割ヲ以テ支給スヘシ

第十八條　手數料及運送費ハ每歲兩度ニ拂渡スヘキニ付六月マテノ分ハ七月十日迄十二月迄

ノ分ハ翌年一月十日マテニ明細仕譯書(第六圖)ヲ作リ之ニ會計局長宛ノ請求書ヲ添ヘ出納局ヘ差出スヘシ但運送費ハ運搬ヲ爲シタル會社等ノ受取證書ヲモ添付スヘシ

(圖式略ス)

損傷紙幣打拔手續

一 紙幣ハ大藏卿印輪廓雷紋ノミヲ殘シ印中ハ皆打拔新紙幣ハ中央十九號達ニテ刪除竝數位ヲ悉皆打拔ヘシ

一 打拔器械大ノ分ハ紙幣ハ百圓ヨリ五圓マテ新紙幣ハ拾圓ヨリ貳拾圓マテ小ノ分ハ紙幣貳圓ヨリ拾錢マテヲ打拔モノトス

一 打拔臺ハ樫又ハ槻ノ小口ヲ用ユヘシ

一 打拔方ハ同種ノモノ十枚程ヲ重ネ(卿印數位)ノ中央ヘ釘ヲ以テ目通シヲナシ打拔ヘシト雖モ不手馴ノ內ハ一枚ツヽヲヨシトス

一 燒損或ハ腐敗ノモノハ(紙幣ハ表面紙幣ハ裏面新)ヘ美濃紙又ハ半紙ヲ糊貼ニシテ拔取ルヘシ

一 半片ノモノハ全紙ノ形ニ紙ヲ(紙幣ハ表面紙幣ハ裏面新)糊貼シテ拔取ルヘシ

一 打拔濟ノ上ハ檢査人ヲシテ種類ヲ分チ員數ヲ調査シ每百枚ニ元結ヲ通シ結ヒ目ヘ封印ヲナサシメ又拔取リタル文字ノ方モ同樣ニ取扱フヘシ之ヨリ曩キ政府ハ不換紙幣ノ弊害ヲ察シ之レカ兌換ノ目的ヲ以テ正貨ヲ蓄積シ來リシカ明治十八年ニ至リ漸ク其準備成レルヲ以テ同年六月六日布告第十四號ヲ以テ政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ銷却スル旨ヲ公布シ其交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムルコトヽセルヲ以テ同年十一月十日大藏卿ハ紙幣交換手續ヲ定メ左ノ如ク日本銀行ヘ令達セリ

政府發行ノ紙幣銀貨ニ交換ノ儀本年第十四號ヲ以テ布告相成候ニ付テハ右交換手續別紙ノ通相定候條右ニ據リ取扱可申此旨相達候事

明治十一年十一月十日

大藏卿 伯爵 松方正義

日本銀行

紙幣交換手續

第一條 紙幣交換基金ハ大藏省ヨリ日本銀行本支店ニ下渡スヘシ

第二條 國庫ヘ收入スル紙幣ノ交換員額ハ其時々大藏卿ノ達ニ隨ヒ日本銀行ニ於テ交換スヘシ

第三條 人民ヨリ紙幣交換ヲ請求スルトキハ日本銀行本支店ニ於テ交換スヘシ但五拾錢以下ノ紙幣ハ補助貨ヲ以テ交換スヘシ

第四條 交換拂ノ紙幣ハ漸次大藏卿ノ印章又ハ數位ヲ打拔ノ上出納局ヘ上納スヘシ右紙幣ハ出納局ニ於テ檢査ノ際僞造變造若クハ員數ノ不足ヲ發見スルトキハ日本銀行ニ於テ辨償スヘシ

第五條 日本銀行ニ於テ每日受拂表ヲ調製シ出納局ヘ差出スヘシ但シ支店ノ分ハ本店ヲ經由シテ差出スヘシ

第六條 交換濟ノ紙幣打拔手數料トシテ紙幣千枚ニ付參錢六厘ノ割合ヲ以テ支給スヘキニ付

三月九日兩度ニ請求スヘシ

斯クテ政府紙幣兌換ハ明治十九年一月ヨリ實施セラレシカ同年三月ニ至リ政府ハ曩ニ日本銀行ニ達セル紙幣交換手續ヲ改正シ又五拾錢以下損傷紙幣ヲ補助銀貨ト交換方ヲモ亦日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽセリ即左ノ如シ

明治十八年第十四號布告ニ據リ政府發行ノ紙幣銀貨ニ交換ニ付同年十一月十日其行ヘ相達タル紙幣交換手續ノ儀今般左ノ通更正候條來四月一日ヨリ是ヲ遵奉施行スヘキ儀ト相心得交換方差支ナキ樣取計フヘシ

五拾錢以下損傷紙幣補助銀貨ト交換方モ其行ヘ命任候條前項紙幣交換手續ニ準據シ交換方取計フヘシ

但從前ノ達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

紙幣交換ノ手續

第一條　日本銀行ニ於テ紙幣交換ノタメ要スル銀貨ハ交換基金トシテ下渡スヘキニ付入用ノ金額ハ時々是ヲ當省國債局ヘ請求スヘシ但其金額ハ交換方差支無之樣本支店ノ間ヘ配付スヘシ

第二條　前條下渡ノ銀貨ハ日本銀行ヘ特別預トシテ預ケ置ヘキニ付國債局長ヘ對シ預リ證書ヲ差出シ交換ノ請求ニ應シ之ヲ支出スヘシ

第三條　人民ヨリ紙幣ノ交換ヲ請求スルトキハ日本銀行本支店ニ於テ交換方取計ヒ五拾錢以下ノ紙幣ハ補助銀貨ヲ以テ交換スヘシ但國庫中ニ存在スル紙幣ト銀貨ト交換スル場合ニ於テモ亦同シ

第四條　交換ノタメ第二條ノ預金ヲ支出シタルトキハ其員額ヲ一週毎ニ取纏メ國債局ヘ報告シ殘額ヲ證明スヘシ但員額一日內ニ金五萬圓以上ニ達シタル時ハ其翌日迄ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　第二條ノ預ケ金ハ紙幣交換ノタメ使用スヘキ者ニシテ他ノ費途ニ運轉移用スルヲ許サス

第六條　日本銀行ニ於テ紙幣ノ交換ヲ了シタルトキハ其紙幣ノ大藏卿ノ印章若クハ數位ヲ打拔キ明細仕譯書ヲ添エ當省國債局ヘ送付スヘシ

但打拔キタル紙片ハ別日ニ送付スヘキモノトス

第七條　交換濟ノ紙幣中ニ僞造變造ノモノ之レアルトキハ日本銀行ノ損失タルヘシ

第八條　交換濟紙幣打拔手數料トシテ紙幣千枚ニ付金參錢六厘宛支給スヘキニ付三月九月兩度ニ當省國債局ヘ請求スヘシ

右命任候事

明治十九年三月三日

大藏大臣　伯爵　松方正義

尋テ同年三月二十六日大藏省國債局ニ於テ前記紙幣交換手續ニ基キ紙幣交換事務細則及紙幣交換手續細則ヲ定メテ日本銀行ヘ達示シタリシカ明治二十年四月二十六日ニ至リ其一部ヲ改正セリ

明治十九年七月勅令第五十號ヲ以テ政府發行ニ係ル拾錢紙幣ハ明治二十年六月三十日限リ其通用ヲ禁止スル旨ヲ公布セルヲ以テ大藏大臣ハ七月十二日拾錢紙幣交換取扱手續ヲ定メテ日本銀行ヘ令達セリ即左ノ如シ

日本銀行

今般勅令第五十號ヲ以テ拾錢紙幣來明治二十年六月三十日限リ通用禁止ニ付右交換方其行本支店又ハ代理店ニ於テ爲取扱候條別紙手續ニ據リ執行スヘシ

但代理店名ハ官報及新聞紙ヲ以テ其行ヨリ廣告スヘシ

明治十九年七月十二日

大藏大臣　伯爵　松方正義

拾錢紙幣交換手續

第一條　拾錢紙幣ハ豫テ下ケ渡置タル紙幣兌換基補助銀貨又ハ壹圓銀貨ノ內ヲ以テ交換スヘシ但本文基金ハ交換不差支樣支店及代理店ノ間ニ配賦シ置クヘシ

第二條　拾錢紙幣交換ノ爲メ支出シタル基金ノ報告及交換ヲ了シタル紙幣上納ノ節添付スヘキ明細仕譯書ノ儀ハ十八年六月第十四號布告兌換紙幣交換ノ分ト同項ニ其金額ヲ掲載スヘシ

其他本年三月三日達紙幣交換手續及同月二十六日達同細則ニ準據シ取扱フヘシ

尋テ同年八月三日ニ至リ曩ニ達示セル拾錢紙幣交換手續中追加ヲ爲シ左ノ如ク日本銀行ヘ達示セリ

日本銀行

本年七月十二日附ヲ以テ令達候拾錢紙幣交換手續ハ左ノ一條ヲ追加シ且同手續第二條ノ第二項ヲ第三條ノ第二項ト改ム

第三條　拾錢紙幣交換方代理店ニ於テ取扱タルモノニ限リ手數料トシテ交換額ノ千分ノ一ヲ支給スヘシ

明治十九年八月三日

大藏大臣　伯爵　松方正義

右ノ如ク拾錢紙幣交換方ヲ日本銀行ヘ命セラレタルヲ以テ同行ハ七月二十七日拾錢紙幣交換取扱手續並ニ拾錢紙幣交換事務代理約條ヲ定メ八月十日大藏卿ノ認可ヲ得タリ

是ヨリ曩キ明治十八年一月政府ハ舊金銀貨幣買上方ヲ日本銀行ニ命シ其買上手續ヲ定ム其令達左ノ如シ

日本銀行

舊金銀貨幣ヲ時價及舊貨幣價格表ノ價格ヲ以テ左ノ手續ニ依リ買上クヘシ此旨相達候事

一　舊金銀貨幣買上元金トシテ當省國債局ヨリ順次紙幣及金銀貨ヲ下渡スヘシ尤モ其銀行大阪支店取扱ニ係ルモノハ出納局大阪出張所ヨリ下渡スヘシ

二　時價ヲ以テ買上クヘキモノハ紙幣ヲ以テ拂渡スヘシ但時價(紙幣相場也)ハ最モ確實ノモノヲ選ミ國債局及出納局大阪出張所ヘ屆出ツヘシ

三　舊貨幣價格表ノ價格ヲ以テ買上クヘキモノハ代リ金ハ金銀貨幣ヲ以テ拂渡スト雖モ又ハ金銀貨幣ヲ紙幣ニ換ヘ拂渡スト雖モ人民ノ望ニ任ス可シ但其交換相場ハ當日又ハ前日ノ平均相場ヲ用ユヘシ

四　其銀行本店ニ於テ買上ケタルモノハ國債局ヘ、大阪支店ニ於テ買上ケタルモノハ出納局大阪出張所ヘ各勘定書ヲ添ヘ十日毎ニ取纏メ上納スヘシ

五　其銀行各地代理店ニ於テモ此手續ニ據リ取扱フヘシ尤買上元金ハ其銀行本支店ヘ下渡スヘキニ付各地代理店ヘ分配シ又買上ケタル舊金銀貨幣ハ本支店ニ於テ取纏メ上納スヘシ

六　買上代金ノ千分ノ一ハ手數料トシテ其銀行ヘ給與スヘシ

七　買上ケタル舊金銀貨幣出納局ニ於テ鑑査ノ際贋金等ヲ發見セシトキハ其銀行ノ負擔タルヘシ

明治十八年一月二十七日　　大藏卿　松方正義

此ノ如ク舊金銀貨幣買上方ヲ日本銀行ニ命セラレタルヲ以テ同年三月三十一日、日本銀行ト大藏省國債局トノ間ニ於ケル授受手續ヲ定メ四月十六日大藏卿ノ認可ヲ經タリシカ日本銀行ハ更ニ舊金銀貨幣買上手續第二項ニ據リ時價ヲ以テ買上クヘキ相場算定方法ヲ定メ四月十三日其認可ヲ得タリ

明治十九年四月政府ハ更ニ日本銀行ヲシテ金銀地金買上方ヲモ取扱ハシムルコトヽシ之ニ關スル取扱手續ヲ定メテ之ヲ同行ヘ達セリ左ノ如シ

日本銀行金銀地金舊貨幣買上及正貨交換取扱方其銀行ニ於テ別冊取扱手續ニ憑リ本月十五日ヨリ取扱フヘシ此旨相達候事

明治十九年四月七日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

金銀地金買上取扱手續

第一條　金銀地金舊貨幣正貨買上基金ハ毎月豫算高ヲ以テ金貨銀貨紙幣ノ三種ヲ出納局ヨリ日本銀行ヘ下付ス

但大阪支店ヘハ同地金庫局出張所ヨリ下付ス

第二條　日本銀行本支店ハ前條ノ基金ヲ以テ金銀地金其他舊貨幣正貨ヲ買上而テ代金ノ支拂ハ左ノ手續ニ據ルヘシ

一　造幣局成貨拂渡證書ニ對シテハ同種類ノ貨幣（即チ金貨ノ證書ニ對シテハ金貨ヲ仕拂フノ類ヲ云フ）ヲ仕拂フヘシ

但期日前仕拂ヲ請求スルモノハ期日迄割引ヲ爲シ其殘額ヲ仕拂フ可シ

二　買上金銀地金ノ代金ハ總テ造幣局試驗品位ニ據リ成貨ニ積算シ代リ金下渡當日ヨリ成貨拂渡期日マテノ利子ヲ控除シタル殘高ヲ代金トシテ支拂フヘシ

三　舊貨幣買上代金ハ價格表ノ價格或ハ時價ニ依リ便宜之ヲ買上ルモノトス

四　買上地金ハ造幣局試驗前及舊貨幣買上代金ノ內渡金ヲ下付スルヲ得

但此場合ニ於テ若シ損失ヲ生スルトキハ其銀行ノ負擔タルヘシ

五　造幣局成貨拂渡證書並金銀地金ノ代金（即金銀貨ヲ云フ）ニ紙幣ヲ請求スルモノハ金貨（時價ニ依ル）銀貨（成高）ヲ紙幣ニ通算シ之ヲ支拂フヘシ

六　第二項ノ代金下渡ノ場合ニ於テ第三項ノ內渡金アルトキハ其內渡金並ニ其金額ニ係ル利子（內渡金下渡當日ヨリ決算殘金下渡前日迄ノ分）ヲ引去ルヘシ

七　銀行會社等ヨリ正貨ノ交換ヲ請求セハ代紙幣ヲ渡スヘシ

八　造幣局成貨拂渡證書並金銀買上等ニ付引去ルヘキ利子ハ金壹萬圓ニ付一日金壹圓ノ割合タルヘシ

第三條　買上ケタル金銀地金舊貨幣正貨ハ其ノ種類ヲ區分シ別紙第(一號)(二號)報告表ヲ出納局(大阪支店ノ分ハ金庫局出張所)ヘ毎月曜日(月末ハ三十日或ハ三十一日トス)ニ差出スヘシ

但本文買上高一日五萬圓以上ニ達シタルトキハ即日差出スモノトス

第四條　買上タル金銀地金及舊貨幣ハ政府地金トシテ造幣局ヘ輸入シ同局ノ地金勘定書ヲ得ヲ前條ノ報告表ニ添ヘテ差出スヘシ

但本店ニテ買上クル舊貨幣ハ漸次大阪支店ヘ回漕シ同支店ヲシテ本條ニ準シ造幣局ヘ輸入セシムヘシ

第五條　前條舊貨幣回漕ノ諸費ハ實費ヲ以テ出納局ヨリ下付スヘシ而シテ銀行ヨリハ回漕ノ都度種類內譯勘定書ヲ出納局ヘ差出スヘシ

第六條　第二條第二項ノ買上地金鑄造ニ付テノ費用ハ造幣規則ニ依リ各納人ヨリ直ニ造幣局ヘ上納セシム可シ

但別段ノ約定アルモノハ此ノ限リニアラス

第七條　各銀行會社等ヨリ交換收入ノ正貨ハ其銀行又ハ横濱正金銀行ヨリノ保護預リ證書ヲ以テ出納局(大阪支店ノ分ハ金庫局出張所)ヘ上納スヘシ

但本條預リ證書ハ第三條第二號報告表ニ添付スヘシ

第八條　第一條ノ基金ハ第四條ニ依リ造幣局地金勘定書ヲ上納セシ場合ニ決算スルモノトス

因テ別紙第三號報告表ヲ出納局(大阪支店ノ分ハ金庫局出張所)ヘ毎月曜日(月末ハ三十日或ハ三十一日トス)差出スヘシ

但本文報告表ハ一日ノ仕拂高五萬圓以上ニ達シタルトキハ即日差出スモノトス

第九條　此取扱ヲナスニ付其銀行ヘ設置スヘキ諸帳簿ハ當省ノ認可ヲ得ヘシ

第十條　金銀地金舊貨幣ノ代リ金高ノ千分ノ一手數料トシテ紙幣ヲ以テ下付スヘシ

第十一條　此取扱方ハ政府ノ都合ニ依リ增補改正又ハ廢止スルコトアルヘシ

右ノ如ク金銀貨地金等ノ買上ニ付テハ大藏省出納局ヨリ日本銀行ヘ買上基金ヲ下付シ買上タル地金類ヲ以テ右ノ基金ヲ決濟セシムルノ法ニ依リタリシカ明治二十一年ニ至リ政府ハ從來ノ法ヲ廢シ爾後金銀地金ノ購收ハ總テ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽシ五月三日左ノ如ク日本銀行ニ達示セリ

日本銀行

明治十九年四月七日附ヲ以テ金銀地金買上方取扱手續相達置候處右ハ來ル五月十日ヨリ當省ニ於テハ買上不致候條豫テ下渡有之基金殘額ハ出納局ヘ返納スヘシ

從前右手續ニ依リ取扱來候明治十六年第十八號布告舊貨幣交換ノ事並第一國立銀行第十八國立銀行ヨリ持參スル地金購收ノ事ハ爾後其銀行ニ於テ取扱フヘシ

但第一國立銀行ヨリ持參スル地金購收ノ內拾五萬圓ノ分ハ本年六月限リ拾萬圓ノ分ハ來ル二十年九月限リ第十八國立銀行ヨリスルモノハ本年九月限リ是迄通リ取扱ヒ爾後ハ其銀行ノ都合ニ任スヘキ儀ト心得ヘシ

右相達ス

明治二十一年五月三日　　大藏大臣　伯爵　松方　正義

明治三十年法律第十六號ヲ以テ貨幣法發布セラレ純然タル金貨本位ノ制ヲ採リタルヲ以テ從來通用ノ壹圓銀貨ハ悉皆金貨ト交換セシムルコトヽナリ同年十月一日ヨリ日本銀行ヲシテ其交換事務ヲ取扱ハシムルコトヽシ豫メ左ノ内達ヲ發セリ

日本銀行

本年十月一日貨幣法實施可相成ニ就テハ目下市場ニ流通スル處ノ壹圓銀貨ハ左ノ順序ニ依リ交換方取計フヘシ

一　本年十月一日ニ於テ其行ニ所有スル所ノ壹圓銀貨竝ニ同日以降其行ヘ收納スル處ノ壹圓銀貨ハ總テ國庫ニ就キ金貨ト交換スヘシ

二　横濱正金銀行又ハ本邦各開港場ニ於ケル外國銀行等ニ於テ本年十月一日以後所有スル處ノ壹圓銀貨ハ其所有者ヲシテ成ルヘク金貨ト交換セシムヘシ

三　横濱正金銀行本支店ニ於ケル支拂ハ其行代理事務上ニ於ケルト否トヲ問ハス本年十月一日以後ハ總テ金貨ヲ以テ執行セシムヘシ

右壹圓銀貨ヲ金貨ニ交換ノ儀ハ我貨幣法實施上大ニ注意ヲ要スヘキ點ニシテ壹圓銀貨ヲ金貨ニ交換スル上ニ於テ敏活ヲ失シ之カ爲メ萬一ニモ金銀間ニ相場ノ差ヲ生スルカ如キ事有之候テハ容易ナラサル儀ニ付貨幣法實施ノ前後ハ殊ニ注意ヲ加ヘ横濱正金銀行ヘモ篤ト協議ヲ遂ケ外國銀行等ノ内情ヲモ視察シ壹圓銀貨ノ引揚ケヲシテ宜シキヲ得セシメ候樣取計フヘシ

右豫メ及内達候也

明治三十年七月十五日　　大藏大臣　伯爵　松方　正義

斯クテ壹圓銀貨引揚實施ノ期日近クニ及ヒ大藏大臣ハ引換準備方ニ付テ金庫出納役ヘ左ノ如ク令達セリ

金庫出納役

一　從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ本年十月一日以後之ヲ新金貨幣ト交換スル積リヲ以テ夫々準備ヲ爲スヘシ

一　前項ノ交換ハ專ラ中央金庫ニ於テ取扱フ積リナレトモ各地ニ於テ交換ヲ望ムモノアルトキハ各地本金庫ニ於テ之ヲ取次キ交換基金ノ回漕ヲ受ケ交換方取計フヘシ

但横濱神戸ハ日本銀行代理店ナル横濱正金銀行本支店ニ於テ交換取次ヲ爲ス儀ト心得ヘシ

一　壹圓銀貨幣ノ交換基金ニ充ツヘキ新金貨幣ハ曩キニ日本銀行ノ名義ニテ造幣局ヘ輸納セシ金塊ヲ以テ製造シタル新金貨幣四千參百萬圓ヲ日本銀行ヘ假渡ヲ爲サシメ之ヲ日本銀行ヨリ大阪本金庫ヘ假納セシメ同金庫ハ之ヲ雜部ヘ受入レ本月末迄ニ夫々配賦方取計フヘシ

但シ造幣局及日本銀行ヘハ別紙ノ通相達シタルニ依リ右ニ依リ受授ヲ取計フヘシ

一　前項日本銀行ヨリ大阪本金庫ヘ假納セシ新金貨幣ニ對スル決算ハ本年十月一日以後ニ至リ之ヲ整理スヘシ

右内達ス

明治三十年九月七日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

斯クテ同年九月二十一日大藏省告示第六十一號ヲ以テ壹圓銀貨幣ハ十月一日以後漸次金貨ト引換フヘキヲ以テ引換望ノ者ハ中央金庫ニ申出ツヘク又横濱神戸ハ日本銀行代理店タル横濱正金銀行本支店其他ノ各地ハ各本金庫ニ於テ引換取次ヲ爲ス旨ヲ公布シ同時ニ壹圓銀貨幣交換順序ヲ定メ金庫出納役ヘ令達セリ

金庫出納役

本年大藏省告示第六十一號ニ依ル十月一日以降貨幣法施行ニ伴フ壹圓銀貨幣交換順序別紙ノ通心得ヘシ

此旨相達ス

明治三十年九月二十一日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

壹圓銀貨幣交換順序

一　中央金庫ニ於テハ壹圓銀貨幣（貨幣ヲモ包含ス以下同シ）ヲ持參シ金貨幣ト引換方請求スルモノアルトキハ直チニ金貨幣ヲ以テ引換方取計フヘシ

二　各地本金庫（大阪横濱神戸本金庫ヲ除ク）ニ於テハ壹圓銀貨幣ヲ持參シ金貨幣ト引換方請求スルモノアルトキハ之ヲ領收（眞贋ヲ鑑定シ贋造及貨幣法第十三條ニ依ルモノハ拒絶スルコト勿論トス）シ適宜ノ預リ證書ヲ請求者ヘ交付シ而シテ代リ金貨幣ノ回送方ヲ中央金庫ヘ要求ノ上到著後右預リ證書ト引換ニ請求者ヘ該金貨幣ヲ交付スヘシ

三　引換濟ノ壹圓銀貨幣ハ漸次中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

四　大阪本金庫ニ於テハ壹圓銀貨幣ヲ持參シ金貨幣ト引換方請求スルモノアルトキハ直ニ金貨幣ヲ以テ引換方取計フヘシ

横濱神戸ノ日本銀行代理店ニ於テモ前項ト同シク直ニ引換方差支サル樣取扱フモノトス

五　壹圓銀貨幣ヲ以テ各地本支金庫ニ就キ有合ノ通貨（金貨以外ノ通貨ヲ云フ）ト引換ヲ望ムモノアルトキハ直ニ引換ヲナスヘシ

但本項ニ依リ引換タル壹圓銀貨幣ハ單ニ金種類ノ交換ニ止メ金貨幣引換トシテ取扱ハサルモノトス又本項ニ依リ引換タル壹圓銀貨幣其他本支金庫ニ收納シタル壹圓銀貨幣ハ之ヲ再ヒ支出セス漸次中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

六　大阪本金庫ニ於テハ第三項ニ依リ金貨幣ト引換ノ爲メ壹圓銀貨幣ヲ領收セシトキハ每日之ヲ中央金庫ヘ報告スヘシ

七　金貨幣ト引換フヘキ壹圓銀貨幣ヲ受入タルトキハ現金出納原簿科目ハ貸方ヘ「壹圓銀貨交換受入」トシテ整理シ代リ金貨幣ヲ拂出シタルトキハ同簿科目ハ借方ヘ「壹圓銀貨交換代リ金貨拂出」トシテ整理スヘシ

八　中央金庫ハ別紙書式ノ報告表ヲ調製シ每日大藏省ヘ差出スヘシ

各地ニ於テ第二項第三項ニ依リ受入タル壹圓銀貨幣ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スル費用及代リ金貨ノ回送費用ハ引換請求者ニ關係ナキモノトス

此ノ如ク明治三十年十月一日ヨリ壹圓銀貨ノ引揚ヲ實行シ明治三十一年七月三十一日ヲ以テ之

カ處分ヲ完結シタリ

以上記述シタル所ノ外政府ハ流通不便貨幣交換取扱方ヲ日本銀行ニ命シタルコトアリ明治十六年五月太政官布告第十五號造幣規則第十五條ノ規定ニ依レハ流通不便ノ貨幣ハ造幣局若クハ其出張所ニ於テ鑑定シ一定ノ量目以上ノモノハ特定ノ手數料ヲ納メシメ以テ之ヲ受取リ翌日代リ貨幣ノ拂渡ヲ爲スヘキ旨ヲ定メタリシカ明治十九年五月政府ハ右流通不便貨幣交換代リ貨幣渡方ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽシ造幣局出張所ヨリ日本銀行ヘ左ノ如ク通達セリ

造幣局出張所ヨリ日本銀行ヘ通達（明治十九年五月五日）

造幣規則第十五條ニ據リ交換スル流通不便貨幣交換代リ貨幣渡方之儀ハ自今其店ニ於テ渡方可被取計大藏大臣經伺ノ上此段及御通達候也

斯ノ如クシテ日本銀行ハ造幣規則ニ基ク流通不便貨幣交換方ヲ取計ヒ來リシカ明治三十年法律第十六號ヲ以テ貨幣法ノ發布アリ其第十二條ニ於テ金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ靑銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其他流通不便ノ貨幣ハ其額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府之ヲ引換フヘキ旨ヲ規定シ同年十月一日ヨリ實施スルコトヽ爲レルヲ以テ同年九月十六日大藏省告示第五十八號ヲ以テ右貨幣法第十二條ニ依ル磨損其他流通不便貨幣ノ引換ハ中央金庫及ヒ大阪本金庫ニ於テ之ヲ取扱ヒ其他各本金庫ニ於テモ引換ノ取次ヲ爲ス旨ヲ公布シタリ是ニ於テ大藏大臣ハ九月十六日右取扱方ニ付左ノ如ク金庫出納役ヘ令達セリ

金庫出納役

本年九月大藏省告示第五十八號ニ依ル磨損其他流通不便ノ貨幣引換方ハ左ノ通リ取扱フヘシ

一 磨損其他流通不便貨幣ノ引換ヲ請求スルモノアルトキハ來ル十月一日以後中央金庫及大阪本金庫ニ於テ其額面價額ニ依リ金庫現在金ヲ以テ無手數料ニテ交換スヘシ

一 前項引換方ヲ各地本金庫ニ就テ請求スルモノアルトキハ各地本金庫ハ之カ取次ヲ爲スヘシ

一 貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノナレハ之カ引換ノ請求ニ應スヘカラス

一 引換受入タル貨幣ハ中央金庫及大阪本金庫ニ於テ現金中ニ區分保管シ追テ當省ノ令達ニ依リ貨幣整理資金ニツキ整理スル儀ト心得ヘシ

右相達ス

明治三十年九月十六日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

次テ十月四日磨損其他流通不便貨幣交換順序ヲ定メ大藏大臣ヨリ左ノ如ク金庫出納役ヘ達セリ

本年大藏省告示第五十八號ニ依ル十月一日以降貨幣法施行ニ伴フ磨損其他流通不便貨幣交換順序別紙ノ通心得ヘシ

此旨相達ス

明治三十年十月四日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

磨損其他流通不便貨幣交換順序

一　中央金庫及大阪本金庫ニ於テハ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ通貨ト交換方請求スルモノアルトキハ直ニ引換方取計フヘシ

二　各地本金庫（大阪本金庫ヲ除ク）ニ於テハ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ引換方請求スルモノアルトキハ之ヲ領收（眞贋ヲ鑑定シ贋造及貨幣法第十三條勿論トス）シ適宜ノ預リ證書ヲ請求者ヘ交付シ而シテ代リ貨幣ノ回送方ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ要求ノ上到著後右預リ證書ト引換ニ請求者ヘ該貨幣ヲ交付スヘシ

但金庫有合ノ通貨ニテ直チニ引換ヲ爲ス場合ハ此限リニアラス

三　各地本金庫（大阪本金庫ヲ除ク）ニ於テ引換濟ノ磨損其他流通不便貨幣ハ漸次中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

四　第二項ニ依リ各地本金庫（大阪本金庫ヲ除ク）ニ於テ磨損其他流通不便貨幣ヲ預リタルトキハ現金出納原簿科目ハ貸方「磨損其他流通不便貨幣交換受入」トシテ整理シ代リ貨幣ノ回送ヲ得テ拂渡シタルトキハ同簿科目ハ借方「磨損其他流通不便貨幣交換代金拂出」トシテ整理スヘシ

五　中央金庫及大阪本金庫ヘ受入タル磨損其他流通不便貨幣ハ現金種類別簿中「流通不便貨幣」トシテ整理スヘシ

六　中央金庫ハ毎月末日交換濟磨損其他流通不便貨幣現在高表ヲ調製シ大藏省ヘ差出スヘシ

七　各地ニ於テ受入タル磨損其他流通不便貨幣ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スル費用及代リ通貨ノ回送費用ハ引換請求者ニ關係ナキモノトス

磨損其他流用不便貨幣ノ交換方ハ斯ノ如クシテ日本銀行ニ於テ取扱フコトヽナリ爾來變革ヲ見ス

第五款　國立銀行紙幣銷却事務

明治十六年五月布告第十四號ヲ以テ國立銀行條例中ニ改正ヲ加ヘ國立銀行ヨリ發行セル紙幣ハ營業年限內ニ悉皆銷却スルコトヽ爲シ其取扱ハ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムルコトヽ爲セリ

卽チ國立銀行條例追加第百十二條ノ規定ニ依レハ各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限マテニ日本銀行ニ納付シ國立銀行ノ營業年限內之ヲ定期預ケトナシ紙幣銷却ノ元資ニ充テ又各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケ紙幣銷却ノ元資ニ充ツルモノニシテ日本銀行ハ右二項ノ金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之カ發行紙幣ヲ銷却シテ大藏省ニ納付シ大藏省ハ國立銀行條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告ス又日本銀行ヨリ銷却紙幣ヲ大藏省ヘ上納セルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債證書ノ內右銷却高ニ相當スル金額ヲ大藏省ヨリ直ニ其銀行ニ還付スルモノトセリ此ノ如ク國立銀行條例ノ改正ニ依リ日本銀行ヲシテ國立銀行紙幣銷却ヲ取扱ハシムルコトヽナセルヲ以テ明治十六年五月十一日大藏卿ハ國立銀行紙幣銷却方法ヲ定メ日本銀行ニ向テ左ノ命令ヲ發セリ

日本銀行

今般太政官布告第十四號ヲ以テ國立銀行條例改正加除相成候ニ付テハ同條例追加第百十二條ニ據リ別冊ノ通各國立銀行ヘ及命令候條各銀行ト協議ヲ遂ケ約定ヲ結ヒ紙幣銷却ノ方法不都

合無之樣可取計此旨相達候事

明治十六年五月十一日　　大藏卿　松方正義

斯クノ如クシテ國立銀行紙幣ノ銷却ハ日本銀行ニ於テ取扱フコトヽナリシカ初メ銀行紙幣銷却方ニ付テハ毎季合同ノ元資ヨリ得ル利金ヲ以テ各銀行毎ニ區別シ其銀行記名ノ紙幣ヲ對合銷却シ來リシカ右ハ其手數繁雜ナルノミナラス尠カラサル費用ヲ要シ且又勘定整理ノ期ニ迫リテ不便少カラサルヲ以テ日本銀行ハ同年五月十九日國立銀行紙幣合同銷却法ニ改メンコトヲ大藏卿ニ請願シタリ是ニ於テ大藏省ハ審議ノ結果其請願ヲ納レ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ銷却スルニハ毎季紙幣銷却元資金ヨリ生スル利子ノ金額ヲ準據トシ總體ノ發行高ヲ合同シテ便宜之ヲ銷却スルコトヽシ銀行紙幣合同銷却方法ヲ定メテ五月三十日、日本銀行ニ令達セリ

明治十六年六月九日、日本銀行ハ曩ニ大藏省ヨリ達セラレタル國立銀行紙幣銷却ニ關スル命令書ニ基キ日本銀行ト各國立銀行トノ間ニ取結フヘキ約定書案ヲ具シテ大藏卿ノ認可ヲ得各國立銀行トノ間ニ紙幣銷却ニ關スル取扱手續ヲ約定セリ斯クテ同年十一月、日本銀行中ニ銀行紙幣支銷部ヲ設置シ銀行紙幣支銷部假內規ヲ定メ明治十六年七月ヨリ國立銀行紙幣銷却ノ事務ヲ實施シ來リシカ明治二十一年十二月政府ハ銀行紙幣合同銷却命令書一部ヲ改正シ又明治二十二年四月更ニ其追加ヲ爲セリ而シテ鎖店銀行廢札交換ノ事務ハ從來大藏省金庫局ニ於テ取扱ヒ來リシカ實際上不便尠カラサルヲ以テ明治二十二年十月十六日政府ハ日本銀行ニ向テ各鎖店銀行廢札交換ノ事務ハ同月ヨリ日本銀行ヲシテ取扱ハシムヘキ旨ヲ達シ從來金庫局ニ保管セル鎖店銀行廢札引換基金殘額ハ悉皆日本銀行ヘ引繼カシメ其取扱手續ハ大藏省銀行局ト協議シテ定ムヘキ旨ヲ命セリ

明治二十九年三月法律第七號營業滿期國立銀行處分法及同第十一號國立銀行營業滿期前特別處分法ノ公布アリ營業滿期後私立銀行トシテ營業ヲ繼續セントスル國立銀行及營業滿期前ニ私立銀行トシテ營業ヲ繼續セントスル國立銀行ニシテ其發行紙幣ヲ悉皆銷却スル能ハサルトキハ銷却殘高ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付セシメ政府ハ右納付金ヲ以テ紙幣銷却ノ基金トシ又國立銀行ニシテ右金額ヲ納付セサルトキハ其預リタル紙幣抵當公債證書ヲ賣却シテ紙幣銷却ノ基金トシ右基金ヲ以テ銷却殘額紙幣ヲ交換スルコトヽ爲リシカ同月法律第八號ニ依リ國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日ト定メ右期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年以內ニ引換方ヲ請求スヘキ旨ヲ公布セラレタリ斯クテ國立銀行ハ或ハ滿期解散シ或ハ私立銀行トシテ營業ヲ繼續シ又ハ官命ニヨリ若クハ平穩鎖店ヲナシタルヲ以テ明治三十二年二月ニ至リ全ク其蹟ヲ絕ツニ至リシカ其發行紙幣ハ依然トシテ日本銀行ニテ銷却シ來レリ而シテ國立銀行紙幣銷却ニ關スル詳細ノ事項ハ國立銀行ノ部ニ記載セルヲ以テ玆ニ贅セス

第八節　兌換銀行券

第一款　條例ノ制定

日本銀行ヲシテ兌換銀行券ヲ發行セシムルコトハ明治十五年布告第三十二號日本銀行條例第十四條ノ規定スル所ナリ同條ニ依レハ日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有スルモ之ヲ發行セシムルトキハ更ニ別段ノ規則ヲ制定スヘキ旨ヲ定メタリ蓋シ日本銀行ノ創立ニ際シ直ニ此特

權ヲ實行セシメサリシ所以ノモノハ當時財政潰亂ノ餘ヲ承ケ銀紙ノ差頗ル紛亂ヲ極メシヲ以テ姑ク其機熟シ時到ルヲ待チシノミ爾來數年ヲ經銀紙ノ差ヲ減スルノ情況ヲ呈セシニ由リ明治十七年第十八號布告ヲ以テ兌換銀行券條例ヲ發布シ十八年五月ニ至リ始メテ兌換券ノ發行ヲ見ルニ至レルナリ

抑〻政府ハ明治元年ニ於テ紙幣發行ノ端緒ヲ開キシ以來始終紙幣ヲ銷却シテ濫發ノ弊ヲ矯メ或ハ不換ノ制ヲ廢シテ兌換タランコトヲ望ミ之カ計畫ヲ爲セシコト一ニシテ足ラスト雖モ一方ニ於テハ財政ノ困難ニ迫ラレ一方ニ於テハ紙幣ノ價格大抵正貨ノ價格ト高低ナカリシヲ以テ不換紙幣ノ弊害ハ既ニ輸入ノ超過ニ於テ其萠芽ヲ示セシニモ拘ハラス未タ直接ノ痛痒ヲ社會ニ與ヘサリシカ故ニ斷然タル處分ヲ以テ貨政ノ改良ニ從事スル能ハス反テ紙幣發行ノ額ヲシテ年一年ヨリ增加セシムルニ至レリ而シテ明治九年八月ニ至リ銀行條例ノ改正アリ爲メニ新ニ參千四百餘萬圓ノ不換紙幣ヲ增加シ又明治十年ニ於テ貳千七百萬圓ノ政府發行紙幣ノ增發アリ之レニ加フルニ巨額ノ豫備札發行ヲ以テシ終ニ明治十二年五月ニ於テ壹億六千八百參拾餘萬圓ノ額ニ達シタリ是ニ於テ明治十一年以來紙幣下落ノ端ヲ現ハシ不換紙幣ノ弊害ハ直接痛痒ヲ社會ニ生シタレハ政府モ紙幣處分ヲ以テ忽ニスヘカラサルモノト爲スニ至レリ然レトモ明治十一年ヨリ十二、三年ニ至ルノ間ニ於テ政府カ正貨ノ騰貴ヲ防キ不換紙幣ノ弊害ヲ救治センカ爲メ施行セシ種々ノ方法ハ尚ホ未タ往々姑息ノモノタルヲ免カレサリシカハ紙幣ノ下落ハ益〻甚シク明治十四年三四月ノ交ニ至リ終ニ紙幣ノ下落ハ金貨ニ對シ壹圓九拾八錢銀貨ニ對シ壹圓八拾壹錢七厘ノ高點ニ達シタリシヲ以テ政府ノ主義モ紙幣處分ヲ以テ焦眉ノ急務トナシ斷然タル方法ヲ以テ大ニ貨

政ノ改良ヲ決行スルニ決シ明治十三年十一月五日第四十八號布告ヲ以テ歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ增加シ政務ヲ改良スル爲メ地方稅規則ヲ改正シ從前國庫ノ負擔ニ屬セシ經費參百餘萬圓ヲ地方費ニ移シ其他新稅ヲ興シ舊稅則ヲ改正シ及ヒ諸官省ノ經費ヲ節減シ明治十四年度以降毎年度歲入中平均壹千萬圓ヲ紙幣銷却ノ處分ニ供スルノ計畫ヲ立テタリ此計畫ハ非常ノ決心ヲ以テ斷行セラレ右壹千萬圓中其一半ハ以テ紙幣ヲ銷却シ他ノ一半ハ以テ正貨ヲ買收シ紙幣兌換ノ準備ニ繰込マレタリ此他金札引換公債證書ノ發行ヲ以テ紙幣ヲ銷却シ或ハ國庫所有ノ公債證書ヲ賣却シテ紙幣ヲ償還シタルモノモ頗ル巨額ナリキ此時ニ當リ明治十五年朝鮮變亂アリ軍備擴張ノ論大ニ起リ政府ノ經費大ニ增加セサルヲ得ス其他內地改良物產奬勵等ノ費途ヲ要スルモノ許多アリテ紙幣銷却處分ノ計畫殆ト蹉跌セントシタリシモ大藏卿松方正義ハ終ニ百難ヲ排シテ此計畫ヲ維持シ紙幣銷却ノ處分ニ從事セリ而シテ紙幣ヲ減少スルトキハ隨テ通貨ノ缺乏ヲ招致スルニ至ルハ數ノ免レサル所ナリ故ニ各國苟モ文明ヲ以テ稱セラレ貿易盛ナルノ國ニ於テハ正貨以外ニ兌換紙幣ヲ發行シテ其不足ヲ補ヒ且ツ授受ヲ便ニセリ而シテ兌換紙幣發行ノ事タルヤ國家經濟ニ至重ノ關係ヲ有スルヲ以テ政府造幣事務ヲ取扱フト均シク政府自ラ管掌スヘシトノ說アルモ畢竟兌換紙幣發行ノ事タル營業ノ範圍ニ屬シ國家ノ政務ニアラス故ニ私立會社ヲシテ之ヲ管掌セシメ政府ハ唯之ヲ監督スルニ止ムルコト頗ル便益ナルノミナラス各國ノ實例ニ於テ皆然ルモノヽ如シ

我國ニ於テモ紙幣ヲ減却スルトキハ通貨ノ缺乏ヲ生スルノ虞アルヲ以テ豫メ策ヲ立テヽ之ヲ防カサルヘカラス當時參千四百餘萬圓ノ銀行紙幣ハ世上ニ流通セシト雖モ其性質タルヤ實際不換

紙幣ニシテ伸縮自在ナラス假令之ヲシテ兌換紙幣ナラシムルモ無數ノ小銀行ヲシテ個々ニ紙幣發行ノ特權ヲ有セシムルハ中央ノ大銀行ヲシテ獨リ之カ發行ニ從事セシムルノ便ナルニ若カサルヲ以テ政府ハ日本銀行ヲシテ兌換紙幣ヲ發行セシメ後來我國ニ流通スル紙幣ハ唯日本銀行券ノミトスルニ決定シタリ然レトモ明治十五年末日本銀行開業ノ際ニ於テハ紙幣ノ下落尙甚シク到底僅少ノ額ノ外兌換紙幣ノ流通スヘキ見込ナキヲ以テ政府ハ未タ兌換銀行券ノ發行ヲ許可セサリキ是レ日本銀行條例第十四條ニ同行ニ兌換券發行ノ權ヲ附與シタルニ拘ラス但書ヲ以テ之ヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定スルモノトセル所以ナリトス

政府ハ明治十四年度以降非常ノ決心ヲ以テ紙幣銷却ノ處分ヲ斷行シ一方ニ於テハ百方政府發行紙幣ヲ回收燒棄シテ其額ヲ減殺シ一方ニ於テハ頻リニ正貨ヲ買收シテ準備ヲ充實ナラシメ以テ兌換ノ用意ヲ爲シ之ト同時ニ銀行紙幣ノ處分ヲ定メ其發行額ヲ年々銷却減少スルノ方法ヲ立テタリシカハ其結果ハ紙幣價格ノ回復トナリ物價ノ下落トナリ輸出ノ超過トナリ正貨ノ流入トナリ金利ノ低落トナリ公債證書ノ騰貴トナリ實ニ明治十四年ヲ中心トシテ前後四年間ノ情況ヲ觀ルニ全ク正反對ノ現象ヲ繰返スノ狀アリ而シテ紙幣價格ノ回復スルニ從ヒ兌換銀行券發行ノ機漸ク熟スルヲ以テ明治十六年十月十九日大藏卿松方正義ハ左ノ建議ヲ提出セリ

兌換銀行券ノ儀ハ曩ニ日本銀行條例第十四條ニ依リ之カ發行ノ權ヲ同銀行ニ付與セラルト雖モ之レヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ御頒布可成儀ニ有之候處同銀行創立以後拮据經營頗ル進歩ノ效ヲ奏シ今日ニ至テハ百事緒ニ就キ將來ノ目的略ヽ相立候ニ付銀行券發行ノ儀モ其時期已ニ熟シテ今日ニ於テ漸次之ヲ擧行セシメ候ハヽ同銀行責力ノ培殖タルヘキ

ハ勿論他日政府紙幣ノ處分上ニ於テモ其裨益尠カラサル儀ト存候抑モ財政上事ヲ擧クルニハ必ス漸ヲ以テシ成ル可ク一時急卒ノ變動ヲ來サヽル樣注意スヘキハ專要ノ儀ニ有之該發行ノ如キモ他日ニ至リ一時ニ施行致シ候テハ却テ不都合可有之ト存候間先ツ今日ヨリシテ公然之カ發行ヲ許可セラレ漸次擴張ノ方法相立候樣致度尤モ右發行高ノ儀ハ歐洲諸國特權銀行ノ例ニ從ヒ準備金ニ對シ三倍迄ヲ發行セシメ可然儀ト存候ヘ共目下紙幣ノ價額未タ全ク其故ニ復セス何分其儀ニ難相運事情有之候間當分ノ內同額ノ準備金ヲ置カシメ勉メテ實著ヲ旨トシ謹愼以テ此ニ從事セシメ候ハヽ理財上ノ轉移極メテ穩滑ナル而已ナラス事務取扱上ニ於テモ亦漸次慣熟ノ便ヲ得可申ト存候依テ兌換銀行券條例草案別冊ノ通取調上呈候條至急御裁定御施行相成候樣致度此段上申候也

追テ該條例發行ノ趣旨說明ノ爲メ別冊說明書相添ヘ上呈候也

明治十六年十月十九日　　大藏卿　松方正義

太政大臣　三條實美殿

兌換銀行券條例草案

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スル者ヲ云フ

第二條　此銀行券ハ引換準備トシテ金銀貨ヲ置キ之ニ對シ三倍迄ヲ發行スルヲ許ス但其發行額ト準備金トノ割合ハ右制限以內ニ於テ當分ノ內大藏卿ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第三條　此銀行券ノ種類ハ壹圓、五圓、拾圓、貳拾圓、五拾圓、百圓、貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條　此銀行券ハ海關稅ヲ除クノ外政府ノ出納其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條　此銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々大藏卿ニ上申スヘシ但大藏卿ハ其發行期日前豫メ其雛形ヲ各府縣ニ頒布スルモノトス

第六條　此銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ直チニ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第七條　金銀貨ヲ持參シテ銀行券ニ引換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　大藏卿ハ大藏省ノ都合ニヨリ日本銀行ヲシテ政府發行ノ紙幣ヲ上納セシメ金銀貨若クハ地金銀ヲ以テ之ト引換ヘ同銀行ニ下付スルコトアルヘシ

但其紙幣ハ時々之ヲ銷却スルモノトス

第九條　日本銀行ハ銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作リ之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第十條　大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條　此銀行券ノ染汚毀損等ニ依リ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ新銀行券ト引換フヘシ

第十二條　此銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消印等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メテ日本銀行ニ命令スヘシ

第十三條　此銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法僞造貨幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第十四條　法律ヲ以テ特ニ許可シタル者ノ外銀行券又ハ類似ノ證券ヲ發行スルコトヲ禁ス

但明治七年第百號布告ハ此條例布告ヨリ滿一年ノ後ハ廢止タルヘシ

第十五條　政府ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ此條例ヲ改正增削スルコトヲ得

兌換銀行券發行趣旨ノ說明

夫レ財政ノ整理センコトヲ欲セハ中央銀行ナカル可ラス幣制ノ完美ナランコトヲ欲セハ兌換銀行券ナカル可ラス國ニ中央銀行ナク中央銀行ニシテ兌換銀行券ヲ發行セサレハ則チ財政理アント欲シテ益〻紊レ幣制美ナラント欲シテ益〻壞ル財政紊レ幣政壞ル何ヲ以テ能ク國ヲ爲サンヤ政府此ニ見ル所アリテ曩キニ特旨ヲ以テ日本銀行ヲ設立セラル其條例第十四條ニ曰ク日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但シ此銀行券ヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トスト蓋シ當時未タ其特權ヲ實施セシムル能ハサルノ事情アルヲ以テ姑ラク其期熟シ時至ルヲ待チシノミ爾來週歲拮据經營事稍〻緒ニ就キ目途已ニ定マリ行々將サニ事業ノ益〻擴張シ信憑ノ益〻厚固ナルヲ見ルコトアラントス夫ノ兌換銀行券發行ノ若キモ亦時至レリト謂フヘシ蓋シ銀行券ノ發行ナケレハ日本銀行已ニ創立スルモ其資力薄弱ニシテ大ニ事業ヲ發揮スル能ハス政府モ亦其中央銀行ヲ創立スルノ主旨ヲ達スル能ハサレハナリ請フ詳カ

ニ之ヲ論述スルコトヲ得ン

夫レ日本銀行ハ出格ノ特典ヲ有シ財政ノ根軸ニ當ルモノニシテ衆銀行ニ對シテ之ヲ中央銀行ト云ヒ其資格ヨリ之ヲ特權銀行ト云ヲ(洋語「バンクプリヴレージ」)蓋シ所謂特權ナル者亦數件アリト雖モ其最モ重要ナルモノハ乃チ銀行券ノ發行是ナリ歐洲諸國ニ於テ所謂特權銀行ナル者ハ皆銀行券ヲ發行シ其額大率ネ準備金ニ對シ三倍ヲ以テ限トス是レ啻ニ實歴上ニ於テ定斷スル所タルノミナラス學問上ニ於テ亦其非ヲ議スルモノナシ而シテ佛朗西白耳義等ノ諸國ニ在テハ時ノ事情ニ依リ特ニ政府ノ許可ヲ受ケテ三倍以上ヲ發行スルコト往々之レアリ夫レ政府カ中央銀行ニ附與スルニ如斯ノ特權ヲ以テスル者ハ他ナシ畢竟其財源ヲ開發シ其資力ヲ培殖シ以テ之ヲシテ一國理財ノ重任ニ堪ヘシムル所以ノミ我日本銀行ノ如キハ條例第十四條ヲ以テ既ニ銀行券發行ノ特權ヲ附與セラレタリト雖當時已ニ說明書中ニ詳陳セシ如ク財政潰亂ノ餘弊ヲ承ケ實貨ト紙幣トノ差異頗ル紛亂ヲ極メ恰モ狂瀾怒濤ヲ凌イテ未タ津涯ヲ得サルノ時ナリ是レ焉ソ遽カニ之カ特權ヲ實施セシムルコトヲ得ンヤ今ヤ積弊ノ餘未タ全ク洗除セスト雖モ計畫已ニ定リ事業緒ニ就キ實貨ト紙幣トノ價格將サニ漸ク其故ニ復セントス經濟上既ニ已ニ津涯ヲ得タリ其猶ホ存スル所ノモノハ乃チ餘波ノミ頽瀾ノミ苟モ政府目下ノ針路ヲ守リ黽勉計畫敢テ之ヲ失墜スルコトナケレハ其餘弊ヲ洗除スル蓋シ遠キニ在ラサルヘシ夫レ此ノ如クナレハ則チ日本銀行ノ特權ヲ實施セシメ銀行券ノ發行ヲ許スハ其時蓋シ至レリト謂フヘシ況ンヤ是レ亦彼ノ餘波頽瀾ヲ鎭定スルノ一助タルヘキニ於テオヤ正義乃チ內外ノ法制ニ參シ古今ノ事例ヲ考ヘ此ニ兌換銀行券條例ヲ草定シ以テ進止ヲ取ル而シテ此條例中尤モ講究ヲ要スル者二

項アリ第二條及第八條是ナリ請フ之ヲ左ニ分說セン

第二條ニ此銀行券ハ準備金ニ對シ三倍迄ヲ發行スルヲ許スト云ヘルハ是レ其正格ヲ示スナリ下文ニ其發行高ト準備金トノ割合ハ當分ノ內大藏卿ノ定ムル所ニ依ルヘシト云ヘルハ是レ其變通ヲ示スナリ蓋シ政府ニ於テ新タニ此條例ヲ制定スルヤ必ス所謂特權銀行ノ正格ヲ揭ケテ以テ全國ニ明示セサル可ラサルハ其體面然ルナリ然レトモ今日銀紙ノ差猶ホ未タ全ク除却セサルヲ以テ苟モ愼ヲ加ヘ重ヲ持スルニ非サレハ則チ準備實貨ノ枯竭立テ而シテ待ツヘキナリ是ヲ以テ本條先ツ其正格ヲ明示シ而シテ其發行高ト準備金トノ割合ハ政府ニ於テ時々之ヲ定ムルモノトセリ其意蓋シ當分ノ內準備金ト同額ヲ以テ之ヲ發行セシメ他日紙幣其價格ヲ復シ銀貨其定態ヲ得ルヲ待テ始メテ其正格ヲ實施セシメントスルニ在ルナリ

或ハ第二條ノ但書ヲ視テ三倍以外ニ出ツルモノト誤認アランモ測ル可ラスト雖モ是レ決シテ然ラス蓋シ條例ニ於テ已ニ其原則ヲ定メテ三倍トナスト雖モ今日猶ホ未タ其原則ヲ以テス可ラサルノ事情アルコト前文ニ論スルカ如クナルヲ以テ先ツ同額ノ準備金ヲ置キテ謹愼以テ事ニ此ニ從ハシメサル可ラス是レ此但書ヲ加ヘテ以テ變通ヲ此ニ取ル所以ナリ看者之ヲ諒セヨ

又本條ニ三倍ト云ヘルハ資本金ニ對シテ之ヲ云フト了解スル者アラン是レ又然ラス蓋シ所謂三倍トハ其準備金タルヘキ實貨ニ對シテ之ヲ言フモノナリ例ヘハ資本金壹千萬圓ノ銀行ニシテ貳千萬圓ノ實貨ヲ有スレハ之レニ對シテ三倍卽チ六千萬圓ノ銀行券ヲ發行スヘキカ如シ佛朗西銀行ノ資本金ハ千八百五十七年ノ增株ニヨリ一億八千二百五十萬「フラン」(參千六百五拾萬圓)ト定ムル而シテ千八百七十二年七月十五日ノ法律ニ據レハ其銀行券ノ發行高ヲ定メテ三十二億萬「フラ

ン(六億四千萬四)マテト爲セリ又白耳義國中央銀行ノ資本金ハ五千萬フラン(壹千萬圓)ニシテ其發行高ハ千八百七十七年上半季ノ報告ニヨルニ四億二千二百八十八萬フラン(八千四百五拾七萬六千圓)ニ登レリ今之ヲ資本金ニ對スルニ佛朗西ハ十七倍餘白耳義ハ八倍四割餘ニ當ル是レ其資本金ニ對スルニ非スシテ所謂準備金ニ對スルノ一證ナリ今日本銀行ニ於テ直チニ此割合ヲ適用スヘキニ非サレトモ會〻發行額ヲ論スルニヨリ聊カ此ニ論及スルノミ

第八條ハ紙幣銷却ニ關スル者ナリ夫レ現今ノ不換紙幣ハ早晩之レヲ市場ニ收メ以テ兌換銀行券ノ一種ニ歸セサル可ラサルハ屢〻啓陳ヲ經シ所ナリ若シ今銀貨ト紙幣ト全ク其價格ヲ平均シ日本銀行ニシテ十分其資力ヲ擴張スルヲ得タリトセハ卽チ之ヲシテ政府紙幣ヲ引換ヘシメ以テ之ヲ銷却スル自ラ其法アリ之ヲ歐洲諸國ニ求ムルモ亦其例ナキニ非スト雖モ奈何セン之ヲ今日ニ行フコト能ハス是故ニ先ツ第八條ノ手續ニ從ヒ漸次銷却ノ方法ヲ立ツヘシ是レ亦已ムヲ得サレハナリ夫レ國立銀行發行ノ紙幣ハ曩キニ該銀行條例ノ改正ニヨリ其營業年限中ニ漸次銷却ノ目的アリ政府發行ノ紙幣ハ每年額ヲ定メテ之ヲ銷却スルノ手續アリ而シテ今又此銀行券ヲ發行スルニ至テハ第八條ノ手續ニヨリテ漸次之ヲ銷却スヘキノミナラス又此發行券ニヨリテ大ニ利益ヲ見ルニ至テハ其幾分ヲ政府ニ納メシメ是レ亦銷却ニ供スルモ可ナリ果シテ然レハ則チ此一擧ヤ政府紙幣ヲ銷却シ銀紙平均ヲ復スルノ一助ニシテ卽チ他日紙幣引換ノ順路ヲ開クモノト謂フヘキノミ

右第二條及第八條ノ外銀行券ノ種類、圖形、銀貨引換、損券引換其他管理ノ方法等ニ至ツテハ殊ニ說明ヲ要スルモノナキヲ以テ此ニ之ヲ省略ス凡ソ事ヲ擧クル宜シク漸ヲ以テスヘシ善政良法

アリト雖モ遽然之ヲ行ヘハ則チ天下ノ耳目ヲ駭カシ事物ノ常步ヲ妨ケ卒ニ其善良ノ實ヲ見ルコト能ハサルハ古今ノ常觀ナリ銀行券ノ如キモ亦然リ苟モ今尙ホ早シト謂ヒ他日ヲ待テ一時ニ之ヲ施行セント欲セハ是レ決シテ策ノ得タル者ニ非ス察セサル可ケンヤ故ニ今日ニ於テ夙ニ目的ヲ定メ步々著實ヲ旨トシ勉メテ本條例第二條ノ精神ヲ失ハサレハ則チ進テ急躁ニ失セス退テ遲緩ニ流レス理財上ニ於テ他日大ニ裨益ヲ得ルモノアラントス請フ明鑒ヲ垂レヨ

右ノ建議ニ基キ政府ハ條例草案ニ多少ノ修正ヲ加ヘタル後明治十七年五月二十六日第十八號ヲ以テ左ノ如ク布告セリ

布告第十八號（明治十七年五月二十六日）

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一箇年ノ後廢止ス

兌換銀行券條例

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第三條　兌換銀行券ノ種類ハ壹圓、五圓、拾圓、貳拾圓、五拾圓、百圓、貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條　兌換銀行券ハ租稅、海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條　兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製

造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條　兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

第六條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作リ之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第九條　大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條　兌換銀行券ノ汚染毀損等ニ依リ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條　兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ銷却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條　兌換銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法僞造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

而シテ右兌換銀行券條例ニ付最モ注意ヲ要スルモノハ第二條ニ在リ夫レ何レノ時何レノ國ヲ問ハス銀行券ヲ發行スルニ當リ最モ困難ナル問題ハ準備金割合ノ制限及ヒ發行額ノ制限ニアリトス蓋シ此二者ハ銀行券發行方法中ノ大眼目ニシテ若シ俄ニ證券引換ヲ請求スル者多キ時ハ一時之ニ應スル能ハスシテ爲メニ破產スルニ至ルコトアリ或ハ商業ノ好況ニ乘シテ濫ニ其證券ヲ增發スルトキハ物價ハ變動シ金融ハ逼迫シ遂ニ不測ノ禍ヲ釀スコトナキヲ保セス而シテ此ノ如キ

結果ヲ來スハ皆此制限ノ宜シカラサルニヨルナリ然レトモ此制限嚴ニ失スルトキハ銀券ハ爲メニ活潑ノ働ヲ爲ス能ハス反テ國家ノ利益ヲ損スルコトアリ是レ英國銀行史ヲ讀ム者ノ熟知スル所ナリ而シテ此點ニ關シ我兌換銀行券條例ノ規定スル所ハ日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシト云フニ過キス故ニ我兌換銀行券發行方法ハ其準備ノ割合ニ制限ナク其發行高モ亦隨意ニシテ更ニ制限アルコトナシ故ニ日本銀行ノ兌換銀行券ノ發行ニ關シテハ活潑ナル運動ヲ爲シ得ルノ自由ヲ有ス從テ濫用ニ陷ルノ虞ナシトセス是ヲ以テ日本銀行ハ大藏卿ノ嚴密ナル監督ノ下ニ置カレタリト雖モ既ニ法律上兌換銀行券ノ準備割合ト其發行額トニ關シ制限ヲ設ケサル以上ハ兌換券發行ノ方法ハ之ニ從事スル者其人ヲ得レハ利有テ害ナク其人ヲ得サレハ其弊恐ルヘキモノアリシナリ而シテ當時政府發行紙幣並ニ國立銀行紙幣ノ勢力巨大ニシテ兌換銀行券ハ未タ經濟上ニ勢力ヲ有セサリシカハ兌換券ノ發行高ハ曩ニ命令セシ兌換銀行券發行手續ニ準據シ貳百萬圓ノ準備銀貨ニ對シ五百萬圓ノ極度ヲ以テ漸次發行スルコトヽシタルハ實ニ權宜ノ處置ニシテ亦實ニ止ムヲ得サルナリ兌換銀行券ハ其條例第四條ニ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトストアリ蓋シ我國ノ紙幣證券ハ明治四年七月三十日參議大藏卿大隈重信外務卿岩倉具視等英佛等五國公使ト我外務省ニ會合シ海關稅ニ充用スル新舊貨幣ノ價位ヲ議定セシニ當リ明治五年一月一日以後ハ商社ノ金券其他ノ紙幣ハ關稅ニ受取ラスト決定セシ以來海關稅ノ仕拂ニ供スル能ハサリシカ兌換券ハ一切ノ取引ニ使用シテ差支ナキモノナリトス

而シテ此日本銀行發行ノ銀行券ニ限リ兌換ノ二字ヲ冠シタルハ當時銀行紙幣ト云ヘル不換ノ銀

行券アリタルヲ以テ特ニ之ヲ區別スルノ必要アリタルニ由ルナリ

第二款　條例ノ改正

明治十七年五月布告第十八號兌換銀行券條例ノ規定ニ依レハ其第六條ニ於テ兌換銀行券ハ之カ引換ヲ請フモノアルトキハ日本銀行本支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ銀貨ト兌換スヘキ旨ヲ規定セリ然ルニ該券ノ兌換タル本店ニ蓄積セル準備金ヲ以テ之カ責ニ充ツルモノナルヲ以テ若シ支店ニ於テ巨額ノ兌換ヲ請求スルモノアルトキハ兌換ノ請求ニ應スル能ハサルハ事實上免レサル所ニシテ而モ支店ニ於テモ本店ト同ク準備金ヲ蓄積スルモノトセンカ徒ニ二重ノ準備ヲ要スルニ至リ其不利益尠少ナラサルヲ以テ兌換銀行券引換ニ關スル規定ニ例外ヲ設ケ支店ニ於ケル引換要求ニ對シテハ本店ヨリ準備金ヲ遞送スル時間其兌換ヲ猶豫スルヲ得ルモノトスルノ必要アリ是ニ於テ明治十八年五月七日布告第九號ヲ以テ兌換銀行券條例第六條ニ但書ヲ追加セリ卽左ノ如シ

布告第九號（明治十八年五月七日）

明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例第六條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

明治十七年五月兌換銀行券條例制定以來翌明治十八年五月拾圓券ヲ發行セルヲ初メトシ爾來兌換券ハ日ヲ逐フテ發行高ヲ增加シ其流通亦頗ル圓滿ニシテ我國幣政ノ基礎ヲ確定スルノ機正ニ熟セリ是ニ於テ大藏大臣松方正義ハ日本銀行ノ兌換券發行ニ關スル特權ヲ擴張シ同時ニ之ヲ政府ニ借上ケ以テ政府紙幣銷却ニ充ツルノ必要ヲ認メ明治二十一年七月兌換銀行券條例改正ニ關シ左ノ如ク政府ニ建議セリ

兌換銀行券條例改正ノ建議

我國ハ維新ノ初メ百事創設ノ期ニ際會シ加ルニ東北騷擾封建ノ遺風尙ホ盛ニシテ國帑爲メニ裕ナルコト能ハス太政官札ヲ發行シ一時焦眉ノ急ニ充テラレシト雖モ當時已ニ不換紙幣ノ不利ヲ察シ正ニ十有三箇年ヲ以テ其流通ヲ止メ兌換ノ制ヲ復センコトヲ期セラレタリ然ルニ爾來國事益〻多端而シテ凡百ノ事業一モ改良ノ緒ニ就カサルモノナク費用隨テ多カラサルヲ得ス紙幣ノ發行益〻加ハリ勢ヒ急ニ之ヲ挽回スルコト能ハス明治十一年ニ至リ紙幣ノ下落顯然掩フ可ラス玆ニ於テ政府深ク戒心スル所アリテ鋭意兌換ノ制ニ復センコトヲ謀リ或ハ紙幣ヲ銷却シ或ハ準備ノ正貨ヲ增殖シ方策其目的ヲ過ラス紙幣漸次ニ其價格ヲ復シ終ニ明治十八年六月ヲ以テ政府紙幣交換ノ儀ヲ布告セラレタリ爾來更ニ一歩ヲ進メ全然政府紙幣ヲ銷却シ兌換銀行券ヲシテ之ニ代ラシメ以テ全國流通ノ基礎タラシメンコトヲ企圖シ拮据經營紙幣ノ整理著々歩ヲ進ムト雖モ政府發行ノ紙幣其額固ヨリ僅少ナリトセス銷却ノ功未タ全ク了セス幣政ノ整理上正ニ一簣ノ功ヲ缺クノ憾ナキ能ハス正義百方其方法ヲ考究シ歐米諸國ノ例ヲ索ルニ日本銀行ニ附與セラレタル兌換銀行券發行ノ特權ヲ擴張鞏固ニシ其發行券ノ幾分ヲ低利若クハ無利子ニテ借上ケ以テ政府紙幣ヲ銷却スルノ方法ハ最モ當分ノ事宜ニ適スルモノトス依テ兌換銀行券條例改正案ヲ具ヘ其理由書及計表ヲ付シ謹テ閣議ヲ請フ

此ノ建議ハ速ニ政府ノ容ル、所トナリ明治二十一年七月三十一日勅令第五十九號ヲ以テ公布セ

ラレタリ

勅令第五十九號（明治二十一年七月三十一日）

明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通改正ス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

日本銀行ハ前項ノ外特ニ七千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項七千萬圓ノ內貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行ノ銷却高ヲ限リトシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニヨリ流通貨幣ノ增加ヲ心要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣銷却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ一箇年利子百分ノ二ノ割合ヲ以テ政府ニ貸付スヘキモノトス但明治三十一年以降ハ無利子タルヘシ

前項貸付金ノ償還年限及每年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

右兌換銀行券條例改正ノ理由ハ大藏大臣伯爵松方正義カ右條例改正案ニ添付シテ政府ニ提出シタル理由書ニ詳カナルヲ以テ左ニ之カ全文ヲ掲ケン

兌換銀行條例改正理由書

我政府ハ夙ニ不換紙幣ノ大害アルヲ察シ兌換ノ制ニ復スヘキノ廟議ヲ定メラレ特ニ減債方案ヲ建テ年々若干萬圓ノ財帑ヲ分チ或ハ以テ紙幣ヲ銷却シ或ハ以テ準備ヲ增殖シ多年經營其功空シカラス竟ニ明治十八年六月ヲ以テ政府紙幣交換ノ儀ヲ布告セラルヽニ至レリ是ニ於テカ不換ノ制ヲ變シテ兌換ノ道ヲ開キ從來ノ弊害ヲ洗除ス實ニ其間ニ一大鴻溝ヲ畫シタリト謂フ可シ然レトモ政府紙幣ハ兌換紙幣トシテ長ク通用セシムヘキニ非ス必ス漸次之ヲ交換シテ終ニ兌換銀行券ノ一種ニ歸セシムヘシ是レ曩ニ日本銀行ヲ創立シ次ニ兌換銀行券條例ヲ制定セラレタル所以ナリ而シテ此目的ヲ達セントスルヘカス今其方法ヲ考究スルニ英獨墺ノ制ニ倣ヒテ以テ市場ノ劇動ヲ避クルノ方法ヲ畫セサルヘカラス今其方法ヲ考究スルニ英獨墺ノ制ニ倣ヒ日本銀行ヲシテ正貨準備ノ外證券準備ヲ以テ若干ノ兌換券ヲ發行セシメ（其制限額及理由ハ下ニ付ス）內幾分ヲ政府ニ借上ケ以テ政府發行紙幣ヲ銷却スルノ一方アル而已蓋シ中央銀行ナルモノハ政府ト密著ノ關係ヲ有シ政府財政ノ機關トナリ從テ許多ノ特典ヲ有スルヲ以テ其國家ニ對シ盡スヘキノ義務亦尠シトセス就中國家財政ノ狀況ニヨリ一時又ハ永久ニ政府ニ貸與金ヲ爲スカ如キハ義務中ノ要部ニシテ之ヲ各國ノ例ニ徵スルニ英蘭銀行ハ其創立ノ際資本金百二十萬磅ヲ擧テ政府ニ貸與シ爾後營業年限ヲ延期セラルヽ每ニ多少ノ貸與ヲナシ西曆千八百年代ノ初メニハ其額二千萬磅ニ上レリ佛國銀行ハ西曆千八百五十七年ノ契約ヲ以テ銀行特典ノ繼續スル間ハ常ニ千六百萬圓ヲ限リ政府ヘ貸越ヲ爲スコトヲ承諾シ爾來屢〻其額ヲ增シ西曆千八百七十年

普佛戰爭後ハ政府ヘ貸與ノ總額一時參億六百萬圓ニ上レリ其他佛墺伊ノ諸國ニ於テ中央銀行カ其特典ノ報酬トシテ國家ニ盡ス所ノ有樣ハ大抵佛國ノ例ト大同小異ナラサルハナシ是ニ依テ觀ルトキハ日本銀行ヲシテ其發行ノ幾分ヲ政府ニ貸與セシメ以テ政府紙幣ヲ銷却スルハ固ヨリ日本銀行カ其特典ニ對スルノ本分ニシテ於是乎初テ國家ニ對シ其義務ヲ盡スモノト謂フヘシ

右所論ノ如ク日本銀行ヲシテ正貨準備ノ外證券準備ニ據リ若干ノ紙幣ヲ發行セシメ其幾分ヲ借上ケ以テ政府發行ノ紙幣ヲ銷却セント欲セハ凡貳千貳百萬圓ヲ借入サルヲ得ス然ル所以ハ本年五月末日政府發行ノ總高五千貳百拾壹萬五千百四拾八圓餘內八百四拾四萬七千七百拾貳圓餘ハ五拾錢以下小額紙幣ナルヲ以テ漸次之ヲ補助銀貨ト引換（其資金ハ二十三年以降年々歲入ノ內ヨリ百萬圓ヲ割キ之ヲ充ルノ計畫ナリ別紙第四號表第十二例參觀）壹圓以上ノ政府紙幣四千參百六拾六萬七千四百參拾六圓之カ引換ニ充ツルノ準備金貳千百六拾六萬七千四百參拾六圓今此高ヲ日本銀行ニ交付シ漸次政府發行ノ紙幣ト交換セハ正貨抵當ナキ紙幣貳千貳百萬圓ヲ餘スニ由ルナリ

右ノ如クスレハ日本銀行ヨリ貳千貳百萬圓ヲ借入ルヽト雖モ是レ唯政府紙幣ト交換スルモノニシテ之カ爲メ敢テ流通ヲ增減スルニアラス一般經濟上ニ毫モ影響ヲ及ホスコトナク紙幣統一ノ爲メ無量ノ利益アルヤ敢テ疑ヲ容レス況ンヤ政府ハ第二號第三號欄ニ於テ示スカ如ク之カ爲メ特ニ財源ヲ設ケ其元金ヲ償還スルヲ得ヘキニ由リ日本銀行ハ將來ニ於テ其資力ヲ增加スル事ヲ得ヘク加フルニ國立銀行紙幣ノ減少スルニ隨ヒ日本銀行ハ漸次證券抵當ノ紙幣ヲ增加スルコトヲ得明治三十年ニ至リ之カ爲メ貳千七百萬餘圓ヲ發行スルコトヲ得ヘク大ニ其資

力ヲ增加スルヲ得ルニ於テオヤ故ニ前記貳千貳百萬圓ノ借入ハ決シテ日本銀行ノ資力ヲシテ薄弱ナラシムルモノナリト云フヲ得サルナリ實ニ日本銀行ハ第一號表第十欄ニ示スカ如ク却テ逐年其運轉資本ヲ增加シ以テ金融ノ圓滑ヲ計ルヲ得ヘク又其第十五欄ニ於テ示スカ如ク漸次其利益ヲ增加スルヲ得ヘシ是レ之ヲ一舉兩全ノ策ト云ハスシテ何ソヤ而シテ附則ニ於テ三十一年以降借入金ヲ無利子トスル者ハ別紙第一號表第四欄ニ於テ示スカ如ク該年ニ至レハ銀行紙幣ハ已ニ引換濟トナリ其金額ニ充ル兌換銀行券ヲ發行シ營業上ニ使用スルヲ得ヘキ資金ヲ增加スルニ由ル況ンヤ墺國中央銀行ノ如キハ八千萬「フロリン」ノ額ヲ無利子ニテ政府ヘ貸上ケ伊國國立銀行ノ如キハ十億「フラン」ヲ極度トシ政府ヘ貸上ヲナスヲ約シ之ニ對シ當初千分ノ五ノ利子ヲ受ケ後之ヲ減シテ千分ノ四トシ實際ノ貸付高九億四千萬「フラン」ニ達セリ其日本銀行ノ得ル所ノ純益ノ如キハ擧テ第一號表第十五欄ニ詳ナリ然レトモ人各〻其性ヲ異ニシテ其說ヲ同フセス億兆ノ衆中或ハ之ヲ以テ政府僅々ノ日本銀行株主ニ私スルモノナリト云フモノナキヲ得サルナリ然リト雖是レ固ヨリ謬見ノミ敢テ意トスルニ足ラサルナリ何トナレハ該行カ國立銀行紙幣補充ノ爲メニ發行シ得ヘキモノヽ如キハ明治三十年ヲ過キサレハ其金額ヲ發行スルコト能ハス又其期ニ至ルマテハ年々僅々百餘萬圓ヲ發行シ得ルニ止マリ且日本銀行ハ他ノ銀行會社トハ全ク其性質ヲ異ニシ曩ニ創立ノ際陳述シタルカ如ク政府財政ノ機關トナリ全國ノ金利ヲ低減シ銀行會社ノ資力ヲ擴張シ內外手形ノ割引ヲナシ商業上ノ信用ヲ助長スルカ如キ其功益固ヨリ少シトセス況ヤ日本銀行ハ商況ノ變動ニ際シ時ニ或ハ低利ノ貸付ヲ爲シ又ハ割引ノ步合ヲ減少セサルヲ得サルヘシ加フルニ兌換券製造費アリ國庫金ノ出納ヲ司リ國庫

ノ費用ヲ減スルノ功績アリ其第一號表第十五欄ニ於テ示スカ如キハ決シテ過當ノ報酬ナリト謂フヘカラサルナリ

政府借入金償還ノ方法ハ借入ノ年ヨリ四箇年据置キ二十六年ヨリ別紙第二號表第三欄ニ於テ示スカ如キ特ニ資金ヲ設ケテ年々之ヲ償還シ明治四十五年卽チ日本銀行營業終期ニ於テ償還シ盡スノ計畫ナリ而シテ別紙第五號表ニ於テ示スカ如ク國債元金ノ償還ハ皆其年限內ニ於テ之ヲ了スヘキノ計算ナルヲ以テ實際ニ臨ミ日本銀行ヘノ償還ヲ增加セント欲セハ國債償還ノ高ヲ減シ之ニ充ルモ敢テ妨ケナカルヘシ

抑兌換券ノ發行法タル其類種々アリ或ハ發行高ニ對シテ正貨準備ノ比例ヲ定ムルモノアリ之ヲ準備比例法ト云フ或ハ正貨準備ナキノ發行ハ右制限ヲ超過スルヲ得サラシムルモノアリ之ヲ發行制限法ト云フ或ハ正貨準備ナキノ發行高ヲ制限シ且發行總高ニ對シテ正貨準備ノ比例ヲ定メ必要已ムヲ得サル場合ニ方テハ其制限ヲ超過シテ發行スルヲ許スト雖モ其超過高ニ若干ノ發行稅ヲ課シテ以テ濫發ヲ防クモノアリ之ヲ制限屈伸法ト云フ或ハ發行高ト準備トノ比例ヲ法律上ニ確定セス市場ノ景況ニ由リ隨時之ヲ伸縮スルモノアリ之ヲ比例伸縮法ト云フ其他數法アリト雖モ此ニ枚擧スルニ暇アラス

右諸法ノ得失ヲ考フルニ準備比例法ハ必ス法律上ノ比例ニ應スル正貨準備（例ヘハ發行高三分ノ一）ヲ要スルモノナルニ由リ一朝不幸ニシテ信用壞亂シ又ハ外國貿易ノ變動ニ由リ正貨ノ需要ヲ來シ銀行ノ準備減少スレハ其減少額三倍ノ銀行券ヲ市場ヨリ引揚ケサルヲ得ス爲メニ益〻市場ノ狂瀾ヲ發動スルノ結果ヲ致ス可シ又該法ハ準備ヲシテ其效用ヲ全フスルヲ得サラシムルノ患アリ

例ヘハ茲ニ一銀行アリ其發行高壹千萬圓ニシテ正貨準備四百萬ナリトセン卽チ發行高五分ノ二ニ當ル準備ヲ有スルナリ然ルニ一朝百萬圓ノ交換ヲ請フモノアレハ準備ハ減シテ參百萬圓トナリ發行高ハ九百萬圓トナル卽チ恰モ三分ノ一ノ制限ニ達スルヲ以テ是ヨリ以往銀行ハ復タ更ニ壹圓券ノ兌換ニモ應スルヲ得ス若シ之ニ應セシカ準備ノ比例ヲ破リ之ヲ拒絕セシカ兌換ノ本義ニ悖ル兩ツナカラ法律ノ罪人タラサルヲ得サルノ不幸ニ陷ルヘシ故ニ準備比例法ハ現ニ存在スル所ノ準備ト雖モ尙ホ之ヲ使用スル能ハス大ニ其效力ヲ減却ス是レ活潑ノ市場ヲ制スルノ法ニアラサルナリ伊多里西班牙等ノ諸邦皆此法ヲ用ヒ幸ニ前記ノ不幸ニ陷リシコトナシト雖モ是レ銀行者ノ戒愼ト、熟練トニ由ルモノニシテ發行法ノ完美ナルカ爲メニアラス其發行法ハ前ニ記述スルカ如キ病根アルヲ免カレサルナリ

發行制限法ハ若干額ヲ定メテ正貨ノ準備ナシニ兌換券ヲ發行セシメ其他ノ發行ニハ盡ク同額ノ準備ヲ要シ信用壞亂シ中央銀行ノ紙幣ヲ要スル多キニ際スルモ尙ホ之ヲ增加スルヲ許サス夫レ市場ニ狂瀾ヲ生スルニ際スレハ信用概ネ地ニ墜チ僅ニ之ヲ保ツヲ得ルモノハ獨リ政府ト中央銀行トアルノミ故ニ此不幸ニ遭遇スルヤ中央銀行ハ其信用ヲ使用シテ以テ他ノ信用ヲ支ヘサル可カラス然ルニ發行制限法ハ此急ニ臨ミ中央銀行ヲシテ充分ニ其信用ヲ使用スルヲ得セシメサルノミナラス却テ其流通ヲ減少セサルヲ得ス其不便言フ可カラサルモノアリ英國ノ如キハ此法ヲ用ヒ英倫銀行其他銀行ノ發行高ヲ三千五十一萬千七百五十磅ト定メ其他ノ發行ハ盡ク正貨ノ準備ヲ要スルモノトシ市場ノ需要增加スルト雖モ制限ヲ超過スルヲ許サス故ニ一朝市場ニ狂瀾ヲ生スルノ不幸ニ際スレハ非常ノ不便ヲ覺ヘ遂ニ行政處分ヲ以テ法律ヲ停止

シ英倫銀行ニ制限外ノ發行ヲ許シ纔ニ恐慌ノ鎮定スルヲ得タルコト前後數回ニ及ヘリ卽チ西曆千八百四十七年同五十七年同六十六年ノ恐慌是レ・ナリ元來行政處分ヲ以テ國家ノ成法ヲ停止スルハ非常ノ權道ナリ而シテ尙ホ英國政府此手段ニ憑ラサルヲ得サル所以ノモノハ一ニ發行法ノ不完全ナルニ由レリ抑〻法律ヲ以テ正貨準備ナキ兌換券ノ發行額ヲ限ルハ甚タ可ナリト雖モ豫メ非常ノ場合ニ應スルノ策ヲ畫セス該法ノ不便知ルヘキノミ

制限屈伸法ハ正貨準備ナキノ發行高ニ制限ヲ設ケ且ツ發行總高ニ對シ相當ノ割合ニ從ヒ一定ノ正貨準備ヲ置キ市場ノ需要增加シテ萬止ムヲ得サル場合ニハ制限ヲ超過シテ正貨準備ナキ發行ヲ爲スヲ許シ其超過額ニ發行稅ヲ課シテ以テ濫發ヲ防クモノトス故ニ未タ全ク準備比例法ノ不便ヲ免レスト雖モ融通閉塞ノ患ハ之ヲ除クヲ得ヘシ而シテ制限外ノ發行高ニハ租稅ヲ課スルニヨリ市場平穩ニ歸シ金利常況ニ復スルニ至レハ增發ノ利ナキヲ以テ法律自然ノ作用ニ由リ發行高ヲ制限以內ニ減縮スヘキモノナリ獨乙ノ如キハ此法ヲ用ユルモノニシテ頗ル巧妙ナリト謂フヲ得ヘシ

比例伸縮法ハ發行高ト正貨準備トノ比例ニ法律上一定ノ割合ヲ置カス市場ノ需要ト正貨ノ出入トヲ參酌シテ或ハ半額ト定メ或ハ三分ノ一若クハ四分ノ一ト定メ世上信用壞亂シ大ニ貨幣ヲ要シ中央銀行信用ヲ以テ商工會社等ノ信用ヲ救援セサルヲ得サル場合ニ於テハ準備ノ比例ヲ低下シテ以テ充分ニ其信用ヲ使用スルノ餘地ヲ得セシム是ヲ以テ發行制限法ノ市場ノ需要ニ應シテ其流通ヲ屈伸スル能ハサルト準備比例法ノ市場ニ狂瀾ヲ生スルニ際シ却テ其流通ニ急劇ノ減少ヲ來サヽルヲ得サルトニ比スレハ大ニ優ルモノアリトス佛蘭西、白耳義、和蘭ノ如キ

皆此法ヲ用ユルモノナリ

顧ミテ我兌換銀行券條例ヲ按スルニ其ノ第二條ニ兌換券發行高ニ對シ銀貨ヲ以テ相當ノ引換準備ヲ置カシムル旨ヲ規定セリ是レ當時銀紙ノ差未タ全ク除却セス殊ニ業務上慣熟ヲ缺クノ際先ツ發行高ト同額ノ正貨準備ヲ置カシメ著々歩ヲ進メテ漸次其發行ヲシテ準備ノ二倍若クハ三倍ニモ達セシメントノ精神ナリ敢テ準備ノ比例ヲ法律上ニ一定セス事業ノ伸張ト市場ノ需要トニ由リ屈伸張弛貨幣ノ流通ヲシテ圓滑流暢ナラシム所謂比例伸縮法ニ據リタルモノトス然レトモ右第二條ハ法文頗ル簡潔ニシテ或ハ所謂相當ノ準備トハ其比例ノ決定ヲ全ク銀行ニ放任スルノ疑ナキ能ハス今ヤ政府ノ紙幣ヲ全廢シ兌換券ヲ以テ流通ノ基礎ト爲ントスルニ際シ益〻其ノ發行法ニ於テ公衆ノ疑惑ヲ容レサラシムルノ必要アルヲ感セリ因テ上文諸法ノ得失ヲ考ヘ歐洲各國ノ實例ヲ案シ以テ我國方今ノ形況ニ適スルノ制ヲ求ムルニ第一正貨準備ニ對スル兌換券ハ其發行額ヲ制限セス第二證券準備ニ對スルモノニ至リテハ法律ヲ以テ明ニ其發行額ヲ制限スト雖モ市場ノ必要アルニ際シテ特ニ之ヲ超過スルヲ得ルノ活路ヲ開クヲ以テ最良ノ方法ト爲スヘシ是レ發行制限法ノ弊ヲ矯メテ制限屈伸法、比例伸縮法等ノ利ヲ收ムルモノナリ

今夫レ政府銀行兩種ノ紙幣漸ク銷却セラルヽニ從ヒ兌換券ハ我國流通ノ基礎トナリ商工業ハ勿論其他百般ノ取引ニ至ルマテ金銀貨ニ代リテ交易ノ媒介トナルモノハ總テ兌換券ナラサルナク殆ト全國流通ノ總額トナルヘシ而シテ此總額タルヤ市場ノ需要ト貿易ノ變遷トニ由リ一弛一張以テ其變ニ應スヘキハ勿論ナリト雖モ其流通少キニ過クレハ物價低落シテ貿易不振ニ

陷リ多キニ過クレハ購買力ヲ減少シテ正貨ノ外出ヲ促ス等其多寡増減ハ大ニ財政上ニ影響ヲ及ホスモノタラサルヲ得ス勿論其流通額ノ中正貨準備ニ相當スル部分ハ假令幾何ノ増加ヲ來ストモ唯世間ニ流布セル正貨ノ轉シテ銀行ノ庫中ニ集リ兌換券之ニ代リテ其空隙ヲ補フニ過キサレハ其一般ノ流通ニ影響スル處ハ初ヨリ正貨ノ依然世間ニ流布シタル時ト毫モ異ル事ナキナリ故ニ此部分ノ發行ハ全國ノ通貨ヲ増減スル所ナキノミナラス自然正貨ノ出入ニ制限セラルヽヲ以テ敢テ濫發ヲ恐ルニ足ラス然レトモ其正貨準備ニ超過スル部分（例ヘハ發行高壹億圓ニシテ正貨準備六千萬圓ナレハ殘四千萬圓ハ超過ノ部分ナリ）ニ至リテハ直接ニ一般ノ流通貨幣ヲ増減スルカ故ニ其濫發頗ル憂ルニ足ルモノアリ銀行カ信用ヲ濫用スルモ全國ノ商況ヲ過敏ナラシムルモ市場ノ恐慌ヲ促スモ皆此部分ノ發行ヲ濫リニ増加スルノ結果タラサルハナシ是レ英獨墺諸國ニ於テ正貨準備ナキノ發行ニ制限ヲ置キタル所以ニシテ（英國ハ英倫銀行ニ千六百二十萬磅其他ノ銀行ニ千四百三十萬千七百五十磅合計三千五十一萬千七百五十磅マテ獨逸帝國銀行ニ二億七千三百八十七萬五千「マルク」マテ墺太利・墺洪銀行ニ一億一千百二十五萬「マルク」合計三億八千五百十二萬五千「マルク」マテ墺太利・墺洪銀行ニ一億一千百二十五萬「マルク」其他ノ銀行ニ二億「フロリン」マテノ發行ヲ許セリ但墺國ニテハ右ニ二億「フロリン」ノ外政府ヨリ一億五千萬「フロリン」ノ紙幣ヲ發行スルヲ得ルモノトス）我銀行券ノ如キモ亦正貨準備ナキ發行ノ制限高ヲ七千萬圓ト定メ以テ其増發ヲ防クコト極メテ緊急ナリトス

而シテ國立銀行紙幣ノ流通高ハ別紙第六號表ニ示スカ如ク漸次其高ヲ減少シテ豫定ノ年限ニ至レハ遂ニ之ヲ全消シテ市場ニ貳千七百餘萬圓ノ空隙ヲ生スヘシ故ニ宜シク英獨ノ制ヲ折衷シ銀行紙幣ノ漸次減少スルニ隨ヒ其減少高ヲ以テ日本銀行ノ發行高ニ加ヘ漸次其高ヲシテ七千萬圓ニ達セシムルコトヲ許ス可シ是レ兌換券ト銀行紙幣トヲシテ彼是消長シテ以テ流通上ニ劇變ヲ來サヽラシメンコトヲ欲スルナリ要スルニ日本銀行ノ正貨準備ヲ要セスシテ漸次發

行シ得ルノ兌換券ハ其極度ニ達スルモ猶ホ七千萬圓餘ヲ過クルコトナシ

我國通貨ノ需用十年來ノ經驗ニ據レハ嘗テ壹億貳千萬圓ヨリ降下セシコトナシ果シテ然レハ七千萬圓餘ハ其五分ノ三弱ニ居ルヲ以テ如何ナル事情アルモ我社會ノ必ス要スル所ニシテ之ヲ兌換ナクシテ市場ニ流通セシメ得ル高ナリト斷定スルモ敢テ過當ニアラサルヘク且其高ハ我政府歳入額ニ達セス以テ租稅其他上納ノ爲メ必ス民間ニ要スルモノナレハ豈其價格ヲ失フノ恐アランヤ況ヤ方今紙幣ノ供給已ニ過多ナラサルニ銀行紙幣ノ額ハ年々減少シテ豫定ノ年限ニ至レハ遂ニ貳千七百萬圓餘ノ空隙ヲ生スヘク且百般事業ノ發達モ亦以テ通貨ノ需要ヲ増加スルニ至ルハ必然ナルニ於テオヤ此七千萬餘圓ノ證券抵當ノ兌換券ハ則チ後ノ空隙ヲ滿シ此ノ需要ニ供給スルモノナレハ決シテ我國ノ爲メニ過多ナリト云フヲ得ス

嘗テ獨乙ニ於テ銀行法ヲ改正スルニ當リ當時國内ニ於テ正貨準備ニ超過セル流通高ヲ統計シテ人口ニ比例セシニ一人ニ付我參圓六拾五錢ニ當レリ而シテ英國ハ一人ニ付貳圓六拾四錢佛國ハ一人ニ付壹圓貳錢ニ當レルヲ見テ獨乙國ノ無準備流通高ハ英佛ニ比スレハ頗ル多キニ過クルヲ悟リ乃チ改正法ニ於テ大ニ節制ヲ加ヘタリト云ヘリ我國兌換券ノ正貨準備ニ超過スル高ハ數年間ハ五千萬圓ヲ超過スルコト多カラサルヲ以テ（國立銀行紙幣ノ減少高ハ明治三十年ニ至ルマテハ年々僅ニ百萬餘圓ナレハ實際本文ノ如キ勘定トナルナリ第六號表參觀）之ヲ人口三千八百五十萬七千七十七人（明治十九年十二月末日調）ニ比例シ一人ニ付壹圓貳拾九錢餘トナル而シテ明治三十年ニ至リ同額七千萬餘圓ヲ發行スルモ尚ホ一人ニ付壹圓八拾壹錢ヲ超過セス又以テ方今ノ無準備紙幣ノ有高ト人口トノ比例ニ異ナルコトナク其適度ヲ失セサルヲ見ルヘシ各國貧富ノ度通貨ノ額等相同シカラサルモ正貨準備ヲ超過スル流

通高一人ニ付僅ニ壹圓乃至貳圓ニ止ルニ於テハ危險ノ恐ナキヤ明ナリ

斯ノ如ク七千萬圓ヲ以テ極度額ト定メ毫モ餘地ヲ設ケサルトキハ英國制限法ノ困難ヲ來スノ恐アルヲ以テ宜ク獨乙ノ制ニ倣ヒ市場紊亂大ニ通貨ノ需要ヲ增シ銀行ヲシテ商工社會ノ危急ヲ救ハシムルノ必要アルトキハ特ニ大藏大臣ノ許可ヲ得テ其極度額ヲ超過スルヲ得セシメ其超過額ニ對シテ年五分以上ノ發行稅ヲ課スヘシ大藏大臣ハ市場ノ形況ヲ察シ兌換券ノ增發ヲ要セスト認ムルニ於ハ固ヨリ之ヲ許可セサルヘク又之ヲ許可スルモ發行稅率ヲ定ムニ當リ銀行ヲシテ市場平穩ニ歸スレハ發行高ヲ制限以內ニ收縮セサルヲ得サラシムルヲ期スヘキニヨリ斷シテ濫發ノ弊ヲ釀生スルノ恐ナシト言フヲ得ヘキナリ蓋シ市場ノ需用增加スルニ當テハ利子及割引步合從テ上進スルヲ以テ銀行ハ五分以上ノ稅ヲ納ムルモ尙ホ兌換券ヲ發行シテ其需要ニ應スルヲ得ヘシト雖モ金利平日ノ步合ニ復スレハ增發ノ利益ヲ見サルニ由リ其發行高ヲ收縮スヘキハ自然ノ勢ノミ

右陳述ノ主旨ニ依リ戒愼ト熟練トヲ以テ之ヲ行ハヽ金融圓滑ニシテ而モ兌換券濫發ノ恐ナク政府紙幣ノ整理ト相待テ以テ全國理財ノ宜シキヲ得ンコト疑ヲ容レス（計表ハ略ス）

前記兌換銀行券條例ノ改正ニ由リ明治二十二年一月以降兌換券ヲ以テ政府紙幣銀行紙幣ノ銷却ニ從事シ隨時民間ノ需要ニ應シ以テ漸次兌換畫一ノ制ニ歸セシムルヲ期セリ蓋シ同年ハ物價大ニ騰貴シ金融一時逼迫ヲ告ケ殆ト恐慌ノ兆アリシモ蠶絲輸出ノ好況ヲ呈シタル等ノ爲メ稍ヽ平穩ニ經過スルコトヲ得終ニ兌換券モ亦其條例制限額以外ニ增發スルノ必要ヲ見サリシ然ルニ明治二十三年二月ニ至リ諸會社株金拂込ノ期ニ接シ且米價ニ不測ノ變動ヲ生セシ等ノ爲メ金融頗ル

壅塞セリ夫レ本邦市場ノ金融ハ秋冬ノ候一時繁劇ヲ告クルモ春季漸ク緩慢ノ狀ヲ呈スルヲ常態トスルニ拘ラス同年ハ反對ノ現象ヲ呈シタルヲ以テ若シ之ヲ自然ノ狀態ニ放任スル時ハ或ハ恐慌ヲ惹起シ漸ク勃興セントスル所ノ事業ハ玉石共ニ之ヲ碎カサルヘカラサルノ虞ナシトセス是ニ於テ日本銀行ハ此ニ注目シ改正兌換券條例第二條ニ依リ制限外ニ該券ヲ發行シ焦眉ノ急ヲ救濟センコトヲ稟請セリ仍テ政府ハ此稟請ヲ入レ三月一日其稅率ヲ五分トシ之カ增發ヲ認可シタルヲ以テ同月以降之ヲ發行シタルモ其額ハ僅々五拾萬圓ニ止マリ且四月ヲ以テ悉ク之ヲ引揚クルニ至レリ是レ蓋シ此增發ノ認可アルニ際シ金祿公債證書五百萬圓ノ償還アリテ其元利金ノ一時市場ニ流出シタルト制限外增發ノ擧アルニ會シ前途金融疏通ノ望ヲ生セシニ由ルナリ斯ノ如ク明治二十三年ノ春季ニ於テ金融繁忙ヲ告ケ市場ニ異狀ヲ呈セシハ前陳ノ如ク諸會社ノ株金拂込期ニ迫リシト米價ノ騰貴之カ主因タリシハ敢テ疑ヲ容レスト雖モ當時貿易ノ伸張及新事業ノ發達實ニ意表ニ出テ市場漸ク通貨ノ缺乏ヲ感セシトキ我邦固有ノ情況ニ由リ外國貿易ノ爲メ中央銀行ノ發行制限高ヲ增加セサルヲ得サルノ必要トニヨリ明治二十三年五月法律第三十四號ヲ以テ兌換銀行券條例中更ニ改正ヲ加ヘ保證準備發行ノ額七千萬圓ナリシヲ八千五百萬圓トナシ又政府ヘノ貸金ニハ從來二分ノ利子ヲ付スヘキモノナリシヲ改メテ無利子トセリ而シテ其理由ハ時ノ大藏大臣伯爵松方正義ヨリ政府ヘ提出シタル建議ニ明ナルヲ以テ左ニ之ヲ揭ケン

兌換銀行券發行制限高擴張ノ建議

輓近我國百般事業ノ擴張スル古今未タ曾テ其例ヲ見ス曩ニ兌換銀行券條例ノ改正セラルヽヤ廟議保證準備發行ノ額ヲ七千萬圓トシ內貳千七百萬圓ハ銀行紙幣ノ減少ニ從ヒ漸次ニ發行ス

ルモノトシ政府所有ノ準備ハ之ヲ日本銀行ニ引繼キ以テ紙幣償還ニ宛テ其不足高ハ貳千貳百萬圓ヲ限リ同行ヲシテ之ヲ政府ニ貸付セシメ明治三十年マテハ年二分ノ利子ヲ付スヘシト定メラレタリ是レ當時貿易ノ景況ト日本銀行ノ收利トヲ斟酌シ制定セラレシモノニシテ固ヨリ其當ヲ得タルモノナリト雖今ヤ凡百ノ事業正ニ陽春發生ノ季ニ遭遇シ當時ノ計畫已ニ方今ノ勢ニ應スル能ハス況ヤ將來ニ於テオヤ試ミニ明治二十年以前外國貿易ノ景況ト日本銀行及横濱正金銀行ノ取引高ヲ見ルニ外國貿易ハ八千六百餘萬圓(明治十九年中)ヨリ進テ壹億參千餘萬圓(明治二十二年中)ニ增進シ日本銀行ノ取引高ハ貳千七百四拾壹萬餘圓(明治十九年中)ヨリ壹億千參百參拾九萬餘圓(明治二十二年中)ニ正金銀行ノ取引高ハ六千貳百七萬餘圓(明治十九年中)ヨリ七千乃至八千餘萬圓ニ增加シ(第一表參看)又外國貿易ニ對シ通貨ノ割合ヲ視ルニ十九年ニハ外國貿易ノ通貨流通高ノ五割九歩餘ナリシモ二十二年ニハ八割八歩餘ニ當リ(第二號參看)內外貿易ノ發達伸暢スル實ニ意表ニ出テタリト云フヘシ而シテ會社ノ設立陸續踵ヲ接シ二十年以來株金ノ申込高實ニ壹億參千七百餘萬圓內拂込高四千萬圓ヲ降ラス其拂込未濟ノ額凡壹億圓ハ今後兩三年ノ間ニ之ヲ要ス可シ是レ兌換制度回復ノ效漸ク顯レ信用ノ器具亦稍ヤク備リ百業健全之カ萌芽ヲ發シ進ンテ其果ヲ結フニ職由スルモノニシテ海陸運漕ノ便亦大ニ之カ媒ヲナスニ由ラサルハナシ今ヤ運輸ノ便往日ノ比ニアラス而シテ碓氷ノ險ヲ貫キ北海ノ不毛ヲ開キ中國ノ野ヲ通シ九州ノ岳ヲ夷クル亦數年ヲ出テサルヘシ果シテ然ラハ異日貿易ノ伸暢ヲ見ル亦今日ノ比ニアラス金融ヲ要スル實ニ同日ノ論ニアラサルヘシ今附屬表計數ノ示ス所ニ據レハ日本銀行ノ資力已ニ方今ノ需要ヲ充スニ足ラサルノ觀ナキヲ得ス今ニシテ相當ノ策ヲ講セスンハ通貨需給ノ權衡ヲ失シ事業圓滑ナル

ヲ得ス大ニ其進歩ヲ障害スルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ而シテ貨幣ノ需給ヲシテ平準ナラシメンカ爲メ中央銀行ノ利子割引歩合ヲ增加シ以テ居ナカラ正貨ノ供給ヲ外國ヨリ得ルハ我國經濟上地理上未タ劇カニ爲シ能ハサル所ノモノアリ彼ノ歐洲各國ハ互ニ其境ヲ交ヘ市場近接往復ニ時日ヲ要セス其間利子ヲ失フ甚タ少キヲ以テ毫厘ノ差違能ク外資フ呼フニ足レリ我ハ則然ラス彼我往復ノ間三箇月ヲ要シ其間利子ノ損失實ニ僅少ナラス非常ノ差違アルニアラサレハ外資ヲ呼フニ足ラサルナリ單ニ歐洲貨幣市場ヨリ現金ヲ輸送スルモ尙凡ソ四十日ヲ要ス我貿易港ノ資本缺乏シ之ヲ補フ能ハスンハ此間貿易ヲ支フル能ハス我輸出ノ道卽チ斷ツ果シテ然ラハ我物產ハ皆競爭ヲ免レサル者ナルヲ以テ競爭國ヲ利シ我ノ不利ヲ釀スハ敢テ疑ヲ容レサルナリ果シテ然ラハ今日ノ策ヲ爲スモノハ少シク條例ノ制限ヲ擴張シ保證準備ニ對シ發行スルヲ得ル所ノ兌換銀行券ノ額ヲ增加シ之ヲ八千五百萬圓ト爲スニアリ然ラハ則チ方今日本銀行カ保證準備ヲ以テ發行シ得ル所ノ貳千貳百餘萬圓(七千萬圓ノ金額ヲ發行シ得ルハ政府紙幣ト銀行紙幣銷却後ニアリ)ハ增シテ參千七百餘萬圓トナリ現在將來ノ需要ヲ充スニ足ラン(尤モ直ニ壹千五百萬圓ヲ增發セシムルニアラス常ニ十分ノ檢束ヲ加ヘ內外貿易上已ムナキノ需要額ヲ發行セシムル積ナリ)斯ノ如クナレハ日本銀行ノ利益亦增加スルヲ以テ他日二十一年七月勅令第五十九號ノ結果トシテ紙幣銷却ノ爲メ借入ルヘキ金額ニ對シテ利子ヲ付セサルモ敢テ差支ナカルヘシ果シテ然ラハ是レ亦他日國庫ノ費用ヲ減スルノ一端ニシテ一方ニ於テハ融通ヲ資ケ大ニ內外貿易ノ發達ヲ促シ一方ニ於テハ國費ヲ減シ財政ヲ裕ニスルヲ得ヘク實ニ一舉兩全ノ策ト云フヘシ論者或ハ云ハン壹千五百萬圓ノ增加ハ或ハ前陳ノ結果ヲ得ヘシト雖正

貨ノ輸出ヲ促シ紙幣準備ノ比例ヲ薄弱ニシ兌換銀行券ノ信用ヲ傷クルコトナキヲ保セサルナリト然レトモ是レ其一ヲ知リテ未タ其二ヲ知ラサルニ坐スル者ニシテ固ヨリ一個ノ杞憂タルニ過キサルナリ請フ少シク之ヲ辯セン已ニ陳述セシカ如ク近年貿易ノ增進スル意表ニ出ツル者アリ今試ニ十九年ト二十二年トノ外國貿易額ヲ比較スルニ其增加實ニ四千九百九拾萬餘圓日本銀行橫濱正金銀行ノ取引高ヲ以テ十九年ト二十一年トヲ比較スレハ九千五百六拾貳萬餘圓（日本銀行七千七百參拾餘萬圓正金銀行千八百參拾貳萬餘圓）二十二年ヲ以テ十九年ニ比較スレハ九千六百貳拾參萬餘圓（日本銀行八千五百九拾七萬四千餘圓正金銀行千貳拾五萬九千餘圓）ヲ增加セリ

夫レ貿易高ノ增進スルヤ隨テ貨幣ノ需要多キヲ加フルハ敢テ多辯ヲ要セス曩ニ十九年一月兌換制度ノ回復セラルヽニ當リ流通紙幣ノ總高壹億貳千貳百拾五萬餘圓方今（即チ二十三年三月末日）ノ流通高壹億四千四百七萬餘圓之ヲ十九年一月ノ高ニ比シテ貳千百九拾貳萬餘圓ヲ增スト雖モ尙目下ノ不融通ヲ示シ其增加ノ步合ハ貿易膨脹ノ度ニ及ハサル事遠ク今ヨリシテ通貨ノ增加ヲ計ラサレハ秋冬ノ季貿易ノ盛時ニ際シ金融繁忙ナルニ當リテハ殆ント之ヲ奈何トモスル能ハサルノ恐アリ今之ニ壹千五百萬圓ヲ增加スト雖モ其增加合シテ參千六百九拾貳萬餘圓之ヲ內外貿易ノ增加ニ比シテ決シテ過當ノ增加ト云フヲ得ス其高遙ニ需要點以內ニ在リテ正貨ヲ驅馳スルノ效力ナキヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ今一步ヲ進メテ準備ノ景況ヲ見ルニ十九年以來準備正貨ノ高之ヲ紙幣總高ニ比シテ逐年多キヲ加ヘ十九年ノ準備在高ハ四千五百貳拾七萬餘圓ニシテ紙幣總高ニ對シ三割七分二十三年三月末日ノ準備在高ハ紙幣總高ノ四割三分七厘ニ相當シ實ニ六分七厘ノ增加ヲ示ス而シテ十九年一月兌換制度ノ回復セラルヽヤ兌換ヲ請求スルモ

ノ甚タ少ク容易ニ兌換回復ノ功ヲ奏スルヲ得タリ是他ナシ當時紙幣流通高國家ノ需要點ニ超過セス準備在高亦過少ナラス以テ人心ヲ安スルニ足レリ是レ人民已ニ紙幣ノ使用ニ慣レ正貨ノ取扱ニ不便ニシテ紙幣ノ以テ之ニ優ルモノアルヲ悟リシニ由ルナリ爾來貿易ノ發達前陳如ク當時ノ流通ニ參千六百九拾貳萬餘圓ヲ加フト雖モ決シテ過當ノ增加ニアラス却テ過少ナルノ觀ナキヲ得ス而シテ準備ノ步合ハ尙當時ノモノニ六分七厘ヲ超過シ兌換ノ基礎一層鞏固ナレハ敢テ疑ヲ容レス豈壹千五百萬圓ノ發行能ク流通ヲシテ過多ナラシメ正貨ヲ驅馳スルノ結果ヲ來スノ恐アランヤ況ヤ又紙幣ハ不伸不屈ノ不換制度ヨリ變シテ屈伸張弛自在ナルノ兌換制度トナリシニ於テオヤ由是觀之明治二十一年七月勅令第五十九號ノ制限高ニ壹千五百萬圓ヲ加ヘ十九年一月ノ流通高壹億貳千貳百拾五萬餘圓ニ參千六百九拾貳萬餘圓ヲ增加スルモ決シテ前陳論者ノ患フルカ如キ結果ヲ生スルコトナキハ之ヲ計數ニ徵シテ又何ヲカ疑ハンヤ今ヤ平年金融緩慢ノ期ナルニ尙目下壅塞ニ際會ス秋冬ノ季生絲輸出ノ盛時ニ際スルニ於テハ金融ノ要大ニ增加スルハ敢テ疑ヲ容レス今日ニシテ之カ計ヲ爲サヽレハ貿易ノ發達得テ望ムヘカラス速ニ閣議ヲ決セラレンコト冀望ノ至リニ堪ヘス

明治二十三年四月

大藏大臣　伯爵　松方正義

內閣總理大臣　伯爵　山縣有朋　殿

此建議ハ閣議ノ容ル丶所トナリ法律第三十四號ヲ以テ左ノ如ク公布セラレタリ

法律第三十四號（明治二十三年五月十六日）

兌換銀行券條例第二條第二項但書中七千萬圓トアルヲ八千五百萬圓ニ改ム

同條第四項ヲ左ノ通改ム

日本銀行ハ政府發行紙幣銷却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ニ貸付スヘシ

明治三十年貨幣法ノ制定アルニ方リ法律第十八號ヲ以テ兌換銀行券條例ニ左ノ如ク改正ヲ加ヘラレタリ

法律第十八號（明治三十年三月二十六日）

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

是レ蓋シ貨幣法ノ制定ニ由リ金貨本位ヲ採用スルニ至レル結果ニ過キス而シテ此改正法律ハ明治三十年十月一日ヨリ之ヲ施行セラレタルヲ以テ兌換銀行券ハ爾來遂ニ金貨兌換トナレリ

明治三十一年政府ハ日本銀行ニ課税スルノ議ヲ定メ之ニ關スル法案ヲ帝國議會ニ提出スルコトニ決セリ抑〻日本銀行ニ課税セントスルニハ二種ノ方法アリ卽チ其一ハ兌換銀行券發行高ニ課税スルモノニシテ其二ハ納付金ヲ負擔セシムルモノ是ナリ而シテ政府ハ日本銀行ヲシテ納付金ヲ負擔セシムルロトニ決シ同時ニ兌換銀行券條例第二條第二項ヲ改正シ兌換銀行券保證準備發行

制限ヲ增加シテ壹億貳千萬圓ト改ムルコトヽシ右日本銀行納付金ニ關スル法律及兌換銀行券條例中改正法律ノ二法案ハ第十三期帝國議會ニ提出セラレタリ日本銀行納付金ニ關スル法律案ハ左ノ如シ

日本銀行ハ事業年度毎ニ株主總會ニ於テ決議シタル純益金總額ヨリ拂込株資本金ニ對スル一箇年百分ノ六ニ當ル金額竝ニ日本銀行條例第十條ニ據ル積立金ノ最少額ヲ引去リタル殘額ノ三分ノ一ヲ政府ヘ納付スヘシ

前項納付金及役員賞與金ヲ控除シタル殘額拂込ノ資本金ニ對シ一箇年百分ノ四ノ割合ニ達セサルトキハ其不足金額ハ納付金ヨリ控除シ納付スルコトヲ要セス

而シテ右法案ノ理由ヲ概敍スレハ抑〻日本銀行ハ國家ノ金融ヲ調和スヘキ公益上特種ノ目的ヲ以テ國家ト人民トノ共同ニヨリ組織セラレタルモノニシテ普通ノ銀行ノ如ク單純ナル營業ノ目的ヲ以テ人民ノ手ニ依リ設立セラレタルモノニアラス固ヨリ日本銀行ノ公稱資本金ハ他ノ營利的銀行ト等シク其株主ノ出資ヨリ成レリト雖モ國家モ亦其公益上ノ目的ニ基キ日本銀行ニ對シテ兌換銀行券發行ノ特權ヲ附與セルカ故ニ日本銀行ハ其株主ノ出資ニ係ル資本金ト此特權トヲ運用シ以テ其業務ヲ遂行スルノ結果其利益ヲ收ムルコトヲ得ルモノナリ卽チ壹億貳千萬圓ノ保證準備兌換券發行ノ特權ハ壹億貳千萬圓ノ出資ニ異ナラス假令政府カ特ニ用途ヲ指定セル金額ヲ除クモ尙ホ政府ハ日本銀行株金ノ總額ニ幾倍セルノ出資ヲ爲セルモノト云ハサル可ラス從テ國家モ亦日本銀行ノ利益配當ニ與ルノ權利ヲ有セルコト勿論ニシテ已ニ國家モ亦日本銀行ノ利益配當ニ與カルヘキモノトスレハ其配當ハ利益ノ大小ニ從ヒテ決定セラレサル可ラス從來日本銀

行カ國家ニ對シテ負擔セル諸種ノ義務ハ固ヨリ之ヲ以テ國家ニ對スル配當ノ一部ト見做スヘシト雖モ是レ尚ホ日本銀行ノ株主カ其持株ニ對シテ市場普通ノ利子ヲ得ルト一般日本銀行カ國家ノ金融機關トシテ當然負擔スヘキモノニ屬セリ故ニ從來日本銀行ノ負擔セル諸種ノ義務ヲ以テ株金ニ對スル市場普通ノ利子卽チ百分ノ六ト相對スルモノトスレハ日本銀行ノ純益金カ株金ニ對スル百分ノ六ノ配當及ヒ法定ノ積立ヲナシテ尚ホ殘餘アル場合ニハ國家モ亦當然株主ト等シク其供與セル利益ニ應シテ之カ配當ニ與カラサル可ラス且兌換券發行ノ特權ヲ日本銀行ニ附與シタルハ兌換券發行ヨリ生スル低利ノ資金ヲ以テ能ク我國商工業ニ金融ヲ與ヘ從テ金利ノ低落ヲ促シ我邦經濟ノ發達ヲ期スルニアリ然ルニ今此兌換券ノ發行ニ對シテ直ニ發行稅ヲ賦課セハ發行稅ハ金利ニ轉嫁セラルヽコトヽナリ兌換券發行ノ主旨ニ背クニ至ルヘシ故ニ日本銀行ノ利益ニ應シ納付金ヲ課スルノ制ヲ採ラサルヘカラスト云フニアリ

然ルニ政府提出ノ納付金ニ關スル法律案ハ遂ニ議會ノ容ルヽ所トナラス之ニ代フルニ兌換銀行券ノ發行高ニ對シテ課稅スルノ制ヲ採ルコトヽナレリ其理由トスル所ニ依レハ國家ハ已ニ日本銀行ニ附與スルニ保證準備ヲ以テ八千五百萬圓ノ兌換銀行券ヲ發行スルノ特權ヲ以テシタルニ此際更ニ參千五百萬圓ヲ增加シ壹億貳千萬圓ノ保證準備兌換銀行券ヲ發行スルノ特權ヲ附與セントス而シテ此特權タル本來國家ノ專有スヘキモノヲ以テ特ニ一私立會社タル日本銀行ニ附與スルモノナルカ故ニ日本銀行ヲシテ此特權ニ對スル相當ノ義務ヲ負擔セシムヘキモノニシテ日本銀行ハ兌換券發行ノ特權ニ依リ獨リ大ニ利益ヲ受クルモノナルカ故ニ其發行スル兌換券ニ對シ發行稅ヲ賦課スルヲ以テ當然ナリトス故ニ日本銀行ハ既ニ諸種ノ義務ヲ負擔セルヲ以テ此等

ヲ斟酌シテ日本銀行ヲシテ各事業年度毎ニ保證準備ニ依リテ發行スル兌換銀行券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ之カ發行稅ヲ納付セシメントス然レトモ政府ノ特命ニ基ケル低利又ハ無利子ノ貸付ニ對シテ其發行稅ヲ免除スルハ至當ノ事ナレハ固ヨリ之ヲ免除スヘシ而シテ此納稅ノ義務ハ日本銀行ノ負擔スヘキ他ノ義務トハ全ク關係ナキモノニシテ日本銀行カ從來負擔スル所ノ國庫金ヲ無手數料ニテ取扱ヒ貳千貳百萬圓ヲ無利子ニテ政府ヘ貸上ケ其他市場ノ金融ヲ調和スル等ノ義務ニ異動ナキハ勿論尚ホ今後國家ノ機關トシテ負擔スヘキ各種ノ義務ハ此發行稅ヲ賦課セラルヽカ爲メニ之ヲ免ルヽコトヲ得サルモノトスト云フニ在リ

如上ノ理由ニ依リ帝國議會ハ日本銀行納付金ニ關スル法律案ヲ修正シテ兌換銀行券發行稅法律案ヲ可決シ遂ニ明治三十二年三月九日法律第五十六號ヲ以テ公布セラレタリ卽左ノ如シ

法律第五十六號（明治三十二年三月九日）

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當スル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但政府ノ特別ニ依リ一箇年千分ノ十若クハ其以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其他ヘ貸付シタル兌換券ニ對シテハ其納稅義務ヲ免除ス

本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ已ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限リ納ムルモノトス

兌換銀行券發行稅法案ノ兩院ヲ通過スルヤ之ト關聯シテ政府ヨリ提出セル兌換銀行券保證準備ヲ擴張スヘキ法律案モ亦兩院ヲ通過セリ卽チ明治三十二年三月九日法律第五十五號ヲ以テ兌換銀行券條例中改正ノ件ヲ公布セリ卽左ノ如シ

法律第五十五號（明治三十二年三月九日）

兌換銀行券條例第二條第二項中「八千五百萬圓」トアルヲ「壹億貳千萬圓」ニ改ム

蓋シ日清戰役後ニ於ケル本邦經濟界ノ發達及事業ノ勃興竝ニ版圖ノ擴張人口ノ增加政府歲計ノ膨脹貨幣制度ノ改革及物價賃銀ノ昂騰等何レモ通貨ノ需要ヲ增加スルノ原因ニアラサルハナク曩ニ明治二十三年兌換銀行券條例ヲ改正シ保證準備發行制限額ヲ八千五百萬圓ト定メタル當時ニ比較スルニ其間著シク情況ヲ異ニシ諸事皆膨脹發達セサルモノナシト云フヘシ然レトモ爾來金融機關及信用制度モ亦著シク進歩發達セルカ故ニ諸般ノ事情ヲ參酌シテ更ニ參千五百萬圓ヲ增加シ合計壹億貳千萬圓ノ保證準備發行ヲ認可スルニ至リタルモノナリ

而シテ右壹億貳千萬圓ノ內貳千萬圓ハ年利二分ノ割合ヲ以テ橫濱正金銀行ヘ貸付クルノ義務アルカ故ニ實際一般社會ニ向テ增發シ得ル保證準備兌換券發行額ハ千五百萬圓ナルカ故ニ敢テ過大ノ擴張ニアラサルナリ

第三款　製造及發行ノ手續

兌換銀行券ハ明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例ニ據リ翌十八年ヨリ之ヲ發行シタリシカ其發行ニ關スル手續ハ同條例第十一條ニ依リ明治十七年七月四日大藏大臣ヨリ左ノ如ク命

令セラレタリ

明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例ニ據リ日本銀行ヲシテ兌換銀行券ヲ發行セシムルニ付其發行手續ヲ命令スル　如シ

第一條　日本銀行ニ於テ兌換銀行券ヲ發行スヘキ員額ハ此際貳百萬圓ト定ム但其融通ノ景況ニヨリ大藏卿之ヲ適當ナリトスルトキハ更ニ其增發ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高貳百萬圓ニ對シ相當ノ準備貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但其發行高ト準備金トノ割合ハ大藏卿時々之ヲ指定スルモノトス

第三條　兌換銀行券各種ノ發行高ハ取引ノ便宜融通ノ景況ヲ量リ日本銀行ノ稟申ニ據リ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ハ此員額ニ從ヒ且大藏卿指定スル所ノ書式圖形ニ因リ之ヲ製造スヘシ

第四條　兌換銀行券ノ製造ハ大藏省印刷局ニ依託シ其製造高ハ其種類員額番號記號等ノ明細書ヲ添ヘテ之ヲ大藏卿ニ上申スヘシ

第五條　兌換銀行券ハ日本銀行總裁ノ調印ヲ爲シ其記號番號等ヲ兌換銀行券元帳ニ記入シテ文書局長之ニ割印シ更ニ金庫局長ノ調印ヲ了シタル上發行スルモノトス

第六條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ換ヘ兌換銀行券ヲ以テ銀貨ニ換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ金高ノ多寡ヲ問ハス同額無手數料ヲ以テ營業時間中何時ニテモ交換ヲ爲スモノトス但補助銀貨ヲ以テ兌換スルトキハ金高拾圓ヲ超過スルヲ得ス

第七條　紙幣ヲ以テ兌換銀行券ニ換ヘ兌換銀行券ヲ以テ紙幣ニ換ヘンコトヲ請フモノアルト

キハ日本銀行ノ都合ニヨリ相當ノ打歩ヲ以テ交換スルモノトス但打歩ノ割合ヲ定ムルトキハ豫メ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券出納帳同交換帳ヲ設ケ日々ノ受拂ヲ明瞭ニ記入シ毎日營業ノ終ニ於テ兌換銀行券出納日表ヲ作リ翌日十二時迄ニ大藏卿ニ進達スヘシ又毎月末日ニ於テ兌換銀行券精算月表ヲ作リ翌月三日迄ニ大藏卿ニ進呈スヘシ

第九條　兌換銀行券染汚毀損等ノ爲メ通用シ難キモノハ無手數料ヲ以テ引換ヘ直ニ廢棄ノ鑿印ヲ爲シ其旨ヲ第五條ノ兌換銀行券元帳ニ記入ス可シ

第十條　前條ノ廢棄券ハ毎半季ノ引揚高ヲ取纒メ大藏卿ノ許可ヲ受ケタル上監理官ノ立會ヲ以テ燒亡シ其調書ヲ作リテ大藏卿ニ進呈スヘシ

第十一條　此命令書ニ記載スル帳簿計表ハ總テ大藏卿ノ指定スル書式ニ準據スヘシ

第十二條　此命令條款ハ大藏省ノ都合ニ由リ改正增削スルコトアルヘシ

右及命令候也

明治十七年七月四日

大藏卿　松方正義

日本銀行ハ此命令ニ據リ明治十八年一月十九日左ノ如ク兌換銀行券發行處務規定ヲ伺定セリ左ノ如シ

明治十七年五月七日太政官第十八號布告兌換銀行券條例及同年六月大藏卿ヨリ下付セラレタル發行手續命令書ニ據リ兌換銀行券發行處務規程ヲ定ムル左ノ如シ

第一條　本行ニ於テ發行スル兌換銀行券ハ大藏卿ノ允許セラレタル員額ヲ超過スヘカラス而

シテ其種類ハ壹圓、五圓、拾圓、貳拾圓、五拾圓、百圓、貳百圓ノ七種ニシテ其圖形書式ハ大藏卿ノ指定セラルヽ所ニ隨フモノトス

第二條　兌換銀行券ハ其表面ヘ總裁ノ印ヲ鈐シ而シテ之レカ記號番號ヲ整理シテ文書局長ノ割印ヲ爲シ更ニ裏面ヘ金庫局長ノ押印ヲ爲スモノトス

第三條　兌換銀行券製造總額ハ勿論每種類ノ員額共大藏卿ノ許可ヲ得テ之ヲ定メ其製造押印ハ總テ印刷局ヘ依託シ而シテ之レカ製造高ハ其種類枚數記號番號ヲ記シタル明細書ヲ作リ製造竣了ノ都度大藏卿ヘ上申スヘキモノトス

第四條　兌換銀行券ハ大藏卿ノ許可ヲ得豫備ノ爲メ發行スヘキ員額ヨリ多數ニ製造爲シ置クコトヲ得ヘシ但之ヲ豫備券ト稱シ發行券ト判然區別シテ保存スヘシ

第五條　發行シタル兌換銀行券ニ對シテハ大藏卿ヨリ指定セラレタル割合ニ遵テ準備銀貨ヲ置キ其引換ニ供スヘシ但本支店ニ保存スル銀貨ハ保護預リノ外總テ引換準備ニ充用スルヲ得ルモノトス

第六條　兌換銀行券ノ製造及豫備券保存等ノ事務ハ文書局ノ所轄トシ發行引換等ノ事務ハ金庫局ニ銀券課ヲ置キ之ヲ調理セシムルモノトス

第七條　兌換銀行券ヲ勘定スル本行主要ノ簿冊ハ左ノ如シ

兌換銀行券元帳

豫備兌換銀行券受拂帳

廢棄兌換銀行券受拂帳

發行兌換銀行券番記號元帳
同　出納帳
同　有高帳
同　交換帳

第八條　製造及押印濟兌換銀行券ヲ印刷局ヨリ受入ルヽトキハ豫備兌換銀行券受拂帳ヘ記入シ之ヲ發行スルニ臨ミテ其原券ト發行券トヲ截斷シ更ニ發行兌換銀行券番記號元帳同有高帳同出納帳等ヘ記入スヘシ

第九條　兌換銀行券ハ營業取引上ノ仕拂ニ充用シ爾後輾轉收支スルヲ得ヘシト雖モ其在高ハ總勘定元帳ニ關セス兌換銀行券出納帳中在高帳ニ於テ勘定シ而シテ總勘定元帳ハ兌換銀行券流通高ノ科目ヲ置キ其流通額ヲ勘定スルヲ例トス

第十條　銀行券ノ現在高ハ本店在高ノ通貨ト判然區別シテ之ヲ保存スルモノトス

第十一條　銀行券ノ引換ヲ請フモノアルトキハ準備銀貨ヲ以テ之ヲ引換（拾圓以下ハ補助銀貨ヲ以テ交付スルヲ得）

（ヘシ）兌換銀行券交換帳ヘ記載シ其銀行券ハ本行在高ニ組入ヘシ

第十二條　銀貨ヲ持參シテ銀行券ニ引換ヲ請フモノアルトキハ本行銀行券在高ヨリ拂出シテ之ヲ引換兌換銀行券交換帳ヘ記載シ其銀貨ハ引換準備金ニ充ツヘシ（補助銀貨ヲ持參スルトキハ拾圓以上ハ拒絶スト）

第十三條　金貨ヲ持參シテ銀行券ニ引換ヲ請フモノアルトキハ前條銀貨同樣ニ之ヲ引換其金貨ハ銀貨ニ交換シテ引換準備金ニ充ツヘシ

第十四條　紙幣ヲ以テ銀行券ニ換ヘ銀行券ヲ紙幣ニ換ンコトヲ請フモノアルトキハ本行ノ都合ニヨリ相當ノ打歩ヲ以テ之ヲ交換スヘシ尤其打歩ノ割合ハ豫メ大藏卿ノ許可ヲ受ケ最高最低ノ制限ヲ立テ置クモノトス

第十五條　銀行券汚染毀損等ノ爲メ運用シ難キモノハ豫備券ヲ以テ之ヲ引換フヘシ尤豫備券ヲ發行スルノ手續ハ第八條ノ如クシ而シテ引換ヘタル銀券ヲ兌換銀行券元帳ヘ對査同帳ヲ取消尚發行兌換銀行券元帳ヘ記載シ其銀行券ヘハ廢棄ノ鑿印ヲ爲シ廢棄兌換銀行券受拂帳ヘ記載スヘシ但其廢棄銀行券ハ半季毎ニ之ヲ取纏メ大藏卿ノ許可ヲ得監理官立會ヲ以テ印刷局ニ於テ燒棄シ其調書ヲ作リ大藏卿ヘ上申スヘキモノトス

第十六條　第十一條第十二條第十三條第十四條ノ引換ヲ爲スハ總テ手數料ヲ受取ルヘカラサルモノトス

第十七條　支店ニ於テハ本店準備金ノ內ヲ分置シテ兌換券ノ引換請求ニ應セシムヘシ而シテ引換ノ爲メ收入セシ兌換銀行券ハ支店ニ於テ別途ニ之ヲ保藏スヘキモノトス但本文引換ノ外支店營業取引上ニ於テ收支スル兌換銀行券ハ他ノ通貨ト異ナラサルモノトス

第十八條　銀行券ノ出納ハ出納帳ニ據リ日表ヲ作リ翌日十二時迄ニ大藏卿ヘ進呈シ又每月末日ニ於テ兌換銀行券精算月表ヲ作リ翌月三日迄ニ大藏卿ヘ進呈スヘシ

以上

斯クテ日本銀行ハ前記發行手續ニ準據シ明治十八年一月初メテ拾圓券ヲ製造シ五月九日ヨリ發行セリ之ヲ兌換銀行券發行ノ濫觴ナリトス壹圓券及百圓券ハ同年八月中之ヲ製造シ同年九月八

日ヨリ之ヲ發行シ五圓券ハ明治十八年二月之ヲ製造シ明治十九年一月ヨリ之ヲ發行セリ而シテ兌換銀行券ノ種類ハ條例ニ定ムルモノハ壹圓、五圓、拾圓、貳拾圓、五拾圓、百圓、貳百圓ノ七種ナリト雖トモ明治十八年以降實際發行シタル銀行券ハ以上記スルカ如ク壹圓、五圓、拾圓、百圓ノ四種ナリトス

初メ兌換銀行券發行手續ヲ制定スルヤ其第一條ニ於テ日本銀行ニ於テ兌換銀行券ヲ發行スヘキ員額ハ差當リ貳百萬圓ト定メ其融通ノ景況ニヨリ大藏卿ハ更ニ其增發ヲ許可スルコトアルヘキ旨ヲ規定シ其第二條ニ於テ日本銀行ハ兌換銀行券發行高貳百萬圓ニ對シ相當ノ準備貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘク其發行高ト準備金トノ割合ハ大藏卿時々之ヲ指定スルモノト規定シ又其第七條ニハ紙幣ヲ以テ兌換銀行券ニ換ヘ兌換銀行券ヲ以テ紙幣ニ換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行ノ都合ニヨリ相當ノ打歩ヲ以テ交換スルモノトシ打歩ノ割合ヲ定ムルトキハ豫メ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシトノ旨ヲ掲ケタルヲ以テ事實上不便尠カラス特ニ第七條ノ規定ハ頗ル妥當ナラサルヲ以テ明治十八年五月六日政府ハ左ノ如ク兌換銀行券發行手續改正ノ旨ヲ日本銀行ニ達セリ

日本銀行

昨十七年七月中兌換銀行券發行手續及命令候處今般更メテ別紙之通改正及命令候條前命令書ハ之ト引換返納致ス可シ此旨相達候事

明治十八年五月六日　　大藏卿　伯爵　松方正義

明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例ニ據リ日本銀行ヲシテ兌換銀行券ヲ發行セシ

ムルニ付其發行手續ヲ命令スル左ノ如シ

第一條　明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例ニ據リ日本銀行ニ於テ發行スル銀行券ノ員額ハ融通ノ景況ニヨリ大藏卿時々之ヲ指定スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ準備銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ其發行高ト準備金トノ割合ハ大藏卿時々之ヲ指定スルモノトス

第三條　兌換銀行券各種ノ發行高ハ取引ノ便宜融通ノ景況ヲ量リ日本銀行ノ稟申ニ據リ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ハ此員額ニ從ヒ大藏卿指定スル所ノ書式圖形ニ因リ之ヲ製造スヘシ

第四條　兌換銀行券ノ製造ハ大藏省印刷局ニ依託シ其製造高ハ其種類員額番號記號等ノ明細書ヲ添ヘテ之ヲ大藏卿ニ上申スヘシ

第五條　兌換銀行券ハ日本銀行總裁ノ調印ヲ爲シ其記號番號等ヲ兌換銀行券元帳ニ記入シテ文書局長之ニ割印シ更ニ金庫局長ノ調印ヲ了シタル上發行スルモノトス

第六條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ換ヘ兌換銀行券ヲ以テ銀貨ニ換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ金高ノ多寡ヲ問ハス同額無手數料ヲ以テ營業時間中何時ニテモ交換ヲ爲スモノトス但補助銀貨ヲ以テ兌換スルトキハ金高拾圓ヲ超過スルヲ得ス

第七條　日本銀行ハ兌換銀行券出納帳及同交換帳ヲ設ケ日々ノ受拂ヲ明瞭ニ記入シ每日營業ノ終ニ於テ兌換銀行券出納日表ヲ作リ翌日十二時迄ニ大藏卿ニ進呈スヘシ又每月末日ニ於テ兌換銀行券精算月表ヲ作リ翌月三日迄ニ大藏卿ニ進呈スヘシ

第八條　兌換銀行券汚染毀損等ノ爲メ通用シ難キモノハ無手數料ヲ以テ引換ヘ直チニ廢棄ノ

鑒印ヲ爲シ其旨ヲ第五條ノ兌換銀行券元帳ニ記入スヘシ

第九條　前條ノ廢棄券ハ毎半季ノ引揚高ヲ取纒メ大藏卿ノ許可ヲ受ケタル上監理官ノ立會ヲ以テ之ヲ燒亡シ其調書ヲ作リテ大藏卿ニ進呈スヘシ

第十條　此命令書ニ記載スル帳簿計表ハ總テ大藏卿ノ指定スル書式ニ準據スヘシ

第十一條　此命令條款ハ大藏省ノ都合ニ由リ改正增削スルコトアルヘシ

右及命令候也

明治十八年五月六日

大藏卿　伯爵　松方正義

兌換銀行券ノ發行ハ實ニ明治十八年五月初テ拾圓券ヲ發行セシニ始マリ爾來市場ノ景況ヲ量リ毎年漸次其發行高ヲ增加セリ而シテ兌換券ノ紙質ハ從來總テ同一ナリシカ明治二十一年十一月ニ至リ日本銀行ハ大藏大臣ニ稟申シテ兌換券ヲ改造シ漸次從前ノ分ヲ交換センコトヲ申請シ十二月三日ヨリ新兌換券ヲ發行セリ蓋シ從來發行ノ兌換券ハ其紙質着色共ニ完全ナラスシテ蠹害變色ノ憂アルニ由レリ然レトモ交換ノ事固ヨリ容易ノ業ニアラスシテ一時ニ之ヲ引揚ケ得ヘキモノニアラサルカ故ニ爾來兌換銀行券ハ新舊ノ兩種相竝ヒテ流通セリ

明治三十年幣制改革ノ事アルヤ政府ハ成ルヘク小紙幣ヲ回收シテ之ニ代フルニ補助銀貨ヲ以テスルノ方針ニ基キ爾來著々準備ニ怠ラサリシカ明治三十一年ニ至リ補助銀貨ノ鑄造漸ク其歩ヲ進メ日本銀行發行ノ壹圓兌換銀行券ヲ回收スヘキ時機正ニ到來セシヲ以テ卽チ大藏大臣ハ同年二月十八日其回收ニ就キ左ノ如ク金庫出納役ヘ達セリ

金庫出納役

各地本支金庫ヘ收入スル壹圓兌換券ハ中央金庫ヘ回送ノ上之カ代リニ五拾錢以下ノ補助銀貨ヲ使用シ又中央金庫ヘ回送シタル壹圓兌換券ハ日本銀行ニ付キ五圓以上ノ兌換券ト交換ノ上使用スヘシ

明治三十一年二月十一日

大藏大臣　伯爵　松方正義

此令達ニ依リ日本銀行ニ於テハ壹圓兌換券ノ製造ヲ止メ爾來復タ其發行ヲナサヽルニ至レリ今左ニ各種兌換銀行券ノ製造高及發行高ヲ揭ケ以テ其景況ノ梗概ヲ知ルニ便セントス

兌換銀行券製造高

年限	壹圓券	五圓券	拾圓券	百圓券	合計
	円	円	円	円	円
舊券 明治十七年下半季	〇	〇	七三五、〇〇〇	〇	七三五、〇〇〇
同　十八年上半季	〇	〇	五、八九八、〇〇〇	五、〇〇〇	五、九四八、〇〇〇
同　年下半季	一、八九五、〇〇〇	一、五七五、〇〇〇	四、三六七、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	九、三三七、〇〇〇
同　十九年上半季	九、八二一、〇〇〇	六、九一〇、〇〇〇	〇	〇	一六、七三一、〇〇〇
同　年下半季	七、六四三、〇〇〇	二、五一五、〇〇〇	〇	〇	一〇、一五七、〇〇〇
同　二十年上半季	九、八七四、〇〇〇	〇	〇	〇	九、八七四、〇〇〇
同　年下半季	九、一一四、〇〇〇	〇	〇	〇	九、一一四、〇〇〇
同　二十一年上半季	四、七七一、〇〇〇	〇	〇	〇	四、七七一、〇〇〇
同　年下半季	五、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	六、二九〇、〇〇〇

年月日	壹圓券	五圓券	拾圓券	百圓券	合計
明治十八年六月三十日	七、三六一、六三〇円	四、五七二、二二〇円	五、八〇一、〇〇〇円	一、三四七、〇〇〇円	一、九〇四、二二〇円
同十九年六月三十日	三、八一六、〇〇〇	〇	三、八〇一、〇〇〇	八五三、〇〇〇	三、九五六、〇〇〇
同十九年十二月三十一日	〇円	〇円	三、八〇一、〇〇〇円	〇円	三、八〇一、〇〇〇円

日本銀行兌換銀行券發行高種類別（△制限外發行高）

年月日	壹圓券	五圓券	拾圓券	百圓券	合計
同治十年	〇	〇	〇	〇	〇
同十一年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十一年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十二年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十二年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十三年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十三年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十四年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十四年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十五年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十五年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十六年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十六年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十七年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十七年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十八年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十八年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十九年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同十九年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十一年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十一年下半季	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円

年月日	壹圓券	五圓券	拾圓券	百圓券	合計
同二十年上半季	一、〇八五、〇〇〇	一、七五七、〇〇〇	一、八五二、〇〇〇	一、九九〇、〇〇〇	三、七七〇、〇〇〇
同二十年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十一年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十一年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十二年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十二年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十三年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十三年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十四年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十四年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十五年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十五年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十六年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十六年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十七年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十七年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十八年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十八年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十九年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同二十九年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同三十年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同三十年下半季	〇	〇	〇	〇	〇
同三十一年上半季	〇	〇	〇	〇	〇
同三十一年下半季	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円

明治十九年十二月三十一日	一七、八二四、二〇〇円	一〇、三七〇、六一五円	一〇、一二〇、八〇〇円	一、二三四、二〇〇円	三九、五四九、八一五円
同 二十年六月三十日	二一、七一七、四七〇	一〇、三九三、九五〇	一〇、二五七、一八〇	一、四三二、六〇〇	四三、八〇一、二〇〇
同 年十二月三十一日	三二、三七八、六四八	八、九二一、五一五	一〇、七〇五、七四〇	一、四四八、九〇〇	五三、四五四、八〇三
同 二十一年六月三十日	三二、八五九、六四五	八、九二六、五五五	八、二三六、三九〇	六八六、一〇〇	五〇、七〇八、六九〇
同 年十二月三十一日	四三、〇九五、九六五	一〇、六七七、六四五	一〇、七七一、五七〇	一、二二五、四〇〇	六五、七七〇、五八〇
同 二十二年六月三十日	四二、九二七、九九九	一〇、二二一、六五〇	一〇、三四二、〇〇〇	一、〇〇八、二〇〇	六四、四九九、八四九
同 年十二月三十一日	四五、〇九三、二五二	二〇、九八七、七九〇	一一、四五六、〇一〇	一、五七一、六〇〇	七九、一〇八、六五二
同 二十三年六月三十日	四四、〇三〇、六六五	一八、三〇三、七七五	九、五一四、五五〇	一、〇三七、二〇〇	七二、八八六、一九〇
同 年十二月三十一日	五〇、二六九、二四一	三四、五八六、一二五	一六、五六九、八〇〇	一、五〇六、六〇〇	一〇三、九三一、七六六
同 二十四年六月三十日	四七、五七六、一一一	三三、三三〇、一一五	一五、三六四、七六〇	一、〇五一、八〇〇	九七、三二二、七八六
同 年十二月三十一日	五一、〇四七、五七五	三七、九八九、八〇五	二四、一八九、三六五	二、五〇七、八〇〇	一一五、七三四、五四五
同 二十五年六月三十日	四八、三八七、一三二	三二、七二〇、〇〇〇	二一、〇一三、三八〇	三、二二三、〇〇〇	一〇五、三四三、五一二
同 年十二月三十一日	五三、六六三、二九三	三六、三二四、二一〇	二九、二八六、〇六〇	六、五六九、八〇〇	一二五、八四三、三六三
同 二十六年六月三十日	五二、五三三、四九〇	三五、一四四、八五二	二八、一九七、二九五	七、六六六、一〇〇	一二三、五四一、七三七
同 年十二月三十一日	五六、九〇二、五三三	三九、九一三、六二五	三五、三六五、七七〇	一六、四八一、二〇〇	一四八、六六三、一二八
同 二十七年六月三十日	五四、一三九、五九八	三七、六九三、八〇〇	三三、八〇〇、七六〇	一六、一〇二、二〇〇	一四一、七三六、三五八
同 年十二月三十一日	五七、七六七、六二〇	四三、八〇五、六九〇	四一、四〇一、一九〇	六、八三九、二〇〇	內 一四九、八一三、七〇〇 △ 四、一九七、五四九
同 二十八年六月三十日	五七、六〇二、二六八	四一、四九二、七四〇	三六、九三一、三五五	七、〇五七、三〇〇	內 一四三、〇八三、六六三 △ 一三、八一二、四九六

同 年十二月三十一日	六四、六四五、〇五〇	五一、六二三、五五〇	五二、四一六、六一五	一一、六五一、六〇〇	內 一八〇、三三六、八一五 △ 五五、〇八三、一四七
同 二十九年六月三十日	六四、一二四、四二四	四八、六八六、一六〇	四九、八六九、二九五	九、〇一五、〇〇〇	一七一、六九四、八七九
同 年十二月三十一日	六八、一〇五、四七一	五八、五〇六、九三五	六二、四八六、三九〇	九、二一五、一〇〇	一九八、三一三、八九六
同 三十年六月三十日	六五、九三四、九二五	五八、一四三、九八〇	六〇、五九七、二六〇	一〇、六二六、五〇〇	一九五、三〇二、六六九
同 年十二月三十一日	六八、〇八一、〇七四	七三、三六一、三五五	六九、四八〇、二三〇	一五、三〇六、四〇〇	內 二二六、二二九、〇五九 △ 四七、三一二、六五七
同 三十一年六月三十日	五七、五〇四、七九五	六〇、四六六、二二五	五三、八三九、九一〇	八、二〇九、〇〇〇	內 一八〇、〇一九、九三〇 △ 三三、四四六、四八一
同 年十二月三十一日	五〇、九二七、七二六	六七、三七一、九六五	六六、五四五、八一〇	一二、五五四、四〇〇	內 一九七、三九九、九〇一 △ 二四、〇一六、五六八
同 三十二年六月三十日	四五、〇九八、〇一四	六九、〇六〇、一八二	六六、六六六、五六五	一一、七四七、六〇〇	一九二、五七二、三六一
同 年十二月三十一日	四三、二八八、二三〇	九八、二〇二、三四五	八五、四九三、六一五	二三、五七七、八五〇	內 二五〇、五六二、〇四〇 △ 二〇、七二一、八三五
同 三十三年六月三十日	三七、一九八、二八三	三一、二二〇、九三〇	七九、三五〇、六二五	一八、〇〇〇、九〇〇	內 二一五、七七〇、七三八 △ 一六、七四八、〇三六
同 年十二月三十一日	三四、一四七、九九二	八七、五九二、二四〇	八八、一二二、七〇〇	一八、七〇七、一〇〇	內 二二八、五七〇、〇三二 △ 一五、一五一、三八七
同 三十四年六月三十日	二八、八七四、一三九	七六、〇二七、一四五	七六、〇〇三、九四五	一六、〇九四、五〇〇	內 一九六、九九九、七二九 △ 一五、一五一、三八七
同 年十二月三十一日	二五、八四四、三七一	八二、五一七、八七五	九〇、〇七二、二九二	一五、六六一、六〇〇	內 二一四、〇九六、七六六 △ 二二、七三八、三九五
同 三十五年六月三十日	二一、八九八、〇七九	七六、四二九、六二五	八二、七一四、九二〇	一四、九二〇、五〇〇	一九五、九六三、一二四
同 年十二月三十一日	二〇、一六九、七八五	八八、二四六、三三二	一〇六、五八八、二六〇	一七、〇九〇、〇〇〇	內 二三二、〇九四、三七七 △ 二二、九七五、五六〇

汚染毀損セシ銀行券ノ交換ニ關スル手續ハ明治十九年十月、日本銀行ヨリ案ヲ具シテ大藏大臣ニ伺出テ其許可ヲ受ケ爾來之ニ據テ交換方ヲ取扱ヒ來レリ今其手續ノ概略ヲ示セハ左ノ如シ

第一　水火災ニ罹リ又ハ其他ノ理由ニ依リ汚染毀損シタル兌換銀行券ハ左ノ各條ニ照シテ審査シ該券面金員ノ全額若クハ其半額ヲ以テ交換スヘシ

一　兌換券表面彩欄内面積三分ノ二以上ヲ存シ記號、番號及券面金員（中央及四隅數字ノ内一個以上）ヲ認ムルモノ

二　同面積五分ノ二以上ヲ存シ記號、番號及券面金員（中央及四隅數字ノ内一個以上）ヲ認ムルモノ

第二　細裂ノ小片ヲ合シ其裂目接續セサルモノ竝ニ面積五分ノ二ニ充タサルモノハ兌換ノ效ヲ失シタルモノトス但前第一條ニ符合セサルモノト雖モ面積二分ノ一以上ヲ存スルモノハ審査ノ上實況ニ依リ半額若クハ全額ヲ以テ交換スルコトアルヘシ

第三　肉色ニ變化ヲ生シ又ハ他ノ理由ニ依リ眞贋認定シ難キモノハ全面ヲ存スルモノト雖モ之ヲ交換セス

右ノ手續ニ從ヒ明治二十年以來二十一年十二月迄ニ損傷兌換券ヲ引換タル高ハ八萬參千五拾五圓ナリトス兌換券製造以來幾年ヲ出テサルニ損傷兌換券ノ斯ク巨額ニ達シタルハ紙質不完全ニシテ蟲害ノタメ毀損セシモノ其多額ヲ占ムルニ由ル然レトモ二十一年十二月以降ハ紙質ノ善良ナルモノヲ撰ミテ之ヲ改造シ漸次舊券ト交換シツヽアレトモ發行高ノ增加セルト流通ノ頻繁ナル爲メ損傷券交換高ハ益〻增加セルコト左ノ如シ

損傷兌換銀行券毎半季間交換高

年期	壹圓券 全額	壹圓券 半額	五圓券 全額	五圓券 半額	拾圓券 全額	拾圓券 半額	百圓券 全額	百圓券 半額	合計 枚數	合計 金額
	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	円
明治二十年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五、七六九	一五、四七九
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九、〇六〇	一七、九〇六
同　二十一年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一一、四一七	二一、三六六
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一五、六三一	二八、四三七
同　二十二年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一九、三四五	二九、六四四
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二七、八八一	四〇、一二八
同　二十三年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三二、八三三	四六、三九九
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三九、一八四	五三、二五五
同　二十四年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五六、三八六	七二、六七一
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七〇、二〇一	九七、九八一
同　二十五年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一一五、〇七五	一五八、七五四
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一二七、九九六	一七一、二一一
同　二十六年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二二八、三三八	二三六、二五四
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二〇四、一六五	二一三、八六五
同　二十七年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二一八、九二〇	二八〇、六八〇
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九六二、三二二	一七一、二一一
同　二十八年上半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五九一、八九七	一五八、七五四
同　年下半季	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、三二〇、二四四	一、九一三、五六〇

明治二十九年上半季	二、二六六、五〇〇	約	一、五九八	約	四三、〇八一	約	五八	約	一八、九九六	約	二三	約	七二四	約	〇	約	二、三三〇、九七九	約
同 年下半季	一、五九三、九七一		一、一〇八		一八二、五〇四		四二		九四、六五六		一九		九、四八九		〇		一、八八一、七八九	
同 三十年上半季	一、七七七、一二八		一、四六八		一一九、七四九		六八		七九、二七八		二六		六、六一一		〇		一、九八四、三二八	
同 年下半季	一、九八六、三八五		一、五九二		二二九、六八九		五二		一三〇、八〇八		二一		九、四九七		一		二、三五八、〇四六	
同 三十一年上半季	四、〇三三、六九〇		二、八五六		二四〇、二九六		一一八		一八八、九一五		四五		一八、六七五		四		四、四八四、五九九	
同 年下半季	二、三七六、一七六		二、三四六		三五四、九二九		八二		二三五、〇六五		二一		一六、七八四		〇		二、九八五、四〇三	
同 三十二年上半季	二、四六九、〇三七		三、二〇九		四三一、一六八		九九		四二〇、〇一五		三二		三一、八八九		四		三、三五五、四五三	
同 年下半季	一、四六八、二六二		三、六二一		六一三、七二四		一二三		三二〇、九七三		七九		二一、六九四		〇		二、四二八、四七五	
同 三十三年上半季	二、三一六、五〇八		四、六三〇		四八九、四一三		一五四		三〇三、七五三		五三		一九、六一二		七		二、一三四、一三〇	
同 年下半季	一、九四九、六三七		一二、一五六		五三五、四三四		二五〇		二八六、九〇八		一二七		一四、七三八		一		二、七九九、二五一	
同 三十四年上半季	三、二六八、九九六		七、六九八		六六〇、六四八		一八一		三五五、三八三		六〇		八、七四八		〇		四、三〇一、七一四	
同 年下半季	二、〇六九、三七〇		一一、三九二		七三八、九五五		三三四		四四六、二四二		一〇六		三七、四四七		六		三、三〇三、八五二	
同 三十五年上半季	三、〇六九、八九一		一三、六〇〇		一、〇四九、四五二		三八〇		七六四、九九五		一八二		二〇、八二六		四		四、九一九、三三〇	
同 年下半季	四、三三〇、三四六		一〇、一二六		二、七二〇、七五五		三八二		一、八六七、六五七		一八一		八一、七六四		二		九、〇一一、一一三	

日本銀行カ始メテ兌換銀行券ノ發行ヲ實施シタルハ實ニ明治十八年五月ナリ初メ兌換銀行券條

第四款 準備及流通ノ景況

例ノ發布アルヤ其發行額ヲ明定スルコト無ク又其引換準備ニ關シテハ同條例第二條ニ「相當ノ銀貨ヲ置キ」トアルノミニシテ其額ヲ示サヽリシヲ以テ大藏大臣ハ時々其發行額ヲ指定シ最初五百萬圓ヲ極度トシ而シテ其引換準備金ハ當分ノ内兌換券發行ノ現在高ニ應スヘキ旨ヲ令達セリ即チ左ノ如シ

兌換銀行券條例ニ據リ其銀行ニ於テ發行スル銀行券ノ員額ハ當分ノ内其銀行引換準備金ノ現在高ニ應シ發行可致儀ト可相心得此旨相達候事

明治十八年五月七日

日本銀行

大藏卿 伯爵 松方正義

尋テ明治十九年三月四日ニ至リ政府ハ日本銀行ニ内達シ兌換銀行券發行高ヲ貳千萬圓トシ其範圍ニ於テ融通試用セシムルコトヽセリ

然ルニ明治二十一年ニ至リ勅令第五十九號ヲ以テ兌換銀行券條例ヲ改正シ政府紙幣銷却ノ爲メ政府ハ貳千貳百萬圓ヲ限リ一箇年百分ノ二ノ利子ヲ以テ日本銀行ヨリ借上ヲナスコトヽシ同時ニ兌換銀行券發行準備ニ關スル制度ヲ改定セリ即チ日本銀行ハ七千萬圓マテハ正貨準備ヲ置カス政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシテ兌換券ヲ發行シ得ルモノニシテ此定額以上ニハ兌換券ヲ發行スル毎ニ必ス同額ノ金銀貨及金銀ヲ準備シ置カサル可ラス然レトモ市場ニ於テ貨幣ノ需用起ルニ方リテハ其定額ヲ超ユルモ尚ホ年五分以上ノ租稅ヲ納ムレハ前掲諸證券ヲ保證トシテ兌換券ヲ發行シ得ルモノトシタリ是レ所謂制限屆伸法ニシテ法律ヲ以テ所謂保證準備ノ制ヲ定メタルハ此時ヲ始トス而シテ當時保證準備發行額ヲ七千

萬圓ト定メタルハ即チ七千萬圓ハ流通上ノ必要額ニシテ復タ兌換ヲ要求セラルヽコトナキ程度ナリト確認セラレタルニ由ルモノナリ

越テ明治二十三年二月二十八日日本銀行ハ政府ニ兌換券增發ノ請願ヲナシ同月二十八日兌換券制限外發行ノ許可ヲ得タリ蓋シ前年米穀不作ノ後ヲ享ケテ米價大ニ昂騰シ爲換相場ノ暴騰ニ連レテ外國貿易ハ輸入超過トナリ金銀ノ流出甚シク加之數年來勃興シタル企業熱ノ反動ハ本年ニ至リテ現ハレ爲メニ金融界ノ潮流次第ニ急調ヲ呈スルニ至リシニ由ル是レ即チ制限外兌換券發行ノ嚆矢ナリトス右ニ關シ大藏大臣ヨリ內閣總理大臣ヘ提出セル報告書左ノ如シ

兌換銀行券條例ニ據リ該券五百萬圓ヲ定度トシ發行セシムルノ議

現今一般ノ市場逼迫金融ノ壅塞殆ント其極ニ達シ大阪ハ日步五錢有餘ノ高度ヲ示シ東京亦參錢ニ下ラス而シテ金利ノ標準タル五分利付整理公債ノ如キハ九拾八圓貳拾錢ノ低價ヲ示ス抑モ我國貨幣市場ノ景況タル冬季ノ末春季ノ初メニ涉リテハ漸ク緩慢ノ狀ヲ呈スルヲ常トス然ルニ本年ノ如キハ目下將サニ緩慢ナルヘキノ季ニ際シ却テ前陳ノ狀ヲ爲ス其然ル所以ノモノハ一般事業擴張ノ如キ永遠ノ原因ニ由ルナキニアラスト雖モ米價ノ暴騰新設會社株金拂込等ノ如キ一時ノ原因亦大ニ之カ媒ヲ爲スヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ果シテ然ラハ永遠ノ原因ニ備フルニ先チ一時ノ原因ヲ處スルハ當務ノ順序正ニ然ラサルヲ得サル所ナリ事情已ニ斯ノ如シ故ニ日本銀行總裁ハ市場ノ景況ヲ具シ明治二十一年七月勅令第五十九號第二條第二項ニ據リ制限高ヲ超過シテ兌換銀行券ヲ發行シ目下ノ急ヲ救濟スルノ議ヲ提出セリ正義亦宜シク其然ラサルヘカラサルヲ察シ同勅令ニ據リ稅率ヲ年五分ト定メ先ツ五百萬圓ヲ度トシ需要ニ應シ漸次之ヲ發行セシメ五箇月ヲ期シテ之ヲ回收スルノ儀ヲ許可セリ其發行ト回收トニ付テハ十分ノ監督ヲ加ヘ利ヲ收メ害ヲ避ケ過チナカラシメンコトヲ期ス玆ニ其顚末ヲ具シ報告スル斯ノ如シ

明治二十三年二月二十七日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

內閣總理大臣　伯爵　伊藤博文　殿

右制限外發行兌換券ハ三月七日ヨリ漸次之ヲ發行シ以テ焦眉ノ急ニ應セリ

年	月	日	發行高
明治二十三年	三月	三日	三〇〇、〇〇〇円
同	年同月	四日	三〇〇、〇〇〇
同	年同月	五日	三〇〇、〇〇〇
同	年同月	六日	三〇〇、〇〇〇
同	年同月	七日	三〇〇、〇〇〇
同	年同月	八日	五〇〇、〇〇〇
同	年同月	十日	五〇〇、〇〇〇
同	年同月	十一日	五〇〇、〇〇〇
同	年同月	十二日	五〇〇、〇〇〇
同	年同月	十三日	五〇〇、〇〇〇
同	年同月	十四日	五〇〇、〇〇〇

明治二十三年三月十五日		
同　年同　月十七日		
同　年同　月十八日		
同　年同　月十九日		
同　年同　月二十日		
同　年同　月二十一日		
同　年同　月二十二日		
同　年同　月二十四日		
同　年同　月二十五日		
同　年同　月二十六日		
同　年同　月二十七日		
同　年同　月二十八日		
同　年同　月二十九日		
同　年四　月一日		
	五〇〇、〇〇〇円	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	
	五〇〇、〇〇〇	

現時ヨリ之ヲ見レハ其發行高極メテ少額ナリシニ拘ラス右兌換券ノ增發ハ一時金融界ノ緩和ヲ來スニ與ツテ大ニ力アリタルカ如シ斯クテ其發行セラレタルコト三十日間ニシテ同年四月一日ニハ盡ク之ヲ還收スルヲ得タリ

當時內外ノ貿易大ニ伸張シ凡百ノ事業頗ル發達シ市場漸ク通貨缺乏ノ情ナキ能ハス依テ同年五

月十六日法律第三十四號ヲ以テ兌換銀行券條例ニ改正ヲ加ヘ保證準備發行額七千萬圓ヲ八千五百萬圓ニ增加シ之ヲ同時ニ政府紙幣銷却ノ借上金貳千貳百萬圓ハ爾來無利子トナセリ是レ所謂保證準備兌換券發行額ヲ擴張シタル第一回ナリトス蓋シ八千五百萬圓ハ當時我國經濟界ニ於テ流通上ノ必要額ニシテ復タ兌換ヲ要求セラルヽコトナキ程度ナリト爲セルニ依ルモノニシテ卽明治二十三年五月ニ於テ其制限額壹千五百萬圓ヲ增加シタルハ我商工業ノ進步ニ伴ヒ市場ニ於ケル通貨ノ必要額ノ程度增加シタリト認定セルニ外ナラサルナリ而シテ兌換券ノ發行ハ日本銀行ノ基礎漸ク鞏固ニシテ政府紙幣銀行紙幣ノ減少スルニ從ヒ漸次其額ヲ增加シタリシカ爾來兌換券ノ發行額竝ニ準備額ハ每週官報ヲ以テ之ヲ公告スルコトヽナセリ

明治二十四年以來金融漸次緩慢ニ赴キ明治二十六年前半季ニ於テハ實ニ其極ニ達シ此カ反動ハ漸タ同年ノ後半季ニ入リテ始マリ久シク順調ヲ維持セシ外國貿易ハ頓ニ逆調ニ傾キ翌二十七年端ナク日淸ノ開戰トナリ之カ爲メ軍資トシテ巨額ノ正貨ヲ支出セシヨリ日本銀行ノ正貨準備ハ益〻減少シ兌換券ノ發行ハ其制限額ニ達セシコト實ニ一再ニシテ止マサリシカ當時金貨ノ相場非常ニ騰貴シ金貨壹圓ハ殆ント圓銀ノ二倍ニ達セシ爲メ同行ハ其正貨準備中金貨及金地金ノ價格換算上巨額ノ餘裕ヲ生シ大ニ正貨準備ノ發行額ヲ伸張スルヲ得タリ而カモ年末ニ至リ資金ノ需用頗ル急ナリシヲ以テ同行ハ同年十二月二十九日政府ニ請フテ第二回ノ制限外發行ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至レリ而シテ其發行額ハ貳千萬圓ニ限リ又其利子ハ五分ナリトス

今其發行ノ月日及其發行額ヲ擧クレハ左ノ如シ

年　月　日	兌換銀行券制限外發行高

明治二十七年十二月二十九日		三、二七二、七二一円
同　年同　月三十一日		四、一九七、五四九
明治二十八年一　月　四　日		三、三八八、〇七九
同　年同　月　七　日		二、三五七、二八九
同　年同　月　八　日		一、〇二六、二五四
同　年同　月　九　日		二、八五五、六五四
同　年同　月　十　日		一、九二八、三二七
同　年同　月十二日		七一七、一二八
同　年同　月十四日		一五六、四八七

即チ其最高額ハ四百萬圓ニ上リシモ一月十四日ニハ悉ク之ヲ還收スルコトヲ得タリ其間僅ニ十有七日ナリトス蓋シ年末繁忙ノ反動ニヨリ一時資金ノ需用減却スルハ殆ント例年一月ノ常況ナルニ當時尚交戰中ニシテ諸企業中止ノ姿ナリシカハ一層資金ノ減却セシト共ニ日本銀行カ軍費ノ支出ニ願慮シテ貸出ヲ節スルノ方針ヲ取シリニ因ルモノナルヘシ

既ニシテ明治二十八年四月清國ト平和條約ノ締結セラルヽヤ戰爭ノ爲メニ久シク壓迫セラレタル商況ハ漸ク回復シ來ラントセシニ會〻遼東還付ハ一時人心ヲ阻喪セシメ各銀行ノ如キモ容易ニ警戒ヲ解カサリシノミナラス一二銀行ノ利子引上ヲ爲シタルモノサヘアリシカハ戰勝後ノ經濟界ハ毫モ活氣ヲ呈セス却テ益〻委靡ノ傾向ヲ現ハスニ至レリ因テ日本銀行ハ警戒ノ方針ヲ一變セシカ當時同行ニ於ケル政府貸上金ノ殘高尚巨額ナリシヲ以テ保證準備兌換券發行ノ餘力殆ト盡キ正貨準備又非常ニ減少セシ際ナリシカハ五月二十八日第三回ノ制限外發行ヲ請願シ同三十一日其許可ヲ得テ之ヲ發行シ以テ融通ノ道ヲ開キ爾來市場ノ景況ニ從ヒ之カ發行ヲ繼續セリ

然ルニ當時人心尚恟々トシテ不安ノ念ヲ懷キタル際ナリシカハ五月三十一日發行セラレタル制限外兌換券ハ翌月賣金ノ回收セラルヽモノ多カリシヨリ僅ニ四日ヲ經テ六月三日ニ至リ一時全ク之ヲ回收シタリシカ同月十三日以後再ヒ之ヲ發行セシモ其額ハ甚タ僅少ナリシ是ニ於テカ日本銀行ハ戰後ノ經濟界カ益〻困弊ニ陷ルノ虞レアリトナシ更ニ世上ニ向テ戰時ノ警戒ヲ解キ貸出ヲ常時ニ復シ自然ノ需要ニ應スルノ方針ヲ採リ七月十一日利子ノ引下ヲ決行シ以テ經濟界ニ於ケル不安ノ人心ヲ鎮靜セシメンコトヲ圖レリ是ニ於テカ我經濟界ハ俄然其面目ヲ一新シ各種ノ事業體ヲ接シテ勃興スルニ至リ隨テ制限外兌換券ハ爾來逐月增加ノ趨勢ヲ以テ進ミタリ今其發行ノ狀況ヲ擧クレハ左ノ如シ

明治二十八年五月　末　日現在		一、九九三、四三三円
同　年六月　末　日現在		一三、八一一、四九六
同　年七月　末　日現在		一三、〇七〇、六二三
同　年八月　末　日現在		二〇、三四三、二六〇
同　年九月　末　日現在		二〇、七六七、六〇五
同　年十月　末　日現在		二七、六一二、六五〇
同　年十一月　末　日現在		三三、〇七一、三〇〇
同　年十二月　末　日現在		五五、〇八三、一四七

明治二十九年一月末日現在		五〇、九三七、六三五円
同　年二月末日現在		四四、四三四、二五八
同　年三月末日現在		三六、四〇九、〇四七
同　年四月末日現在		三三、七八六、九五五
同　年五月十九日現在		二六、九八七、六九四

斯クテ七月以來制限外兌換券ノ發行逐月增加ノ趨勢ヲ以テ進ミ同年末ニハ前表ニ示スカ如ク實ニ五千五百萬圓ト云ヘル未曾有ノ增發ヲ見ルニ至レリ是レ前述セシカ如ク主トシテ政府貸上金ニ基クヲ以テ若シ政府ニシテ同年十月三十一日收容シタル第一回償金ヲ直ニ取寄セ之ヲ返濟セシナラハ斯クマテ巨額ニ上ラサリシナリ然ルニ政府ハ翌二十九年三月頃ヨリ漸ク償金ヲ以テ其借入金ノ返濟ニ充テ而シテ日本銀行ハ正金ノ到著スルト同時ニ漸次正貨準備ヲ增加セリ隨テ制限外兌換券ハ次第ニ減少ニ傾キシカ同年五月ニ至リ政府ハ特別會計法ニ依リ始メテ預合勘定ナルモノヲ開キ在英國償金五千萬圓ヲ日本銀行ノ正貨準備ニ充テシヲ以テ同行ノ正貨準備ハ俄然增加シ同時ニ貳千六百萬圓ノ制限外兌換券ハ全ク回收シタリ蓋シ最初發行シテヨリ之ヲ還收スルマテ前後三百四十五日殆ント一年ノ長キニ及ヘリ尋テ後半季ニ入リ戰後經營ノ結果トシテ物價大ニ昇騰シ外國貿易ハ非常ノ逆運ニ傾キシモ政府ハ在倫敦償金中前項預合以外ニ係ル分ヲ時時現送シ寄託金トシテ日本銀行ニ預入レ同行ヲシテ之ヲ市場貸出ノ資ニ運用セシメシカハ亦制限外發行ヲ見スシテ其年ヲ終リタリ

斯ノ如ク第三回發行制限外兌換券ノ回收ハ全ク償金預合ニ原クモノニシテ當時日本銀行ハ預合

ニ依リ政府預金ノ下ニ正貨準備兌換券ヲ發行シ以テ其曾テ發行シタル制限外兌換券ヲ回收シタルナリ故ニ事實上制限外兌換券ハ明治二十八年以來存シタルモノト視テ可ナリ抑モ日本銀行カ此ノ如キ變則的準備ヲ設ケタルハ當時ノ狀勢誠ニ已ムヲ得サルモノアリシモ久シク之ヲ存スルハ決シテ經濟上良策ニ非サルナリ何トナレハ制限外ノ發行ハ世人ヲシテ金融界ニ於ケル資金ノ需用カ平常ノ程度ヲ超ユルコト幾何ナルカヲ推測セシムルヲ以テ此ノ如ク權宜ノ手段ニ依リ徒ニ正貨準備ヲ增加スルトキハ其幾何カ實際ニ於テ平常以上ノ需要ニ屬シテ所謂警戒ヲ要スヘキモノナルカヲ知ル能ハサラシムレハナリ日本銀行此ニ見ル所アリ明治三十年三四月ノ頃ヨリ漸次政府預金ヲ返濟スルコトヽナセショリ從來政府預金ノ下ニ發行シタル兌換券ハ保證準備ノ增加ヲ以テ之ヲ補塡スルコトヽナリ斯クテ發行餘力ヲ減却スルニ至リシカ同年後半季ニ入リ物價非常ニ昂騰セシト貨物ノ輸入非常ニ輸出ニ超過セシトニ依リ金融界益〻急調ヲ呈セシカハ卒ニ發行餘力全ク盡クルニ至レルヲ以テ日本銀行ハ明治三十年七月二十日第四回ノ制限外兌換券發行ノ許可ヲ得同月二十四日ヨリ之ヲ發行シタリ而シテ其發行稅率ハ當初五分ニシテ同年八月十一日ヨリ六分ニ十月三十日ヨリ七分ニ改正セラレタリ今其發行ノ狀況ヲ擧クレハ左ノ如シ

明治三十年七月二十四日現在		四五五、三〇六円
同　年七月末日現在		一〇、三二五、一九五
同　年八月末日現在		一四、一九七、三三三
同　年九月末日現在		二二、七七一、〇三三
同　年十月末日現在		二九、一九九、六二三

明治三十年十一月末日現在		三二、一四二、二四八
同　年十二月末日現在		四七、三一二、六五七
明治三十一年一月末日現在		三九、五二九、四八八
同　年二月末日現在		三〇、六二六、五一五
同　年三月末日現在		三九、六五八、三二二
同　年四月末日現在		三七、六九〇、一七九
同　年五月末日現在		二八、六九〇、六〇一
同　年六月末日現在		三三、四四六、四八一
同　年七月末日現在		一九、八七四、五四八
同　年八月末日現在		一四、六八一、一六五
同　年九月十四日現在		一、一一一、〇六九

前表ニ據ルニ制限外ノ發行ハ爾來逐日非常ノ速力ヲ以テ增進シタルヲ見ル可シ蓋シ同年後半季ニ入リ戰後企業熱ノ反動殆ント其極點ニ達セシト前述セシ如ク物價ノ暴騰ト外國貿易ノ逆勢トハ互ニ原因トナリ結果トナリ金融界ノ潮流ヲシテ頗ル急激ナラシメタルニ因ルモノナラン當時金融ノ狀況斯ノ如クナリシヲ以テ日本銀行ハ大ニ警戒ノ方針ヲ持シ六月十四日利子ノ引上ヲナシタルヲ以テ初メトシ八月十一日第二回ノ引上ヲナシ續テ十月二十三日ニハ第三回ノ引上ヲ決行シタリ僅々數箇月間ニ於テ三回ノ利子引上ヲナスカ如キハ實ニ稀有ナルコトヽ云フヘシ而カモ同行ハ其效果尙薄弱ナリトシ十一月ニハ第四回ノ利子引上ヲ決行セントシタリシモ故アリテ

之ヲ見合セタリ是ヨリ先キ政府ハ日本銀行第二回ノ利子引上ト共ニ從來總テ五分ナリシ制限外發行ノ稅率ヲ引上ケテ六分トナシ十一月一日亦增シテ七分トナシ以テ制限外ノ發行高ヲ抑制セシハ世上ニ向テ警戒ヲ示サントスルニアリシナルヘシ而シテ第四回制限外發行高第三回ノ發行ヨリモ少額ナリシニ拘ラス却テ其發行稅率ノ引上ヲ見タル所以ノモノハ蓋シ前年ノ制限外發行ハ主トシテ政府貸上ニ原キシニ後年ノ發行ハ主トシテ金融逼迫ノ結果ナルニ由レルモノナリ斯ノ如ク政府日本銀行共ニ大ニ前途ヲ警戒セシニ拘ハラス秋季ニ入リ又米作豫想ニ反シ不作ナリシカハ金融一層逼迫ヲ來タシ爲メニ年末ニハ四千七百餘萬圓ノ制限外兌換券ヲ發行シタルコト前表ニ示シタルカ如シ

此趨勢ハ明治三十一年ニ入リ毫モ減却セサリシノミナラス却テ益〻急激ノ度ヲ高ムルノミナリシカハ日本銀行ハ遂ニ同年二月九日斷然利子ノ引上ヲ爲シ續テ三月十四日又之レカ引上ヲ決行シタリ蓋シ當時在倫敦償金ノ取寄スヘキモノ殆ント銷盡シタルヲ以テ日本銀行ノ正貨準備ハ外國貿易ノ逆調ニ應シテ急流奔瀾ノ勢ヲ以テ減却セシニ依ルモノナリ隨テ制限外兌換券ハ明治三十一年ニ入ルモ容易ニ之ヲ回收スルコトヲ得サリシカ如シ

金融ノ狀況永ク斯ノ如クナルハ徒ラニ我經濟界ヲ困弊セシムルノミナルヲ以テ政府ハ之ヲ救濟スルノ目的ヲ以テ明治三十一年四月以來軍事整理ノ兩公債買入レニ著手シタリ然ルニ此買入ハ當初專ラ日本銀行ヨリノ借入金ニ基キシカハ七月ニ至ルマテ同行ニ於ケル制限外ノ發行ハ未タ大ニ減少スルニ至ラサリシモ當時金融ノ狀況ハ政府ノ公債買入ニ由リ既ニ緩和ノ傾向ヲ顯シタリ尋テ政府ハ充分ニ其目的ヲ達セントセシモ之ニ要スル國收償金ハ既ニ支出シ盡シタリシカハ

七月ニ至リ國庫所有ノ引換圓銀ヲ日本銀行ニ預入レテ一種ノ預合勘定ヲ開キ以テ其資ニ供シタリ是ヨリ金融ノ潮流ハ愈〻緩和トナリ資金ノ日本銀行ニ回收セラルヽモノ漸ク多キヲ加ヘタリ加之政府ハ八月ニ至リ倫敦ヨリ取寄セタル金塊ヲ以テ預合勘定ヲ再調シ其借入レタル金額ヲ以テ同行カ從來公債買入ノ爲メニ立換タル金額ヲ返濟シ續テ數次金塊若クハ銀貨ヲ以テ再三ノ預合ヲ開キ尙其立換金ノ殘額ヲ決濟シタリ之レト同時ニ明治三十年七月以來引續發行シタル制限外兌換券ハ明治三十一年九月十四日ニ至リ其蹟ヲ絕ツニ至レリ結局政府ハ償金ヲ以テ民間ノ公債ヲ買入レ公債賣却者ハ之ニ因リテ日本銀行ヨリノ借入金ヲ返濟シ日本銀行ハ之ニ因リテ制限外兌換券ヲ回收シタルモノト云フヘシ

政府ハ明治三十一年七月五日ヨリ同月二十二日迄四回ニ千五百萬圓ノ銀塊預合ヲ行ヒ又八月十三日ヨリ九月二十四日迄五回ニ貳千四百九拾萬圓ノ金塊預合ヲ行ヒタリ是レ九月十四日ヲ以テ所謂第四回發行制限外兌換券ノ回收セラレタル所以ナリ然ルニ此表面ノ制限外兌換券回收ヲ理由トシテ十月八日ヨリ日本銀行利子ハ貳厘方ヲ引下ケラレタリシカ同月下旬ニ入リテハ資金ノ需要一層增加シ當時前記預合高ハ猶參千九拾萬圓(金預合高貳千四百九拾萬圓,銀預合高六百萬圓)ヲ存在セシニ拘ラス其預合タル政府ノ預入金銀ヲ準備トシテ發行シタル兌換券ハ全ク政府ニ貸上ケラレシ者ナルヲ以テ日本銀行ハ民間貸出ノ請求ニ應セントセハ制限外兌換券ヲ發行スルノ外アルヘカラス是ニ於テカ日本銀行ハ第四回發行制限外兌換券ノ回收セラレテ僅ニ一箇月餘ヲ隔テシノミナル十月下旬ニ於テ又第五回制限外兌換券ノ發行ヲ松田大藏大臣ニ請ヘリ大藏大臣ハ直ニ之ヲ許可シタリ斯クテ同月二十六日ニ至リテ日本銀行ハ先ツ百六拾八萬圓ノ制限外兌換

券ヲ發行セリ爾來月末ニ赴クニ從ヒ其發行額ハ次第ニ增加シテ十月末日ニ至リテハ八百拾壹萬圓ニ達セシモ既ニシテ十一月ニ入ルヤ日々回收セラレテ其發行高ヲ減少シ遂ニ十一月八日ニ至リテ全ク回收セラレタリ今其發行ノ狀況ヲ表示スレハ左ノ如シ

年月日	發行高
明治三十一年十月二十六日	一、六八七、一八一円
同　年同　月二十七日	二、〇九六、四八〇
同　年同　月二十八日	二、七一七、七八七
同　年同　月二十九日	四、五五三、八五七
同　年同　月三十一日	八、一一〇、八一八
平均	三、八三三、二二四
明治三十一年十一月一日	六、一三四、四八五
同　年同　月二日	四、八八九、〇八六
同　年同　月四日	三、一〇八、〇三三
同　年同　月五日	一、九六七、二〇四
同　年同　月七日	五一四、八一七
同　年同　月八日	三七九、三九六
平均	二、八三二、一七五
總平均	三、二八七、一九五

即チ僅ニ十一日ニシテ全ク回收セラレ最高額八百拾壹萬圓(十月末日)ニ止マレリ市場ノ金利一割以上ナリシ際五分利付ノ制限外兌換券ヲ發行シテ而カモ其回收此ノ如ク速カナリシハ以テ金融市場ノ如何ニ緩和ニ向ヒタルカヲ知ルニ足ルヘキナリ而シテ第四回發行制限外兌換券回收ノ原因タル償金預合モ十月末日迄ニ金ノ分貳千四百九拾萬圓銀ノ分千貳百萬圓ヲ決濟シテ銀ノ分參百萬圓ヲ餘スノミナリ既ニシテ十一月八日ニ至リ右ノ銀參百萬圓モ決濟セラレテ茲ニ償金預合モ全ク決濟セラレタルト同時ニ第五回發行制限外兌換券モ全ク回收セラレタリ

蓋シ明治三十一年九月十四日ニ於テ第四回發行制限外兌換券ノ回收セラレタルハ一方ニ於テ政府カ償金預合ニテ借上ケタル兌換券ヲ以テ甞テ公債買上代金支拂ノ爲メ日本銀行ヨリ借上ケタル制限外兌換券ヲ返却シタルニ基キ即チ制限外兌換券ハ表面上正貨準備兌換券ト化シテ存在シタルニ後民間貸出ノ資金急ナルニ會シ日本銀行ハ更ニ制限外兌換券ヲ發行シテ之ヲ貸出シタルヲ以テ名ハ制限外ナラサルモ其實ハ制限外タル兌換券ト純然タル制限外タル兌換券ト共ニ存在シタリシカ表面上ノ正貨準備兌換券ハ預合決濟ニ依テ漸次眞正ノ正貨準備兌換券トナリ制限外兌換券ハ金融ノ緩和ニ從ヒ漸次回收セラレ預合ノ決濟ト制限外兌換券ノ全ク回收セラレタルハ共ニ其日ヲ同フシ明治二十八年六月十三日以來表面上斷續アリシニ拘ラス事實上ハ依然存在セシ制限外ノ兌換券ハ明治三十一年十一月八日ヲ以テ全ク消滅シタルモノナリ

然ルニ明治三十一年十一月末資金ノ急需ニ應スル爲メ日本銀行ハ又々之ヲ發行スルノ許可ヲ得二十九日ヨリ之ヲ發行シ末日ニハ參百六拾萬圓ニ上リシモ十二月一日ニ至リテ全ク回收濟トナリタリ其景況左ノ如シ

年月日	發行高
明治三十一年十一月二十九日	六四七、九四五円
同　年同　月三十日	三、六六七、〇二七
同　年十二月　一日	一四七、四六〇〇 〃

然ルニ月末ニ近クニ隨ヒテハ大節季ノ爲メ資金ノ需要モ多少起リ且外國手形再割引ノ如キモ輸出增加ノ結果トシテ頓ニ增加シ爲メニ同月十六日ヨリ日本銀行ハ制限外兌換券ヲ發行スルニ至リ爾來日ヲ逐フテ其高愈〻增加シ二十六日ニハ發行豫定額千萬圓ヲ超過セシカハ更ニ千五百萬圓ノ增發ヲ申請シテ其許可ヲ得三十一日ニ至リテハ其高貳千四百壹萬六千餘圓トナリ翌年一月ニ至リテモ中旬ニ其額ヲ減セシノミニテ依然存在シタルノミナラス末日ニ猶千四百四萬千五百七拾壹圓ヲ存セシカ二月ニ入リテ漸ク減少シ遂ニ同月二十一日ニ至リ全ク回收セラレタリ其景況左ノ如シ

年月日	發行高
● 明治三十一年十二月十六日	四八〇、七三九円
同　年同　月十七日	九八〇、〇六六
同　年同　月十九日	二、七一五、〇九三
同　年同　月二十日	二、四三七、五二一
同　年同　月二十一日	二、七四五、三七七
同　年同　月二十二日	三、〇九〇、六〇七

明治三十一年同	月二十三日	三、九一六、〇七四円
同	年同 月二十四日	九、四〇二、九〇〇
同	年同 月二十六日	一二、七八〇、〇二六
同	年同 月二十七日	一三、七一九、二一六
同	年同 月二十八日	一六、七一五、九八六
同	年同 月二十九日	一八、九四八、二五八
同	年同 月三十日	二二、〇七二、六六五
同	年同 月三十一日	二四、〇一六、五六八
明治三十二年一	月四日	一九、七二六、九〇四
同	年同 月六日	一二、九八八、二四八
同	年同 月七日	一〇、五四六、九七三
同	年同 月九日	七、八五九、三六二
同	年同 月十日	六、七九八、七七六
同	年同 月十一日	五、五八二、九一七
同	年同 月十二日	四、六三六、三八二
同	年同 月十三日	三、八一〇、〇四〇
同	年同 月十四日	三、八六三、二一六
同	年同 月十六日	三、三六九、二〇三

同	年同 月十七日	四、一八四、六〇三
同	年同 月十八日	三、八七六、三六九
同	年同 月十九日	三、〇五一、四〇六
同	年同 月二十日	二、七九二、三四六
同	年同 月二十一日	三、一五四、二八四
同	年同 月二十三日	三、六二三、八六五
同	年同 月二十四日	四、一二七、五八五
同	年同 月二十五日	四、六五六、一四六
同	年同 月二十六日	五、五二二、六六九
同	年同 月二十七日	八、三〇五、二九八
同	年同 月二十八日	一〇、六八六、四二二
同	年同 月三十一日	一四、〇四一、五七一
同	年二 月一日	一二、〇八三、七三七
同	年同 月二日	一一、〇三〇、一七四
同	年同 月三日	一一、二八四、八七二
同	年同 月四日	一一、九九九、二四一
同	年同 月六日	一二、八三二、四六三
同	年同 月七日	一二、九九七、八八六

明治三十二年二月八日		一三、一四六、七九九円
同　年同　月九日		一二、九六三、二六八
同　年同　月十日		一一、五一一、二一五
同　年同　月十三日		一〇、四九八、五九八
同　年同　月十四日		八、七一一、四一〇
同　年同　月十五日		八、五二八、三五七
同　年同　月十六日		七、〇四五、〇四六
同　年同　月十七日		五、〇一八、六四二
同　年同　月十八日		三、八四三、四五六
同　年同　月二十日		一、九九六、五〇三
同　年同　月二十一日		七五三、四一五

斯クテ明治三十一年末ヨリ發行シ來リシ制限外兌換券ハ全ク回收濟トナレリ

明治三十二年三月ヨリ日本銀行保證準備發行額八千五百萬圓ナリシヲ擴張シテ壹億貳千萬圓トナシ卽從前ニ比シ參千五百萬圓ノ發行力ヲ增加スルコトヽナレリ然ルニ八九月ノ頃ヨリ輸出貿易ノ著シク增進シ經濟界一般景氣回復ノ氣運ニ向ヒ物貨騰貴シ資金ノ需用大ニ起リ金融繁忙ノ兆ヲ現ハセルヲ以テ日本銀行ハ十一月後三回ノ金利引上ヲナセシモ市場ノ景況倍〻繁忙ヲ加ヘタルヲ以テ同年十二月末ニ至リ兌換銀行券制限外發行ヲ爲スノ止ムヲ得サルニ至リ十二月二十五日遂ニ制限外發行ヲ斷行シ同月末日ニ至リテハ其額貳千七拾貳萬千八百參拾五圓ニ達セリ之ヲ

前年十二月末日ノ制限外發行高ニ比スレハ參百貳拾九萬四千餘圓ヲ減セリト雖兌換銀行券ノ保證準備ニ係ル發行高本年三月ヨリ參千五百萬圓ヲ增加セラレタルヲ以テ保證準備ニ係ル總發行高ニ於テハ前年ヨリ增シタルコト實ニ參千貳百五拾九萬貳百九圓ナリ而シテ正貨準備モ亦前年ヨリ千百八拾八萬餘圓ヲ增加セリ右制限外發行ノ兌換券ハ明治三十三年二月ニ入リテ全ク回收セラレタリ明治三十三年ハ前年ニ引繼キ物價倍〻騰貴シ輸入超過甚シク輸出ハ極メテ不振ニシテ正貨流出愈〻夥シク資金ノ缺乏漸ク甚シキニ至レルヲ以テ金利ハ自ラ昂騰シ商估ノ困難ヲ感スルモノ頗ル多カリシカハ同年三月日本銀行ハ再ヒ制限外兌換券發行ヲ爲シ同月末ニハ千八拾四萬餘圓ニ上リシカ五月ニ至リテ一時其回收ヲ終レリ然ルニ同年六月ニ至リ清國事變ノ起リタル爲メ資金ノ需要俄然トシテ增加シ日本銀行ノ貸出高壹億千餘萬圓ノ多キニ上リタルヲ以テ同月再ヒ兌換券制限外發行ヲ見ルニ至リ斯クシテ同年十二月末ニハ其額四千百貳拾貳萬餘圓ノ多キヲ算スルニ至レリ明治三十四年ニ入リテモ兌換銀行券制限外發行ハ依然トシテ繼續シ以テ同年末ニ至リ十二月ニ入リテ一時全ク之ヲ回收シタリシカ明治三十五年一月ニ至リ再ヒ千參百九拾七萬餘圓ノ制限外發行ヲ見ルニ至レリ然ルニ此制限外發行ハ翌月ニ入リテ全ク回收ヲ見ルニ至リ明治三十二年十二月以降每月末日ニ於ケル兌換銀行券制限外發行現在高左ノ如シ

年　月　日	發行額
明治三十二年十二月末日	二〇、七二一、八三五円
明治三十三年一月末日	二四、二一六、一一九
同　年三月末日	一〇、八四三、六八三

明治三十三年四月末日	六、九〇〇、九二〇円	
同 年六月末日	一六、七四八、一〇六	
同 年七月末日	一七、四九六、九四三	
同 年八月末日	一二、八三五、六八五	
同 年九月末日	四、六六九、四五九	
同 年十月末日	一二、九六五、四五八	
同 年十一月末日	一五、四四七、八一二	
同 年十二月末日	四一、二二〇、九〇三	
明治三十四年一月末日	二一、九六四、一四九	
同 年二月末日	二二、七三二、三一六	
同 年三月末日	五、一九一、三九〇	
同 年四月末日	六、六二四、四八六	
同 年五月末日	四、八四〇、七九三	
同 年六月末日	一五、一五一、三八七	
同 年七月末日	六、七六九、〇五一	
同 年八月末日	一七、一六二、九六七	
同 年九月末日	九一二、九八八	
同 年十月末日	三、二九二、三四一	

同 年十一月末日	二二、七三八、三九五	
明治三十五年一月末日	一三、九七九、五九九	

明治三十五年ハ經濟界ノ大勢極メテ平穩ニシテ金融甚緩和ナリシヲ以テ日本銀行ノ貸出從テ甚多カラス三月以降兌換銀行券制限外發行ヲ爲サヽリシカ年末ニ至リ金融少シク繁忙ヲ告ケ十二月ニ入リテ制限外發行ヲ爲シ年末現在貳百九拾七萬五千五百六拾圓ヲ算シタリシモ翌年ニ入リテ直ニ其回收ヲ見ルニ至レリ

今左ニ明治十八年兌換銀行券發行以來明治三十五年ニ至ルマテノ兌換銀行券發行高及準備高ノ一覽表ヲ示サン

兌換銀行券發行高及準備高一覽表

年	月	兌換銀行券發行高	正貨準備高	保證準備高
明治十八年	五月末	二、六四五、四四〇円	二、八〇六、八八三円	〇円
同	年六月末	三、八〇一、三三〇	四、〇五七、九九六	〇
同	年七月末	四、三六五、二三〇	四、三六五、二三〇	〇
同	年八月末	四、二〇六、六五〇	四、二〇六、六五〇	〇
同	年九月末	三、七二二、八五九	三、〇二九、四五九	六九三、四〇〇
同	年十月末	三、六九〇、九八九	三、三三七、八八九	三五三、一〇〇
同	年十一月末	四、二五八、四八一	三、六八一、六八一	五七六、八〇〇

明治十八年十二月末	三、六五三、二七二円	三、〇〇八、五七二円	三、〇〇八、五七二円	六四四、七〇〇円
明治十九年一月末	三、九四四、七六三	三、三八九、九六三	四、三七六、五三七	五五四、八〇〇
同 二月末	六、七八六、三三七	四、三七六、五三七	二、四〇九、八〇〇	二、四〇九、八〇〇
同 三月末	六、五九九、六三五	三、六〇〇、〇二五	二、九九九、六一〇	五、七七九、八八九
同 四月末	一一、九一〇、九七三	六、一三一、〇八三	五、七七九、八八九	七、五八四、二〇一
同 五月末	一八、〇一二、〇五八	一〇、四二七、八一六	七、五八四、二〇一	七、九八三、七二九
同 六月末	一九、〇四四、六二〇	一一、〇六〇、八九四	七、九八三、七二九	八、九八三、七〇九
同 七月末	二〇、七〇九、〇一二	一一、七二五、三〇二	八、九八三、七〇九	一一、五七九、八五〇
同 八月末	二四、五六三、六一六	一二、九八三、七六五	一一、五七九、八五〇	一二、三七九、八五〇
同 九月末	二七、三八一、七二〇	一五、〇〇一、八六九	一二、三七九、八五〇	一四、五二九、八五〇
同 十月末	三〇、一六八、九二二	一五、六三九、〇七一	一四、五二九、八五〇	一五、三四九、八五〇
同 十一月末	三六、〇八八、三六九	二〇、七三八、五一八	一五、三四九、八五〇	一五、六九四、五七七
同 十二月末	三九、七六一、三六五	二四、〇六六、七八七	一五、六九四、五七七	一六、三七四、五七七
明治二十年一月末	三八、五六六、八〇四	二二、一九二、二二六	一六、三七四、五七七	一六、三七四、五七七
同 二月末	三九、九九〇、三二六	二三、六一五、七四八	一六、三七四、五七七	一五、一九八、一六七
同 三月末	三九、三六五、三七二	二三、〇〇八、二〇四	一六、三五七、一六七	一七、〇〇八、五三一
同 四月末	三八、二九四、七〇九	二三、〇九六、五四一	二三、四六〇、六七六	
同 五月末	四〇、四六九、二〇八			

同 年六月末	四三、八〇一、二〇〇	二四、三九二、六六八	一九、四〇八、五三一	
同 年七月末	四五、六一九、六〇三	二三、六一〇、七四七	二二、〇〇八、八五五	
同 年八月末	四八、六一〇、一四七	二四、六七一、九九七	二三、九三八、一四九	
同 年九月末	四九、一六三、二八四	二五、六八五、一三四	二三、四七八、一四九	
同 年十月末	五一、七〇三、三六一	二六、七五五、二一一	二四、九四八、一四九	
同 年十一月末	五三、九二九、五八〇	二七、四八一、四三〇	二六、〇四八、一四九	
同 年十二月末	五三、四六九、〇九二	三一、五九四、一九三	二一、八七四、八九八	
明治二十一年一月末	五三、一五九、〇〇四	三一、二八四、一〇五	二一、八七四、八九八	
同 年二月末	五四、〇六九、〇〇五	二六、六四四、一〇六	二七、四二四、八九八	
同 年三月末	五一、六三六、一四五	二六、三六一、二四六	二五、二七四、八九八	
同 年四月末	四九、五五一、〇二八	二五、二七六、一二九	二四、二七四、八九八	
同 年五月末	五一、一七六、四五五	二七、三六六、五八一	二三、八〇九、八七三	
同 年六月末	五〇、七〇八、六九〇	三〇、五〇八、八一八	二〇、一九九、八七一	
同 年七月末	五二、〇四五、九八五	三一、三四六、〇四七	二〇、六九九、九三八	
同 年八月末	五六、一一三、四一七	三五、二一五、七〇八	二〇、八九七、七〇九	
同 年九月末	五七、三五九、〇〇〇	三六、四六一、二九一	二〇、八九七、七〇九	
同 年十月末	六二、五二三、九〇五	四一、六二六、一九六	二〇、八九七、七〇九	
同 年十一月末	六一、〇一一、一〇五	四〇、一一三、三九六	二〇、八九七、七〇九	

明治二十一年十二月末	六五、八二二、二五二円	四五、〇七四、五四三円	二〇、七四七、七〇九円
明治二十二年一月末	六五、七四七、二四九	四五、一九九、五四〇	二〇、五四七、七〇九
同　年二月末	六四、八二六、六六七	四四、四七八、九五八	二〇、三四七、七〇九
同　年三月末	六三、三一八、二六四	四四、〇三七、二六一	一九、二八一、〇〇三
同　年四月末	六一、六五〇、四二九	四二、三六九、四二六	一九、二八一、〇〇三
同　年五月末	六二、七〇八、一〇五	四三、四二七、四〇二	一九、二八〇、七〇三
同　年六月末	六四、四九九、八四九	四四、七二八、七一〇	一九、一四五、八一一
同　年七月末	六五、五八三、〇二七	四六、〇一一、六七四	一九、五七一、三五三
同　年八月末	六八、六七九、四六三	四七、九〇八、一一〇	二〇、七七一、三五三
同　年九月末	七三、五三二、五九七	五一、八三三、二四四	二一、六九九、三五三
同　年十月末	七五、七七二、一三七	五四、〇七二、七八四	二一、六九九、三五三
同　年十一月末	七六、四九〇、八〇一	五四、七九一、四四八	二一、六九九、三五三
同　年十二月末	七九、一〇八、六五二	五七、四〇九、二九九	二一、六九九、三五三
明治二十三年一月末	七八、八五八、四六九	五七、一五九、一一六	二一、六九九、三五三
同　年二月末	七九、三二一、七九七	五七、二七二、四四四	二二、〇四九、三五三
同　年三月末	七七、六一五、四四二	五四、九五六、〇八九	二二、六五九、三五三
同　年四月末	七四、五五三、九五一	五二、三九四、五九八	二二、二一五、三五三
同　年五月末	七三、五七六、〇六六	五一、四一六、七一三	二二、一五九、三五三

同　年六月末	七二、八八六、一九〇	五〇、七二六、八三七	二二、一五九、三五三
同　年七月末	七一、四二六、〇五一	四八、七六六、六九八	二二、六五九、三五三
同　年八月末	七三、一八四、九三九	四七、三一三、一一九	二五、一五九、三五三
同　年九月末	七五、九二二、〇六三	四四、四六二、七一〇	三一、四五九、三五三
同　年十月末	九九、九三八、〇八一	四四、五七八、七二八	五五、三五九、三五三
同　年十一月末	九八、八七一、八三六	四四、九四七、二二七	五三、九五九、三五三
同　年十二月末	一〇二、九三一、七六六	四四、六二二、四一三	五八、三〇九、三五三
明治二十四年一月末	一〇二、二五五、六三二	四三、四四六、二七九	五八、八〇九、三五三
同　年二月末	一〇二、二六九、四〇五	四三、四六〇、〇五二	五八、八〇九、三五四
同　年三月末	一〇〇、二九九、九一一	四二、三九三、四一五	五七、九〇六、四九六
同　年四月末	九八、五二三、五四八	四三、五〇三、八九三	五五、〇一九、六五五
同　年五月末	九二、八五一、七四五	四五、八六一、二六一	七、一九二、四〇九
同　年六月末	九七、三二二、七八六	五三、二二四、一七五	四四、〇九八、六一一
同　年七月末	一〇二、九〇七、二四〇	五四、一五四、八七七	四八、七五二、三六三
同　年八月末	一〇六、二九八、九七三	五五、二九七、九三二	五一、〇〇一、〇四一
同　年九月末	一〇九、〇二八、二一九	五七、八七八、四五三	五一、一四九、七六六
同　年十月末	一一〇、〇〇四、三三二	五九、二九二、九九三	五〇、七一一、三三九
同　年十一月末	一〇八、六二〇、六二五	六一、三二三、六四六	四七、二九六、九七九

明治二十四年十二月末	一一五、七三四、五四五円	六三、一七八、三三三円	五二、五五六、二一二円
明治二十五年一月末	一一二、九八〇、八一四	六三、六九四、二一四	四八、一五八、〇四一
同 年二月末	一〇八、八八二、七六五	六四、〇九九、五五三	四四、七八三、二一二
同 年三月末	一〇八、四七九、九七九	六四、二七一、一八一	四四、二〇八、七九八
同 年四月末	一〇六、二九四、四七四	六一、九一六、三四〇	四四、三七八、一三四
同 年五月末	一〇一、二八四、九七五	六三、八七一、六八七	三七、四〇七、二八八
同 年六月末	一〇五、三四三、五一二	六五、一〇六、〇四八	四〇、二三七、四六四
同 年七月末	一〇五、二三六、七二四	六六、四四六、七九五	三八、三七五、六五四
同 年八月末	一一四、〇二〇、九六〇	六九、七四一、四〇六	四四、二七九、五五四
同 年九月末	一一六、八五六、四一三	七一、六三三、七八一	四五、二二二、六三二
同 年十月末	一一五、八五一、九九〇	七三、〇六六、九七九	四二、七八五、〇一一
同 年十一月末	一一四、七三三、七一五	七四、三六〇、四五六	四〇、三七三、二五九
同 年十二月末	一二五、八四三、三六三	八一、一五八、二六五	四四、六八五、〇九八
明治二十六年一月末	一二六、三二五、三八九	八一、二四七、三二八	四五、〇七八、〇六一
同 年二月末	一二八、〇八九、三一七	八四、八一九、〇七四	四三、二七〇、二四三
同 年三月末	一二八、四五七、三三三	八六、五〇五、〇五九	四一、九五二、二七四
同 年四月末	一二七、九一三、九〇四	八六、二六四、八四七	四〇、一〇五、九六〇
同 年五月末	一一九、四二一、五三二	八七、六一〇、三九八	三一、八一一、一三四

同 年六月末	一二三、五四一、七三七	八七、五〇六、〇二四	三六、〇三五、七一三
同 年七月末	一二九、六〇四、三六八	八六、六〇八、四二九	四二、九九五、九三九
同 年八月末	一三六、二八六、四五二	八六、四四八、二九八	四九、八三八、一五四
同 年九月末	一三六、五一〇、〇五五	八五、三九一、六八六	五一、一一八、三六九
同 年十月末	一三七、四一〇、七六四	八五、〇四八、五〇〇	五二、三六二、二六四
同 年十一月末	一三九、五九四、九二二	八四、九五七、六〇三	五四、六三七、三一九
同 年十二月末	一四八、六六三、一二八	八五、九二八、五一六	六二、七三四、六一二
明治二十七年一月末	一四七、三七二、一九九	八四、五一五、四〇四	六二、八五六、七九五
同 年二月末	一四一、三八五、四四六	八三、〇〇五、七九六	五八、三七九、六五〇
同 年三月末	一四一、二七〇、五四九	八二、六四九、九六四	五八、六二〇、五八五
同 年四月末	一三七、〇二三、五五八	八一、二六九、〇七二	五五、七五四、四八六
同 年五月末	一三六、二四一、七八〇	八二、四九五、五七三	五三、七四六、二〇七
同 年六月末	一四一、七三六、三五八	七九、六三二、九八八	六二、一〇三、三七〇
同 年七月末	一四〇、〇一八、〇三六	七七、四六五、六三八	六二、五五二、三九八
同 年八月末	一四一、七七三、九〇四	七九、五六八、三三五	六二、二〇五、五六九
同 年九月末	一三七、七九五、一六六	七七、一二二、三三六	六〇、四五九、六〇三
同 年十月末	一四〇、二九六、六五六	七七、七一三、九二一	六二、五八二、七三五
同 年十一月末	一三八、四七七、六七一	七四、九二一、七一七	六三、五五五、九五四

明治二十七年十二月末	一四九、八一三、七〇〇円	八一、七一八、二九一円
明治二十八年一月末	一四二、七五六、〇九二	八〇、九二四、〇七五
同　年二月末	一三七、一八五、〇八六	七六、四六二、三八七
同　年三月末	一三五、二二四、六五四	七二、八九一、二七九
同　年四月末	一三二、八三九、九八四	六八、五三二、三二〇
同　年五月末	一三二、五七三、七一五	六六、一九九、〇〇〇
同　年六月末	一四三、〇八三、六六三	六五、〇七八、三四七
同　年七月末	一四二、六六九、二〇三	六四、七一九、一三八
同　年八月末	一五二、九〇四、八一九	六七、六八一、五〇〇
同　年九月末	一五三、八九七、七八三	六八、二五〇、一一九
同　年十月末	一五八、六九二、三九六	六六、一九七、五五五
同　年十一月末	一六一、八五八、〇〇九	六三、九〇三、八三八
同　年十二月末	一八〇、三三六、八一五	六〇、三七〇、七九七
明治二十九年一月末	一七一、二一一、六〇四	五四、八九〇、一七六
同　年二月末	一六四、四〇八、三七三	五四、五八九、一四六
同　年三月末	一五七、一四一、八一九	五五、三四七、〇〇二
同　年四月末	一五四、七四八、六三一	五五、五七四、四九九
同　年五月末	一六五、八三七、七六二	一〇六、二七八、三八八

同　年六月末	一七一、六九四、八七九	一〇七、一八一、〇七九
同　年七月末	一七一、一〇二、一四八	一〇六、五一八、〇九七
同　年八月末	一七五、二四一、七三九	一一〇、七六一、三七九
同　年九月末	一七六、六〇五、三五九	一一〇、三七六、〇五四
同　年十月末	一七九、二五七、九五八	一一二、七九七、〇八八
同　年十一月末	一八〇、七四四、三一四	一一四、六二五、三六八
同　年十二月末	一九八、三一三、八九六	一三二、七三〇、一九二
明治三十年一月末	一九〇、五一九、四四六	一二二、〇〇一、〇一六
同　年二月末	一八一、九八二、九三七	一一七、二七九、四二七
同　年三月末	一八一、一一二、二八〇	一〇九、四八八、〇二七
同　年四月末	一七七、五三七、四四〇	一〇六、九四一、三一九
同　年五月末	一八七、七七二、四六三	一一七、三二八、七六七
同　年六月末	一九五、三〇二、六六九	一一九、四三七、〇六四
同　年七月末	一九八、七二八、〇八八	一〇九、七八〇、六七八
同　年八月末	二〇〇、〇一五、六〇八	一〇六、七五〇、九七八
同　年九月末	一九七、二四八、七七六	九四、九四一、〇七八
同　年十月末	一九九、四七六、一六九	九〇、二二四、五四八
同　年十一月末	二〇三、四八〇、四〇〇	九一、〇〇二、四四七

同　年六月末	一七一、六九四、八七九	一〇七、一八一、〇七九
同　年七月末	一七一、一〇二、一四八	一〇六、五一八、〇九七
同　年八月末	一七五、二四一、七三九	一一〇、七六一、三七九
同　年九月末	一七六、六〇五、三五九	一一〇、三七六、〇五四
同　年十月末	一七九、二五七、九五八	一一二、七九七、〇八八
同　年十一月末	一八〇、七四四、三一四	一一四、六二五、三六八
同　年十二月末	一九八、三一三、八九六	一三二、七三〇、一九二
明治三十年一月末	一九〇、五一九、四四六	一二二、〇〇一、〇一六
同　年二月末	一八一、九八二、九三七	一一七、二七九、四二七
同　年三月末	一八一、一一二、二八〇	一〇九、四八八、〇二七
同　年四月末	一七七、五三七、四四〇	一〇六、九四一、三一九
同　年五月末	一八七、七七二、四六三	一一七、三二八、七六七
同　年六月末	一九五、三〇二、六六九	一一九、四三七、〇六四
同　年七月末	一九八、七二八、〇八八	一〇九、七八〇、六七八
同　年八月末	二〇〇、〇一五、六〇八	一〇六、七五〇、九七八
同　年九月末	一九七、二四八、七七六	九四、九四一、〇七八
同　年十月末	一九九、四七六、一六九	九〇、二二四、五四八
同　年十一月末	二〇三、四八〇、四〇〇	九一、〇〇二、四四七

同　年六月末	一七一、六九四、八七九	一〇七、一八一、〇七九	六四、五一三、八〇〇
同　年七月末	一七一、一〇二、一四八	一〇六、五一八、〇九七	六四、五八四、〇五一
同　年八月末	一七五、二四一、七三九	一一〇、七六一、三七九	六四、四八〇、三六〇
同　年九月末	一七六、六〇五、三五九	一一〇、三七六、〇五四	六六、二二九、三〇五
同　年十月末	一七九、二五七、九五八	一一二、七九七、〇八八	六六、四六〇、八七〇
同　年十一月末	一八〇、七四四、三一四	一一四、六二五、三六八	六六、一一八、九四六
同　年十二月末	一九八、三一三、八九六	一三二、七三〇、一九二	六五、五八三、七〇四
明治三十年一月末	一九〇、五一九、四四六	一二二、〇〇一、〇一六	六八、五一八、四三〇
同　年二月末	一八一、九八二、九三七	一一七、二七九、四二七	六四、七〇三、五一〇
同　年三月末	一八一、一一二、二八〇	一〇九、四八八、〇二七	七一、六二四、二五三
同　年四月末	一七七、五三七、四四〇	一〇六、九四一、三一九	七〇、五九六、一二一
同　年五月末	一八七、七七二、四六三	一一七、三二八、七六七	七〇、四四三、六九六
同　年六月末	一九五、三〇二、六六九	一一九、四三七、〇六四	七五、八六五、六〇五
同　年七月末	一九八、七二八、〇八八	一〇九、七八〇、六七八	八八、九四七、四一〇
同　年八月末	二〇〇、〇一五、六〇八	一〇六、七五〇、九七八	九三、二六四、六三〇
同　年九月末	一九七、二四八、七七六	九四、九四一、〇七八	一〇二、三〇七、六九八
同　年十月末	一九九、四七六、一六九	九〇、二二四、五四八	一〇九、二五一、六二一
同　年十一月末	二〇三、四八〇、四〇〇	九一、〇〇二、四四七	一一二、四七七、九五三

明治三十年十一月末	二二六、二二九、〇五八円	九八、二六一、四七三円	一二七、九六七、五八五円
明治三十一年一月末	二二二、〇〇三、九八九	九一、五六八、三六四	一二〇、四三五、六二五
同　年二月末	一九五、二九七、四八三	八三、六二六、二二四	一一一、六七一、二五九
同　年三月末	一九五、八八九、七六一	七四、六五一、一五二	一二一、二三八、六〇九
同　年四月末	一八三、八一九、二三九	六四、〇五三、〇〇九	一一九、七六六、二三〇
同　年五月末	一七四、一九六、一〇六	六二、九九九、五六一	一一一、一九六、五四五
同　年六月末	一八〇、〇一九、九三〇	六三、八二〇、三八六	一一六、一九九、五四四
同　年七月末	一七九、七八〇、六〇六	七六、九四九、一一四	一〇二、八三一、四九二
同　年八月末	一八六、三六一、三二〇	八八、四九八、二二八	九七、八六三、〇九二
同　年九月末	一七四、四七二、八四九	九一、三〇七、四八〇	八三、一六五、三二九
同　年十月末	一八〇、一二二、七〇四	八八、四六八、七二〇	九一、六五三、九八四
同　年十一月末	一七七、五八一、〇七九	九〇、一八〇、〇一七	八七、四〇一、〇六二
同　年十二月末	一九九、三九九、九〇一	八九、五七〇、二三九	一〇七、八二九、六六二
明治三十二年一月末	一八九、〇五一、七〇二	九一、〇八〇、〇〇七	九七、九七一、六九五
同　年二月末	一八一、二一八、一七六	九七、三一二、五九〇	八三、九〇五、五八六
同　年三月末	一八六、九四、七九二	九六、九七三、三六四	九〇、〇二一、四二八
同　年四月末	一八一、八四四、七二九	九七、一六九、三五四	八四、六七五、三七五
同　年五月末	一七四、二八二、八九五	九九、三八三、一二七	七四、八九九、七六八

同　年六月末	一九二、五七二、三六一	一〇一、三一一、九三三	九一、二六〇、四二八
同　年七月末	二〇九、七九〇、六五八	一〇三、五四三、六四六	一〇六、二四七、〇一二
同　年八月末	二一六、一五一、九九九	一〇三、六九七、五二八	一一二、四五四、四七一
同　年九月末	二一九、九七七、七八〇	一〇一、八六八、七四三	一一八、一〇九、〇三七
同　年十月末	二二〇、〇三五、八七八	一〇二、〇四二、八四〇	一一七、九八三、〇三八
同　年十一月末	二二八、三三〇、四一九	一一一、六〇〇、八三〇	一一六、七二九、五八九
同　年十二月末	二五〇、五六二、〇四〇	一一〇、一四二、一一六	一四〇、四一九、八七一
明治三十三年一月末	二四九、〇七五、一九六	一〇五、〇四〇、二四一	一四四、〇三四、九五五
同　年二月末	二二〇、二七〇、三一七	一〇二、八一九、二二八	一一七、四五一、〇八九
同　年三月末	二二七、四四八、〇八〇	九六、六〇四、三九七	一三〇、八四三、六八三
同　年四月末	二二五、五一八、四一八	八八、六一七、四九八	一二六、九〇〇、九二〇
同　年五月末	一九六、六二二、二四八	八四、〇三八、三九七	一一二、五八三、八五一
同　年六月末	二一五、七七〇、七三八	七九、〇二二、六三二	一三六、七四八、一〇六
同　年七月末	二一二、八七一、六〇六	七五、三七四、六六三	一三七、四九六、九四三
同　年八月末	二〇五、一一二、五二八	七二、二七六、八四三	一三二、八三五、六八五
同　年九月末	一九四、五九二、〇六一	六九、九二二、六〇二	一二四、六六九、四五九
同　年十月末	二〇一、二二四、三二七	六八、二五八、八六九	一三二、九六五、四五八
同　年十一月末	二〇〇、六九七、〇一四	六五、二四九、二〇二	一三五、四四七、八一二

明治三十三年十二月末	二二八、五七〇、〇三二円	六七、三四九、一二九円	一六一、二二〇、九〇三円
明治三十四年一月末	二〇六、五八三、三七九	六四、六一九、二三〇	一四一、九六四、一四九
同 年二月末	二〇五、一一九、七三七	六二、三八七、四二一	一四二、七三二、三一六
同 年三月末	一八七、〇五二、七七三	六一、八六一、三八三	一二五、一九一、三九〇
同 年四月末	一八七、二五七、〇〇〇	六〇、六三二、五一四	一二六、六二四、四八六
同 年五月末	一八五、九九七、六一二	六一、一五六、八一九	一二四、八四〇、七九三
同 年六月末	一九六、九九九、七二九	六一、八四八、三四二	一三五、一五一、三八七
同 年七月末	一九一、一七七、六二六	六四、四〇八、五七五	一二六、七六九、〇五一
同 年八月末	二〇三、七〇七、四三八	六六、五四四、四七一	一三七、一六二、九六七
同 年九月末	一九〇、一六四、三九五	六九、二五一、四〇七	一二〇、九一二、九八八
同 年十月末	一九二、一二九、〇二六	六八、八三六、六八五	一二三、二九二、三四一
同 年十一月末	一八七、四九〇、七七三	六八、一〇七、一九七	一一九、三八三、五七九
同 年十二月末	二一四、〇九六、七六六	七一、三五八、三七一	一四二、七三八、三九五
明治三十五年一月末	二〇五、一二八、一九六	七一、一四八、五九七	一三三、九七九、五九九
同 年二月末	一九三、一八二、九四〇	七三、三六五、九六五	一一九、八一六、九七五
同 年三月末	一八七、一九四、三三六	七四、三二七、〇一九	一一二、八六七、三一七
同 年四月末	一八二、九四四、九三二	七五、三八五、一七四	一〇七、五五九、七五八
同 年五月末	一七七、二一八、八八九	七六、四一〇、三一四	一〇〇、八〇八、五七五

同 年六月末	一九五、九六三、一二四	七七、五四七、七四一	一一八、四一五、三八三
同 年七月末	一九三、七四一、七三六	七九、七一五、〇八四	一一四、〇二六、六五二
同 年八月末	一九五、四七四、一六一	八三、二七三、一三七	一一二、二〇一、〇二四
同 年九月末	一九二、七一七、七三九	八五、三四九、二九〇	一〇七、三六八、四四九
同 年十月末	一九九、六二二、八三〇	八八、六五八、五七六	一一〇、九六四、二五四
同 年十一月末	二〇〇、四三六、九四三	九五、〇四二、五〇四	一〇五、三九四、四三九
同 年十二月末	二三二、〇九四、三七七	一〇九、一一八、八一七	一二二、九七五、五六〇

第五款 兌換ノ景況

明治十七年布告第十八號兌換銀行券條例第六條ニヨレハ兌換銀行券ハ日本銀行本支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ銀貨ト兌換スヘキ旨ヲ明定セリ然ルニ政府ハ明治十七年五月布告第九號ヲ以テ條例第六條ニ但書ヲ追加シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得ル旨ヲ定メタリ是レ事實上ノ必要ニ出テタルモノナリ而シテ横濱港ハ外國貿易取引最モ盛ニシテ銀貨ノ需用最モ頻繁ナルノ地タルニ拘ラス日本銀行支店ノ設無キヲ以テ政府ハ明治十八年五月横濱正金銀行ヲシテ日本銀行支店ノ資格ヲ以テ兌換銀行券ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルコトヽシ日本銀行ニ其旨ヲ達示シ取扱代理約定締結方ヲ命セリ是ニ於テ日本銀行ハ政府ノ認可ヲ經テ同月十五日横濱正金銀行ト兌換券取扱方代理約定ヲ締結シタリ

横濱正金銀行ヲシテ兌換銀行券發行之事務取扱ニ從事爲致候ニ付テハ特ニ代理店申付其約定手續方取調至急上申可致此旨相達候事

但銀行券發行事務ニ付テハ總テ其銀行支店ノ資格ヲ以テ取扱ハセ候儀ト可相心得事

明治十八年五月九日　　大藏卿　伯爵　松方正義

日本銀行約條書

横濱港ニ於テ日本銀行兌換券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付兩行ノ間ニ特別約條ヲ締結スル左ノ如シ

第一條　日本銀行ハ横濱港ニ於テ日本銀行兌換券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付正金銀行ハ日本銀行ヨリ渡シ置ク所ノ兌換銀行券條例及取扱順序書ヲ遵守シ總テ日本銀行ノ指示スル所ニ隨テ事務ヲ取扱フヘシ

第二條　正金銀行ニ代理ヲ囑託スル日本銀行兌換券ノ取扱方左ノ如シ

一　兌換銀行券條例ノ趣旨ニ據リ請求者ノ需ニ應シ兌換券ヲ銀貨ニ又金銀貨ヲ兌換券ニ引換ル事

一　日本銀行ニ於テ定メタル歩合ニ據リ請求者ノ需ニ應シ紙幣ヲ兌換券ニ又兌換券ヲ紙幣ニ交換スル事

但其員額ハ日本銀行ニ於テ制限ヲ立置クモノトス

一　外國「バンク」宛ノ「チエッキ」ヲ以テ便宜兌換券ニ引換請求スルモノアルニ應シテ之レヲ引換

（無手數料タルヘシ）其「チエッキ」ヲ以テ其「バンク」ヨリ現金ヲ取立ル事

但其「チエッキ」ハ確實ノモノヲ撰ムハ勿論ナリ尤不渡等ヨリ生シタル損害ハ正金銀行ノ負擔タルヘシ

一　日本銀行本支店ヨリ振出ス銀貨若クハ兌換券ノ送金手形ニ對シ其金額ヲ拂渡スコト

右ノ外取扱フヘキ事務增加スルトキハ更ニ追約ヲナスヘシ

第三條　正金銀行ニ於テ前條代理事務執行上ニ付テハ總テ日本銀行兌換券取扱代理ト稱シテ本業事務ト其資格ヲ明別シ亦實際ノ取扱方モ判然區劃シテ本業上ト混淆セサラシムヘシ

第四條　正金銀行ハ代理事務取扱ノ主務役員ヲ定メ其印鑑ヲ添ヘ日本銀行ヘ通達ナシ置クヘシ日本銀行ハ事柄ニ寄リ直接ニ其主務役員ト文書往復ヲナシ又ハ直ニ指命スルコトアルヘシ

但其主務役員ノ過失又ハ不束ノ行爲ヨリ生タル損害ハ都テ正金銀行ノ負擔タル勿論タルヘシ

第五條　日本銀行ハ兌換券取扱方調査ノタメ時々役員ヲ派出シ現金竝ニ諸帳簿ノ檢査ヲ爲スヘシ

第六條　日本銀行ハ兌換券引換資金トシテ適宜ノ員額ヲ正金銀行ヘ預ケ置クニ付之ヲ以テ第二條各項ノ用ニ供スヘシ

第七條　前條ノ資金ハ前第二條各項ノ爲ニ出納スル外正金銀行ノ本營業上ニ運用スルコトヲ許サス就テハ正金銀行ハ保護預リノ處置ヲナシ營業金ト混淆セサル樣區域ヲ立テ格護スヘ

シ但預リ中如何ナル事故アリテ損失スルトモ總テ正金銀行ニ於テ之ヲ辨還スルハ勿論タル可シ乍併避ヘカラサル變災ニ因テ損失シ正金銀行ニ於テ其證跡ヲ明擧具狀スルトキハ日本銀行ハ別段ノ處分ヲナスヘシ

第八條　前第六條ノ引換資金ハ日本銀行ヨリ渡シ置ク所ノ帳簿ニ記載勘定シ而シテ毎日出入報告表ヲ作リテ日本銀行ヘ差出又毎半年決算書ヲ作リテ日本銀行ヘ差出シ勘定ヲ證明スヘシ

第九條　銀貨兌換券ノ引換何レカ一方ニ偏シ自然引換方差支アル場合ニ於テ正金銀行營業金ニ其需要ノ種類アルトキハ假リニ資金ト交換ヲナシテ之ヲ辨スヘシ然ルトキハ通知次第日本銀行ニ於テ交換戻シノ順序ヲ爲スヘシ

第十條　日本銀行ハ兌換券百五拾萬圓ヲ極度トシ本條約期限中年二分（百分ノ二）ノ利子ヲ以テ正金銀行ヘ貸渡スヘシ就テハ正金銀行ハ抵當トシテ公債證書實價百萬圓ヲ日本銀行ヘ預ケ置ク可シ萬一正金銀行ニ於テ右貸金返濟致シ難キコトアルトキハ日本銀行ハ該抵當品ヲ賣却ノ上其代金ヲ以テ元利決算スヘシ右ニテ不足ノ分ハ正金銀行資產ヲ以テ之ヲ償還スヘシ但利子ハ毎年五月十一月末日ヲ期トシ正金銀行ヨリ勘定書ヲ添ヘ日本銀行ヘ拂渡スヘシ

第十一條　正金銀行ハ兌換券取扱方代理ノ費用ヲ償ハンカタメ前第十條ノ如ク特別ノ低利ヲ以テ金員ノ借入ヲ望ミ日本銀行ノ承諾ヲ得タルニ付該事務ニ關スル一切ノ費用ハ總テ正金銀行ニ於テ支辨スヘシ尤前第六條ノ資金回送費ハ東京ヨリ横濱ヘ送ル分ハ日本銀行ニテ之ヲ辨シ横濱ヨリ東京ヘ送ル分ハ正金銀行ニテ之ヲ辨スルモノトス

第十二條　本約條ハ明治十八年六月二十日ヨリ明治二十年六月十九日マテ滿二箇年ヲ期限トス滿期ニ至レハ正金銀行ハ預金竝ニ貸金ヲ悉皆返濟シ日本銀行ハ抵當品ヲ返却シテ其局ヲ結フヘシ尤本約條ハ大藏卿ノ命令アル乎日本銀行ノ都合ニ依リ大藏卿ノ認可ヲ得ルニ於テハ期限內ト雖モ解約スルコトアル可ク又滿期ニ至リ雙方熟議ノ上ハ繼約スルコトアルヘシ

右代理約定ハ二箇年ヲ以テ期限トセルヲ以テ明治二十年六月二十日更ニ其約定ヲ更新シ同時ニ其條項ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリ

約條書

横濱港ニ於テ日本銀行兌換券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付兩行ノ間ニ特別約條ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　日本銀行ハ横濱港ニ於テ日本銀行兌換券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付横濱正金銀行ハ日本銀行ヨリ渡シ置所ノ兌換銀行券條例及取扱順序書ヲ遵守シ總テ日本銀行ノ指示スル所ニ隨テ事務ヲ取扱フヘシ

第二條　横濱正金銀行ニ代理ヲ囑託スル日本銀行ハ左ノ如シ

一　兌換銀行券條例ノ趣旨ニ據リ請求者ノ需ニ應シ兌換券ヲ銀貨ニ又金銀貨ヲ兌換券ニ引換ル事

一　日本銀行ニ於テ定メタル歩合ニ據リ請求者ノ需ニ應シ紙幣ヲ兌換券ニ又兌換券ヲ紙幣ニ交換スル事

但其員額ハ日本銀行ニ於テ制限ヲ立置モノトス

一 外國「バンク」宛ノ「チエッキ」ヲ以テ便宜兌換券ニ引換請求スル者アルニ應シテ之ヲ引換(無手數料)スヘシ(タルヘシ)其「チエッキ」ヲ以テ其「バンク」ヨリ現金ヲ取立ル事

但其「チエッキ」ハ確實ノモノヲ撰ムハ勿論ナリ尤不渡等ヨリ生シタル損害ハ横濱正金銀行ノ負擔タルヘシ

一 日本銀行本支店ヨリ振出ス銀貨若クハ兌換券ノ送金手形ニ對シ其金額ヲ拂渡ス事

右ノ外取扱フヘキ事務增加スルトキハ更ニ追約ヲ爲スヘシ

第三條 横濱正金銀行ニ於テ前條代理事務執行上ニ付テハ總テ日本銀行兌換券取扱代理ト稱シテ本業事務ト其賚格ヲ明別シ亦實際ノ取扱方モ判然區劃シテ本業上ト混淆セサラシムヘシ

第四條 日本銀行ハ兌換券取扱方調査ノ爲メ時々役員ヲ派出シ現金並ニ諸帳簿ノ檢査ヲ爲スヘシ

第五條 日本銀行ハ兌換券引換賚金トシテ適宜ノ員額ヲ横濱正金銀行ヘ預ケ置ヘクニ付之ヲ以テ第二條各項ノ用ニ供スヘシ

第六條 前條ノ賚金ハ前第二條各項ノ爲メニ出納スル外横濱正金銀行ノ本營業上ニ運用スル事ヲ許サス就テハ横濱正金銀行ハ保護預リノ處置ヲ爲シ營業金ト混淆セサル樣區域ヲ立テ格護スヘシ但横濱正金銀行役員ノ過失ニ因リ又ハ預リ中如何ナル事故アリテ損失スルト雖總テ横濱正金銀行ニ於テ之ヲ辨還スルハ勿論タルヘシ併シナカラ避クヘカラサル變災ニ因テ損失シ横濱正金銀行ニ於テ其證跡ヲ明擧具狀スル時ハ日本銀行ハ別段ノ處分ヲ爲スヘシ

第七條 前第五條ノ引換賚金ハ日本銀行ヨリ渡シ置ク所ノ帳簿ニ記載勘定シ而シテ毎日出入

報告表ヲ作リテ日本銀行ヘ差出シ又毎半年決算書ヲ作リテ日本銀行ヘ差出シ勘定ヲ證明スヘシ

第八條 銀貨兌換券ノ引換何レカ一方ニ偏シ自然引換方差支アル場合ニ於テ横濱正金銀行營業金ニ其需用ノ種類アルトキハ假リニ賚金ト交換ヲ爲シテ之ヲ辨スヘシ然ルトキハ通知次第日本銀行ニ於テ交換戻シノ順序ヲ爲スヘシ

第九條 日本銀行ハ横濱正金銀行ニ本約定書ニ掲クル取扱方ヲ囑託スル爲メ諸雜用料トシテ一箇年金六千圓ヲ毎半季ニ分チ日本銀行ヨリ支拂フヘシ尤前第五條ノ賚金回送費ノ內東京ヨリ横濱ヘ送ル分ハ日本銀行ニテ之ヲ支辨スルモノトス

第十條 本約條ハ明治二十年六月二十日ヨリ明治二十二年六月十九日迄滿二箇年ヲ限リトス尤日本銀行ノ都合ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ得ルニ於テハ期限內ト雖モ解約スルコトアルヘシ又滿期ニ至リ雙方熟議ノ上ハ繼約スルコトモアルヘシ

而シテ右約定ハ明治二十四年六月更ニ之ヲ更新シ次テ明治二十六年六月更ニ左ノ如ク修正シテ約條ヲ更新シタリ

約條書

横濱港ニ於テ日本銀行兌換銀行券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付兩行ノ間ニ特別約條ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 日本銀行ハ横濱港ニ於テ日本銀行兌換銀券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付横濱正金銀行ハ日本銀行ヨリ囘付シ置ク所ノ兌換銀行券條例及取扱順序ヲ遵守シ總テ

日本銀行ノ指示スル所ニ隨テ事務ヲ取扱フ可シ

第二條　日本銀行ヨリ横濱正金銀行ヘ囑託スル日本銀行兌換銀券ノ取扱方ハ左ノ如シ

一　兌換銀行券條例ノ趣旨ニ據リ請求者ノ需ニ應シ兌換銀券ヲ銀貨ニ又金銀貨ヲ兌換銀券ニ引換ル事

一　日本銀行ニ於テ定メタル歩合ニ據リ請求者ノ需ニ應シ紙幣ヲ兌換銀券ニ又兌換銀券ヲ紙幣ニ交換スルコト

但其交換額ハ日本銀行ニ於テ制限ヲ立テ置クモノトス

一　外國「バンク」宛ノ「チエッキ」ヲ以テ兌換銀貨ニ引換ヲ請求スルモノアラハ更宜其需ニ應シテ之ヲ引換ヘ（無手數料タル可シ）該「チエッキ」ヲ以テ其「バンク」ヨリ現金ヲ取立ル事

但横濱正金銀行ハ右「チエッキ」ニ關スル一切ノ責任ヲ有シ其「チエッキ」ヨリ生スル一切ノ經費損害ハ總テ横濱正金銀行ニ於テ負擔スルモノトス

一　日本銀行本支店ヨリ振出ス銀貨若クハ兌換銀券ノ送金手形ニ對シ其金額ヲ拂渡スコト

右ノ外取扱フヘキ事務增加スルトキハ更ニ追約ヲ爲ス可シ

第三條　横濱正金銀行ニ於テ前條代理事務執行上ニ就テハ總テ日本銀行兌換銀券取扱代理ト稱シテ本業事務ト其資格ヲ明別シ亦實際ノ取扱方モ判然區劃シテ本業事務ト混淆セサラシムヘシ

第四條　日本銀行ハ兌換銀券取扱方調査ノ爲メ時々役員ヲ派出シ現金竝ニ諸帳簿ノ檢査ヲ爲ス可シ

第五條　日本銀行ハ兌換銀券引換資金トシテ適宜ノ員額ヲ横濱正金銀行ヘ預ケ置クニ付之ヲ以テ第二條各項ノ用ニ供スヘシ

但資金回送費ハ日本銀行ニ於テ負擔スルモノトス

第六條　前條ノ資金ハ前第二條各項ノ爲メニ出納スル外横濱正金銀行ノ本業上ニ使用スルコトヲ許サス就テハ横濱正金銀行ハ保護預リノ取扱ヲナシ營業ト混淆セサル樣區域ヲ爲シ保管スヘシ

但横濱正金銀行役員ノ過失ニ因リ又ハ保管中如何ナル事故アリテ損失スルトモ總テ横濱正金銀行ニ於テ之ヲ辨償スルハ勿論タルヘシ尤避ク可ラサル變災ニ因テ損失シタル場合ニ於テ其證跡判明ナルトキハ日本銀行ハ別段ノ處分ヲ爲スコトアル可シ

第七條　前第五條ノ引換資金ハ日本銀行ヨリ回付シ置ク所ノ帳簿ニ記載勘定シ而シテ毎日出入報告表ヲ作リテ日本銀行ヘ送付シ又毎半年決算書ヲ調製シテ其勘定ヲ證明スヘシ

第八條　銀貨兌換銀券ノ引換何レカ一方ニ偏シ自然引換方差支アル場合ニ於テ横濱正金銀行營業金ニ其需要ノ種類アルトキハ假リニ資金ト交換ヲ爲シテ之ヲ辨スヘシ然ルトキハ通知次第日本銀行ニ於テ交換戻シノ順序ヲ爲スヘシ

第九條　本約條ハ明治二十六年六月二十日ヨリ明治二十八年六月十九日迄滿二箇年ヲ限リトス尤日本銀行ノ都合ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ得ルニ於テハ期限內ト雖モ解約スルコトアルヘク又雙方熟議ノ上ハ本約條ヲ改正增削スルコトヲ得

右約條ヲ締結シタル證トシテ雙方役員記名調印シ一通ハ日本銀行ニ保存シ一通ハ横濱正金銀

行ニ保存スルモノナリ

右ノ代理約條ハ明治二十八年六月十九日滿期トナルヲ以テ同年六月更ニ約條書ニ修正ヲ施シ其代理約條ヲ更新セリ

約條書

横濱港ニ於テ日本銀行兌換銀券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付兩行ノ間ニ特別約條ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　日本銀行ハ横濱港ニ於テ日本銀行兌換銀券取扱方ノ代理ヲ横濱正金銀行ヘ囑託スルニ付横濱正金銀行ハ日本銀行ヨリ回付シ置ク所ノ兌換銀行券條例及取扱順序ヲ遵守シ總テ日本銀行ノ指令スル所ニ隨テ事務ヲ取扱フ可シ

第二條　日本銀行ヨリ横濱正金銀行ヘ囑託スル日本銀行兌換銀券ノ取扱方ハ左ノ如シ

一　兌換銀行券條例ノ旨趣ニ依リ請求者ノ需ニ應シ兌換銀券ヲ銀貨ニ又金銀貨ヲ兌換銀券ニ引換フル事

一　外國「バンク」宛ノ「チエッキ」ヲ以テ兌換銀券ニ引換ヲ請求スル者アラハ便宜其需ニ應シテ之ヲ引換（無手數料タル可シ）該「チエッキ」ヲ以テ其「バンク」ヨリ現金ヲ取立ル事

但横濱正金銀行ハ右「チエッキ」ニ關スル一切ノ責任ヲ有シ其「チエッキ」ヨリ生スル一切ノ經費損害ハ總テ横濱正金銀行ニ於テ負擔スルモノトス

一　日本銀行本支店ヨリ振出ス銀貨若クハ兌換銀券ノ送金手形ニ對シ其金額ヲ拂渡ス事

右ノ外取扱フ可キ事務增加スルトキハ更ニ追約ヲ爲ス可シ

第三條　横濱正金銀行ニ於テ前條代理事務執行上ニ就テハ總テ日本銀行兌換銀券取扱代理ト稱シテ本業事務ト其資格ヲ判別シ亦實際ノ取扱方モ判然區劃シテ本業事務ト混淆セサラシム可シ

第四條　日本銀行ハ兌換銀券取扱方調査ノ爲メ時々役員ヲ派出シ現金竝ニ諸帳簿ノ檢査ヲ爲ス可シ

第五條　日本銀行ハ兌換銀行券引換資金トシテ適當員額ヲ横濱正金銀行ヘ預ケ置クニ付之ヲ以テ第二條各項ノ用ニ供ス可シ但資金回送費ハ日本銀行ニ於テ負擔スルモノトス

第六條　前條ノ資金ハ前條第二條各項ノ爲メニ出納スルノ外横濱正金銀行ノ本業上ニ使用スルコトヲ許サス就テハ横濱正金銀行ハ保護預リノ取扱ヲ爲シ營業金ト混淆セサル樣區域ヲナシ保管ス可シ

但シ横濱正金銀行役員ノ過失ニ因リ又ハ保管中如何ナル事故アリテ損失スルトモ總テ横濱正金銀行ニ於テ之ヲ辨償スルハ勿論タル可シ尤モ避ク可ラサル變災ニ因テ損失シタル場合ニ於テ其證跡判明ナルトキハ日本銀行ハ別段ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第七條　前第五條ノ引換資金ハ日本銀行ヨリ回付シ置ク所ノ帳簿ニ記載勘定シ而シテ毎日出入報告表ヲ作リテ日本銀行ヘ送付シ又毎半季決算書ヲ調製シテ其勘定ヲ證明ス可シ

第八條　銀貨兌換銀券ノ引換何レカ一方ニ偏シ自然引換方差支アル場合ニ於テ横濱正金銀行營業金ニ其需用ノ種類アルトキハ假リニ資金ト交換ヲ爲シテ之ヲ辨ス可シ然ルトキハ通知次第日本銀行ニ於テ交換戻シノ順序ヲ爲スヘシ

第九條　本約條ハ明治二十八年六月二十日ヨリ明治三十年六月十九日迄滿二箇年ヲ限リトス

尤モ日本銀行ノ都合ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ得ルニ於テハ期限内ト雖モ解約スルコトアルヘク又雙方熟議ノ上ハ本約定ヲ改正增削スルコトヲ得

右約條ヲ締結シタル證トシテ雙方役員記名調印シ一通ハ日本銀行ニ保存シ一通ハ横濱正金銀行ニ保存スルモノナリ

右ノ約條ハ明治三十年ニ至リ滿期ト爲レルヲ以テ更ニ之ヲ更新シ代理事務ヲ繼續セシメ來リシカ明治三十二年ニ至リ右條約ヲ解除シ同年十一月二十六日限リ横濱正金銀行ノ交換代理事務ヲ廢止セルヲ以テ同日以降ハ日本銀行東京本店及大阪支店ニ於テノミ之ヲ取扱フコトヽナレリ

斯ノ如ク明治十八年五月ヨリ明治三十二年十一月ニ至ル期間ハ横濱正金銀行ヲシテ兌換銀行券取扱方ヲ代理セシメタリシカ明治十八年五月右代理事務委任ノ當初ニ於テ日本銀行ハ日本銀行兌換券代理取扱順序ヲ定メ大藏卿ノ認可ヲ經爾來之ニ遵據シテ事務ヲ執行シ來レリ而シテ日本銀行ハ兌換銀行券取扱ノ用ニ供スル爲メ兌換引換資金トシテ適宜ノ金額ヲ横濱正金銀行ヘ分預シ本店及神戸支店ニ於テ其交換ニ從事セシメ其引換取扱ノ爲メ日本銀行ヨリ支拂フ所ノ手數料ハ一箇年六千圓ナリトス横濱第二國立銀行モ亦日本銀行ノ代理ヲ以テ交換ニ從事スト雖モ其交換ハ唯銀貨ヲ受込ミテ銀行券ヲ拂出スノ一種ニ止マレリ

兌換銀行券ノ交換ニ三種ノ別アリ一ハ銀貨取付ノ爲メ兌換券ヲ持參シテ交換ヲ請求スルモノ二ハ銀貨ヲ拂込ミテ兌換券ト交換ヲ請求スルモノ三ハ政府紙幣ヲ持參シテ兌換券ヲ請求スルモノ是ナリ今此種別ニ從ヒ日本銀行カ累年取扱ヒタル交換ノ景況ヲ見ルニ兌換券ノ發行漸次增加スルニ隨ヒ其交換高モ亦逐次增加セリ而シテ其交換ノ種類ニ就テ之ヲ稽査スルニ明治十八年上半季ハ兌換券發行以來僅々二箇月ニ充タス隨テ其發行額甚タ僅少ナルヲ以テ交換高モ亦未タ見ルヘキモノニアラサリシカ其下半季以降ハ發行高逐次增加シ隨テ其交換高モ亦タ大ニ多額ニ達セリ

明治十八年以降交換ノ景況ヲ見ルニ下半季交換高ハ常ニ上半季ヨリモ巨額ニシテ又交換ハ横濱代理店ノ取扱ニ係ルモノ最モ多額ヲ占メ東京本店及大阪支店ノ如キハ實ニ寥々タルノミ蓋シ横濱ニ於テ交換ノ多額ニ上ルモノハ我國輸出入品ノ集散スルハ重モニ該地ニアリ而シテ生絲取引ノ季節ハ下半季ニアリ又茶其他季節ノ上半季ニ屬スルモノト雖モ亦持越シトナリ下半季ノ取引ニ渉ルモノモ往々之アルヲ以テ外國貿易ハ常ニ下半季ニ繁忙ニシテ隨テ兌換券ノ交換モ亦年々必ス下半季ハ上半季ニ比シテ多額ニ達セサルハナシ

又兌換券ノ交換上累年銀貨ノ取付ト受込ノ差ヲ見ルニ明治十八年ハ銀貨ノ取付高大ニ受込高ニ超過シ明治十九年ハ之ニ反シテ受込高大ニ取付高ニ超過セリ日本銀行ニ於テ兌換券交換上銀貨輸入高ノ伸縮弛張ハ外國ニ對シ銀貨輸出入ノ差額如何ニ影響ヲ有スルハ言ヲ俟タサルモ前記二年間ノ景況ハ未タ之ニ據テ判定スヘカラサルモノアリ蓋シ明治十八年ニ於テ銀貨取付高ノ巨額ナルハ同年六月紙幣交換ノ發令アリシモ未タ實施ノ期ニ至ラスシテ實際ニ於テハ銀紙ノ間ニ尙ホ些少ノ打歩ヲ付セシニ由ルナルヘク又明治十九年ニ至リテ全ク反對ノ現象ヲ顯ハシ銀貨受込高ノ取付高ニ超過スルコト九百餘萬圓ノ巨額ニ達シタルハ一ハ銀紙全ク平均シテ兌換銀行券ノ需要ヲ增加シタルト一ハ國庫ヨリ政府紙幣ヲ日本銀行ニ交付シテ兌換券ニ引換ヘ日本銀行ニ於

テ政府紙幣ヲ政府ニ致シ銀貨ヲ受入レタルヲ以テ之ヲ銀貨受入兌換券發行ノ部ニ算入シタルモノヽ巨額ナリシトニ因ルナリ

從來我邦外國貿易ノ景況ハ輸出ハ常ニ輸入ニ超過スルモ其差額ニ對スル正貨ハ直ニ本邦ニ輸入セスシテ横濱正金銀行外國支店ニ存スルモノ多シ之ヲ以テ明治二十年以降二十二年ニ至ルノ間外國貿易ハ常ニ我ニ利アリシナリ然ルニ明治二十年ハ却テ銀貨ノ外出セシモノ五萬餘圓又明治二十一年ハ貿易ノ輸出超過高ハ僅ニ貳拾五萬餘圓ナルニ銀貨ノ輸入ハ凡ソ百萬圓ニ達シ明治二十二年ハ貿易ノ輸出超過高ハ凡ソ四百萬圓ナルニ銀貨ノ輸入ハ殆ント九百萬圓ニ及ヘリ是レ卽チ前記横濱正金銀行外國支店ヨリ正貨ヲ輸入シタルノ多キニ由ル且其間或ハ政府ニ於テ外國ヨリ金銀塊ヲ買入レ之ヲ造幣局ニ付シ而シテ未タ成貨トナラサルモノアリ又或ハ外國人ニシテ本邦ノ銀貨ヲ買入レ之ヲ外國銀貨ニ改鑄シテ再ヒ本邦ニ輸入セシモノアリ今此等ノ事由アルヲ以テ日本銀行ニ於テ明治二十年明治二十一年ニ於テ銀貨ノ取附高受入高ニ超過シ明治二十二年ニ於テ受入高ノ方少シク取附高ニ超過セシモ其消長ハ直ニ外國貿易ノ伸縮如何ト正貨輸入高ノ增減如何トニ由テ之ヲ判定スルコトヲ得サレトモ數年間ヲ通シテ之ヲ平均スレハ比較上正貨輸出入額ノ增減ハ日本銀行銀貨ノ受入ト取附高ニ影響セサルハナキカ如シ今明治二十三年以降ノ景況ニ就キテ之レヲ徵スルモ亦然リトス抑明治二十三年ハ貿易ノ狀勢一變シテ我ニ不利トナリ其輸入超過額ハ貳千五百餘萬圓ニシテ金銀輸出超過額ハ千貳百五拾餘萬圓ノ巨額ニ達シタリ然ルニ明治二十四年ハ復タ一轉シテ我ニ利トナリ其輸出超過額千六百六拾餘萬圓ニシテ金銀ノ輸入超過額ハ千貳百餘萬圓ニ及ヘリ明治二十五年ハ又前年ニ引續キ其輸出ノ超過額千九百七拾萬圓

金銀ノ輸入超過額千參百拾五萬圓明治二十六年ハ其ノ輸入ノ超過額百四拾五萬圓ニシテ金銀ノ輸出超過額亦百拾萬圓ニ達セシト雖モ其超過ヲ示スモノハ主トシテ下半季ニアリ明治二十七年ハ逆ニ復シテ輸入ノ超過額四百貳拾參萬圓金銀ノ輸出超過七百五拾九萬圓ニ達セリ明治二十八年ハ輸出ノ超過高六百八拾五萬圓ニシテ金銀ノ輸出超過貳千百四拾貳萬圓ナリ又明治二十九年ハ前年ニ反シ輸入超過ハ五千參百八拾參萬千七百拾四圓金銀ノ輸入超過ハ貳千七百五拾四萬參千參百貳拾五圓ナリ而シテ明治三十年ハ前年ト同シク輸入超過五千六百拾六萬五千六百九拾四圓金銀ノ輸入超過六千貳百貳拾四萬七千五百五拾圓ノ多キヲ示セリ蓋シ明治二十九年及明治三十年ハ貿易輸入超過ノ爲メ海外支拂ノ銀貨巨額ニ上リ又軍事費トシテ北清若クハ臺灣ニ於テ銀貨ノ需要ヲ增加セシニ由ルモノヽ如シ然ルニ貨物ノ輸入超過アリシニ拘ラス金銀モ亦輸入超過ヲ示セシハ清國ヨリ領收スヘキ償金ノ回送アリシニ由ルナリ而シテ明治三十年十月以降ハ金貨本位制ノ實施アリシカ爲メ兌換銀行券ト銀貨トノ交換ヲ止メ金貨ト交換ヲ開始スルニ至リシカ其金貨交換拂出高ハ俄ニ增加スルヲ見ル是レ外國貿易輸入超過ノ結果ニ外ナラス夫レ斯ノ如ク事變ニ際シ一時ノ變態ヲ呈スルコトアルヲ免レスト雖モ正貨交換ノ景況ハ外國貿易ノ紳縮金銀輸出入ノ增減ニ因ルモノヽ如シ今明治十八年以降明治三十五年ニ至リ每半季兌換銀行券交換高ヲ表示スヘシ

每半季兌換銀行券交換高一覽表

年次	店名	銀貨受入高	換券受入高	兌換券出高	銀貨兌換出高	紙幣受入高	換券出高
明治十八年上半期	東京本店	円 一六四、六四〇・〇〇〇	円 二六三、六三〇・〇〇〇	円 一〇三、九七〇・〇〇〇	円 二六三、六三〇・〇〇〇		
	大阪支店	一一三、二五〇・〇〇〇		一一六、八一〇・〇〇〇			
	正金銀行	一、三七四、九一〇・六一〇		一、三八九、七八〇・六一〇	八五八、六一〇・〇〇〇		
同 十八年下半期	東京本店	七〇、八二一・〇〇〇		一三五、四八〇・〇〇〇	六八、〇六七・〇〇〇		
	大阪支店	五〇八、二四五・〇〇〇		七七四、三一五・〇〇〇			
	正金銀行	八、六六七、二六三・二四〇		一二五九、一二九・二四〇	一、六二二、九三五・〇〇〇		
	東京本店	九、一六六、七二三・〇〇〇		一二七、九六三・〇〇〇	八二四、一八六・〇〇〇		
	大阪支店	六八六、〇〇五・〇〇〇		四三五、四四二・〇〇〇			
	正金銀行	九、六二〇、二〇九、八六〇		一三、〇九一、四〇四、八六〇	四、五八一、三一六・〇〇〇		
	第二國立銀行	四、五二二、〇〇〇・〇〇〇					
同 十九年上半期	東京本店	一一、六一三、四二八・〇〇〇		一、二四八、二七三・〇〇〇	八二〇・〇〇〇		
	大阪支店	二、〇〇九、四四四・〇〇〇		一、二二二、一五〇・〇〇〇			
	正金銀行	九、九三二、八九五・二一〇		一六、三〇〇、一〇八・二一〇	七、五一一、三一九・〇〇〇		
	第二國立銀行	五二七、〇〇〇・〇〇〇					
同 十九年下半期	東京本店	一、四二二、三六一・〇〇〇		一、九一三、三三一・〇〇〇			
	大阪支店	二、四七八、七四五・〇〇〇		一、二一三、二〇九・〇〇〇			
	正金銀行	一〇、八二九、三二七・六六〇		一五、五一一、一四二・六六〇	七、六八三、二六六・〇〇〇		
	第二國立銀行	二、〇二七、〇〇〇・〇〇〇					
同 二十年上半期	東京本店	二、六八五、九〇四・〇〇〇		六七七、五二一・〇〇〇			
	大阪支店	二、七三六、〇七七・〇〇〇		二、八三二、五三九・〇〇〇			
	正金銀行	一二、七二三、〇六七・九八〇		一七、四五五、六九九・九八〇	五、四七七、七五〇・〇〇〇		
	第二國立銀行	四六、〇〇〇・〇〇〇					
同 二十年下半期	東京本店	八二八、三二六・〇〇〇		四九一、八九一・〇〇〇			
	大阪支店	二、一二〇、〇七一・〇〇〇		一、三七二、九三三・〇〇〇			
	正金銀行	一三、九二二、〇四八・五〇〇		一五、七五一、〇三九・五〇〇	一八、六六六、一八五・〇四〇		
	第二國立銀行	七〇七、一五五・〇〇〇		三三三、八七一・〇〇〇			
同 二十一年上半期	東京本店	一、〇一六、二八一・〇〇〇		九九八、三二八・〇〇〇			
	大阪支店	一五、三七六、一七五・〇四〇		一八、六六六、一八五・〇四〇	二、七二四、三三九・〇〇〇		
	正金銀行	五四五、〇〇〇・〇〇〇					
	第二國立銀行	五七五、七八五・〇〇〇		三七二、八三〇・〇〇〇			
同 二十一年下半期	東京本店	二、一一四、八〇〇・〇〇〇		六五六、〇二四・〇〇〇			
	大阪支店	一三、六一三、六二六・〇〇〇		一四、六五〇、六二七・〇〇〇	一、三七七、二八七・〇〇〇		
	正金銀行	七四三、〇〇〇・〇〇〇					
	第二國立銀行	一、六一二、〇一二・〇〇〇		二三一、四八九・〇〇〇			
同 二十二年上半期	東京本店	九一五、六六八・〇〇〇		三、七四七、六二〇・〇〇〇			
	大阪支店	二二、五二一、三九七・〇〇〇		二二、四一四、二二八・〇〇〇	二、〇五四、二〇七・〇〇〇		
	正金銀行						

第二國立銀行	東京本店	三、七〇二、四一四・〇〇〇	九八、〇〇〇・〇〇〇	一、七七八、九三五・〇〇〇	四、六八五、二七〇・〇〇〇
	大阪支店	八二七、七三六・〇〇〇		三、三四五、〇八六・〇〇〇	
	代理店	七二七、七三八・〇〇〇		八、五六七、五一六・〇〇〇	二、七〇三、七七六・〇〇〇
明治二十三年上半期	東京本店	三、〇六八、七九八・〇〇〇		四、〇〇〇、六〇八・〇〇〇	
	大阪支店	三、二九五、一六〇・〇〇〇		三、五四四、六七八・〇〇〇	
	代理店	一、五二九、七二〇・〇〇〇		七、九九六、五四九・〇〇〇	一、二一一、八五三・〇〇〇
同　二十三年下半期	東京本店	二、二二三、五二一・〇〇〇		二、七二九、五一三・〇〇〇	
	大阪支店	二、三六九、九七九・〇〇〇		三九一、〇八八・〇〇〇	
	代理店	三、六一六、五三九・〇〇〇		一、八〇九、一七八・〇〇〇	三三二、八七六・〇〇〇
同　二十四年上半期	東京本店	一、八七〇、一三七・〇〇〇			
	大阪支店	一、八一一、八〇二・〇〇〇		二、六七〇、七二六・〇〇〇	
	代理店	五、九四六、〇〇〇・〇〇〇		五九五、〇〇〇・〇〇〇	一五四、五二八・〇〇〇
同　二十四年下半期	東京本店	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇		二、五三五・〇〇〇	
	大阪支店	一、五一〇、五七二・〇〇〇		一、六七四、三四七・〇〇〇	
	代理店	四、三七三、〇〇〇・〇〇〇		七〇二、〇〇〇・〇〇〇	
同　二十五年上半期	東京本店	三〇、〇〇〇・〇〇〇			
	大阪支店	二、八九四、四〇四・〇〇〇		四、六八五、二七〇・〇〇〇	
	代理店				
同　二十五年下半期	東京本店				
	大阪支店				

同　二十六年上半期	代理店				
	東京本店	一〇、九六一、〇〇〇・〇〇〇			
	大阪支店	一、九〇、〇〇〇・〇〇〇			
	代理店	一、四九四、三八七・〇〇〇			
同　二十六年下半期	東京本店	二、八三九、〇〇〇・〇〇〇			
	大阪支店	一、五五〇、〇〇〇・〇〇〇			
	代理店	五、九一〇、九五一・〇〇〇			
同　二十七年上半期	東京本店	一、九八〇、五〇二・〇〇〇			
	大阪支店	四、一九四、九八八・〇〇〇			
	代理店				
同　二十七年下半期	東京本店	三、九九〇、三一〇・〇〇〇			
	大阪支店	三、六三四、〇〇〇・〇〇〇			
	代理店	二、八九五、〇六九・〇〇〇			
同　二十八年上半期	東京本店	四、八三七、九七五・〇〇〇			
	大阪支店	一、五九五、四一六・〇〇〇			
	代理店	四、八九三、五〇〇・〇〇〇			
同　二十八年下半期	東京本店				
	大阪支店	二、三八一、六六一・〇〇〇			

年期	店名	金貨受入高	換券出高	換券受入高	金貨出高	紙幣受入高	換券出高
	代理店	七、七二二、〇〇〇・〇〇〇 円	〇	円	四四、一四一、九六三・〇〇〇 円	〇	円
明治二十九年上半期	東京本店	三、九四七、二〇三・〇〇〇	〇		三、〇六〇、九五〇・〇〇〇	〇	
	大阪支店	七、九四〇、〇〇〇・〇〇〇	〇		一〇、九四一、五四一・〇〇〇	〇	
	代理店	三、一五一、九九三・〇〇〇	〇		一四〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	
同 二十九年下半期	東京本店	六、六〇二、〇〇〇・〇〇〇	〇		一二、五二三、四四四・〇〇〇	〇	
	大阪支店	〇	〇		一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	
	代理店	七四四、〇一六・〇〇〇	〇		一、五六四、九八〇・〇〇〇	〇	
同 三十年上半期	東京本店	五、四〇一、〇〇〇・〇〇〇	〇		八、七四〇、四七五・〇〇〇	〇	
	大阪支店	七七〇、〇〇〇・〇〇〇	〇			〇	
	代理店	二一一、〇七八・〇〇〇	〇		二二〇、四七〇・〇〇〇	〇	
同 三十年下半期	東京本店	一一、五六八、九一〇・〇〇〇	〇		一一、〇二〇、一二〇・〇〇〇	〇	
	大阪支店	三七〇、七七五・〇〇〇	〇			〇	
	代理店	一、三〇八、四七六・〇〇〇	〇			〇	
同 三十一年上半期	東京本店						
	大阪支店						
	代理店						

年期	店名	金貨受入高	換券出高	換券受入高	金貨出高	紙幣受入高	換券出高
	東京本店	五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 円	〇	円	四四六、〇八〇・〇〇〇 円	〇	円
明治三十年下半期	大阪支店	一、二一六、九五八・〇〇〇	〇		八八四、九五五・〇〇〇	〇	
	代理店	九八、〇〇〇・〇〇〇	〇		一二、四五二、九四〇・〇〇〇	〇	
同 三十一年上半期	東京本店	三、〇九三、二九二・〇〇〇	〇		六三二、七三〇・〇〇〇	〇	
	大阪支店	一、九七〇、五二八・〇〇〇	〇		五一、一三八・〇〇〇	〇	
	代理店	二、三一九、二四〇・〇〇〇	〇		三六、八五〇、六七四・〇〇〇	〇	
同 三十一年下半期	東京本店	一八、九二六、五五五・〇〇〇	〇		一、〇八二、〇一二・〇〇〇	〇	
	大阪支店	一、一七八、五七九・〇〇〇	〇		一七、〇二七・〇〇〇	〇	
	代理店	一、八〇一、五〇〇・〇〇〇	〇		一四、三八三、三〇〇・〇〇〇	〇	
同 三十二年上半期	東京本店	二六〇、三二七・〇〇〇	〇		四九、〇四七・〇〇〇	〇	
	大阪支店	七、三一五、一五五・〇〇〇	〇		二五、九六五・〇〇〇	〇	
	代理店	一、二四九、五〇〇・〇〇〇	〇		四、七三五、六二〇・〇〇〇	〇	
同 三十二年下半期	東京本店	二、四〇九、五九二・〇〇〇	〇		二、二一五、四五六・〇〇〇	〇	
	大阪支店	五、七九五、七五三・〇〇〇	〇		三、二一五、〇一〇・〇〇〇	〇	
	代理店	二、三七六、〇〇〇・〇〇〇	〇		五、九九一、〇〇〇・〇〇〇	〇	
同 三十三年上半期	東京本店	一一九、二四〇・〇〇〇	〇		一二、〇七六、五五九・〇〇〇	〇	
	大阪支店	二、三三七、二九七・〇〇〇	〇		一九、八七八、二二〇・〇〇〇	〇	
同 三十三年下半期	東京本店	四三九、五一八・〇〇〇	〇		五、四四六、六五六・〇〇〇	〇	

明治三十四年上半期	東京本店	六、三六六、二九六・〇〇〇円	一三、九二二、九八〇・〇〇〇円
	大阪支店	三三九、五七二・〇〇〇	一、九六一、九四二・〇〇〇
同 三十四年下半期	東京本店	七、九〇二、四一八・〇〇〇	六、三三九、二九五・〇〇〇
	大阪支店	四六六、三四八・〇〇〇	六一三、五四四・〇〇〇
同 三十五年上半期	東京本店	一〇、一六八、七八九・〇〇〇	四、二〇八、〇三五・〇〇〇
	大阪支店	四九八、〇〇九・〇〇〇	二、〇一六、九七二・〇〇〇
同 三十五年下半期	東京本店	八、九四九、九四八・〇〇〇	二三〇、八二〇・〇〇〇
	東京本店	三、四二八、七六五・〇〇〇	五三、六四〇・〇〇〇
	大阪支店	二〇、三三四、八七三・〇〇〇	一六三、一八五・〇〇〇

第九節 監理官

日本銀行ハ我國經濟界ノ金融ヲ疏通シ銀行會社ノ資力ヲ擴張シ內外手形ノ割引ヲナシ商業上ノ信用ヲ助長スルノミナラス殊ニ兌換銀行券發行ノ特權ヲ有シ或ハ國庫金ノ出納ヲ司ルカ如キ他ノ銀行會社ト全ク其性質ヲ異ニシ隨テ其責任最モ重大ナルモノナリ是ヲ以テ日本銀行條例第二十一條ヲ以テ大藏卿ハ特ニ監理官ヲ置キ日本銀行ニ係ル諸般ノ事務ヲ監視セシムル旨ヲ規定セリ

夫レ監理官ハ大藏大臣ノ命ヲ受ケテ銀行諸般ノ事務ヲ監督シ何時ニテモ事務一般ノ狀況ヲ質問

シ且ツ帳簿金庫等ノ檢査ヲ爲スノ權ヲ有シ又重役又ハ監事集會及銀行總會竝ニ株主總會等ニ臨席シ意見ヲ陳述スルヲ得ルモノニシテ明治十五年日本銀行ノ設立セラルヽト同時ニ條例ノ規定ニ依リ之ヲ任命セリ

日本銀行既ニ設立シテ其事務漸ク緒ニ就クヤ政府ハ明治十六年七月以降國庫金ノ取扱ニ從事セシメ同十九年一月以降政府紙幣ノ交換取扱方ヲ命シ從前政府ニ於テ取扱ヒタル公債出納ノ事務ハ漸次悉ク之ヲ日本銀行ニ移シ終ニ國庫出納ノ如キハ明治二十三年四月ヲ以テ擧ケテ之ヲ日本銀行ノ取扱ニ屬セシムルコトヽナセリ斯ノ如ク日本銀行ノ業務益〻繁多ナルヲ致スニ於テハ之カ監理ヲ爲スコト愈〻細密ヲ加ヘサル可ラス是ニ於テ明治二十一年八月大藏大臣ハ監理官處務規定ヲ設ケテ之ヲ監理官ヘ令達シ又明治二十二年八月更ニ監理官ヲ增員シテ三名トナシタリシカ同年十一月監理官一名死亡シ爾後ハ二名ト爲セリ明治二十一年二月制定ニカヽル日本銀行監理官處務規定ノ條項ハ左ノ如シ

第一條 日本銀行監理官ハ每週一回日本銀行ニ臨監シ同行各部局擔任ノ事務ヲ試問監査シ帳簿金庫等ノ檢査ヲナスモノトス

第二條 日本銀行監理官ハ前條ノ檢査ヲナスニ付日本銀行事務ニ關スル書類ヲ要スルトキハ同行重役ヲシテ檢印ノ上之ヲ差出サシムルコトヲ得

第三條 日本銀行監理官ハ同行業務ニ關シ要用ナリト認ムルトキハ重役集會、監事集會、銀行總會割引委員席株主總會等ニ臨席スヘシ此場合ニ於テ意見ヲ陳述スルヲ得ヘシ

第四條 日本銀行監理官ハ日本銀行ノ營業上條例定款ニ悖戻スル事件若クハ政府ニ不利ナル

事件アリト認ムルトキハ速ニ大藏大臣ニ具申スヘシ

第五條　日本銀行監理官ハ日本銀行ノ事務執行上改正ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ其意見ヲ大藏大臣ニ具申スヘキモノトス

日本銀行監理官ハ爾來前記ノ處務規定ニ據リ之ヲ監視セリ

第十節　營業

日本銀行ハ明治十五年十月九日ヲ以テ營業免狀ヲ下付セラレ翌十日ヲ以テ其營業ヲ開始セリ而シテ日本銀行營業ノ範圍ハ日本銀行條例第十一條ノ規定スル所ニシテ卽左ノ如シ

第一　政府發行ノ手形爲替手形其他商業手形等ノ割引ヲナシ又ハ買入レヲナス事

第二　地金銀ノ賣買ヲナス事

第三　金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲナス事

第四　豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲナス事

第五　諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬竝證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六　公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期預ヲナスコト但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

日本銀行營業ノ範圍ハ以上ノ如シ以下年次ヲ逐ヒ其營業上主要ナル事項ヲ敍述シテ其概況ヲ示サントス

明治十五年ハ其開業十月上旬ニ在ルヲ以テ營業期間僅ニ三箇月ニ滿タス且ツ事創始ニ屬シテ營業上諸般ノ順序未タ其緒ニ就カス業務從テ寂寞タルヲ免カレスシテ特ニ記スルニ足ルモノナク僅ニ同年十一月六日金銀通貨ヲ抵當トシ普通貸出金利子ヨリ一歩低下ノ利子ヲ以テ貸出ヲ爲スノ取扱方ヲ定メタルニ過キス

本行營業上金銀貨及地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スコトハ定款第二十一條第三項ニモ明文有之候處創設之際諸事未タ全ク整備不致候ニ付差向金銀通貨ヲ抵當トシテ貸付方取扱申度抵當價格之儀ハ時々ノ相場ニ九掛ノ割合ヲ以テ貸付候積ニ有之尤モ利子ニ於テ幾分ノ斟酌ヲ加ヘ公債證書等ノ抵當貸金ヨリハ少シク低利ヲ以テセサルヲ得サル情況ニ付普通貸金ヨリハ一箇年ニ付一分低下ノ利子ヲ以テ期限一箇月以內ノモノニ貸付可申乍然目下資金閑裕ノ際ハ右ニテ運轉上差支モ無之候得共他日金融劇忙ノ時ニ臨ンテハ右ハ差支ヲ生シ候事モ可有之去迚眞貨ヲ聚蓄シ以テ將來ノ用ニ供スルハ本行主眼トスル所ノ一ナルニ一朝金融繁忙ナレハトテ右眞貨抵當ノ貸付ヲ謝絕スルカ如キコト有之候テハ極メテ本旨ニ背キ最遺憾ニ堪ヘサル儀ニ付右樣ノ場合ニ至リ候節ハ前述抵當ノ金銀通貨ヲ更ニ抵當トシテ拜借金御聞屆ケ被下因テ以テ救濟ノ策ヲ施スヲ得候ハヽ寔ニ本行ノ幸ニ御座候右ハ營業上重要ノ件ニ付豫テ御聞屆ケ被下置度此段奉願候也

明治十五年十一月七日

日本銀行總裁代理
副總裁　富田鐵之助

大藏卿　松方正義　殿

顧之趣聞屆候條時々相場ノ高低ニ注意致シ抵當價格ニ不都合無之樣可致候事

但金銀通貨ヲ抵當トナシ當省借用金ノ儀ハ難相成儀ト可心得事

明治十五年十一月八日　　大藏卿　松方正義

尙ホ割引手形、預リ證書、貸付金抵當品、預リ證書等ノ書式確定マテハ假證書使用ノ事ヲ規定シ又貸付金抵當公債證書ノ利札ヲ負擔主ノ請求ニ依リ切取交付ノ取扱ヲ定メ尙ホ貸付金及割引依賴書ノ書引ヲ定メタリト雖モ要スルニ當年ハ營業ノ取引僅ニ其端緒ヲ啓キタルニ過キサルナリ

明治十六年ニ至リ業務漸ク其歩ヲ進メ先ツ一月十二日ヲ以テ當座預金引出方心得書ヲ定メ尋テ同月十九日定期貸延期ヲ許諾シタルトキ卽チ一回限リ延期證書ヲ以テ證書々換ニ代フルノ法ヲ設ケ其延期證書ノ書式ヲ定メ更ニ同月二十六日、日本鐵道會社ト該社株金收入及補給利子仕拂ノ約定ヲ締結シ尋テ其取扱代理ヲ第一第二第三十三ノ各國立銀行及三井銀行ニ委託シ二月八日ニハ大阪支店貸付竝ニ割引表ノ式ヲ定メテ毎週其要項ヲ報告セシムルコトヲ始メ三月十四日ニハ諸官省附屬工場ト日本銀行トノ間ニ於テ手形割引ヲ開始スルノ許可ヲ得タリ蓋シ此手形割引ノ事タル商業手形流通ノ模範ヲ示スノ主意ニ出テタルモノナリ卽チ左ノ如シ

諸商業手形流通ノ道ヲ開キ以テ金融ノ通暢ヲ助成スルハ本行ノ營業上最モ主眼トスル所ニ御座候處我商賈ノ間ニ於テハ舊來商業手形ノ取引極メテ狹隘ニ有之然ルニ昨十五年第五十七號ヲ以テ爲替手形條例御頒布相成候ニ付テハ自今勉メテ割引手形等ノ使用ヲ商賈ノ間ニ擴伸爲致候樣仕度然ル處諸官省附屬ノ工場ハ營業資本ヲ以テ維持致候儀ニ付右工場ト當日本銀行トノ間ニ於テ割引ノ法相開キ本行定款第二十三條ノ但書ニ準據シ取扱候樣仕度左樣候ハヽ獨リ

該工場ノ便利ナルノミナラス追テ諸商賈ハ勿論民有ノ工場等ニテモ割引手形ノ便益ヲ發見シ自然各銀行ニ於テモ割引ノ業ニ從事候樣相成可申ト思惟仕候間先以前述ノ儀御聞屆被下度其手續順序等ハ別紙ニ記載シ此段相伺候御差閊モ無之候ハヽ別紙掲載ノ趣旨ヲ以テ諸官省ヘ本行ヨリ照會可仕候也

明治十六年二月一日　　日本銀行總裁　吉原重俊

追テ別紙手續書雛形等ニ不都合ノ儀モ御座候得ハ御指示被下度奉存候也

大藏卿　松方正義　殿

手續書

從來諸官省附屬ノ工業場ニ於テ營業ヲ爲シ其製造品鑛物等ヲ各廳竝ニ商賈等ニ賣渡スニ現金ヲ以テ其代價ヲ仕拂ハシムルハ金融上極メテ不便ナルカ故ニ自然需要者モ亦多カラサルノ患アリ去迚之ヲ延賣ト爲セハ直チニ代價ヲ收入スル能ハサルカ爲メ營業上要スル處ノ資本金巨多ナラサルヲ得ス該事業ノ旺盛ナランヲ欲スルモ遂ニ其意ヲ達スル能ハサルニ至ル不便亦甚シト云フヘシ此ニ明治十五年第五十七號ヲ以テ爲換手形條例ヲ頒布セラレタルカ故ニ今諸官工場ニ於テ該條例ニ準據シテ爲換手形ヲ發行シ當、日本銀行ニ於テ該手形ノ割引ヲ爲サハ直チニ物品ノ代價ヲ收入シ常ニ資本ノ融通ヲ伸暢スル一大便益ヲ得且尋常ノ割合ヨリハ小格ノ資金ヲ以テ巨大ノ營業ヲ爲シ其利益モ亦隨テ增加スルヲ得ルヤ必セリ因テ爲換手形發行取引ノ方法ヲ揭クル左ノ如シ

例ヘハ甲廳ニ於テ物品ヲ製造シ之ヲ乙者(官廳ニテモ商賈ニテモ)ニ賣渡ストセン其物品ヲ乙者ニ引渡シタ

ル上甲廳ハ乙者宛ノ爲換手形ヲ作リ(第一號書式)該物品ノ代價金何百圓ヲ何月何日ニ於テ(乙者ノ約セシ仕拂期間)日本銀行(卽割引人)ヘ仕拂フヘキ旨ヲ記載シ仕拂人ヲシテ之レカ引受ノ承諾ヲ爲サシメタル上之ヲ日本銀行ニ持參シテ割引ヲ請求スヘシ然ルトキハ日本銀行ハ其手形面ノ金額ヨリ割引歩合(當日ヨリ仕拂期限ニ至ル迄ノ日數ニ應シタル利子ヲ云フ)ヲ引去リ其金額ヲ甲廳ニ渡スヘシ是ニ於テ乎甲廳ハ乙者ノ仕拂ヲ俟タス物品ノ代價ヲ直チニ收入スルヲ得且其金員ヲ營業上ニ使用スルヲ得ルナリ

又例ヘハ甲廳ニ於テ物品ヲ乙者(官廳ニテモ商賈ニテモ)ニ賣渡シタル上別ニ又丙者(例ヘハ物品賣上ケ人)ヘ仕拂フヘキ金員アルトキハ甲廳ハ乙者宛ノ爲換手形ヲ作リ該物品ノ代價金何百圓ヲ何月何日ニ於テ丙者卽チ受取人ヘ仕拂フヘキ旨ヲ記載シ金員ノ代リニ之ヲ丙者ニ付與スヘシ(乙者ヨリ受取ルヘキ金高ト丙者ヘ仕拂フヘキ金額トハ同額ナレハ此手形ノミニテ通貨ノ代リニ仕拂フモ可ナリ若シ仕拂フヘキ金額多額ニシテ此手形面ノ金員ニテ不足アルトキハ迫金ヲ拂渡スモ適宜タルヘシ)丙者ハ手形ノ期限內ニ金員ヲ要スルコトアレハ日本銀行ニ持參シテ之カ割引ヲ請求スヘシ然ルトキハ日本銀行ニ於テ前同樣ノ手續ヲ以テ其金額ヲ丙者ニ拂渡スナリ是ニ於テ乎甲廳ハ一ノ手形ヲ以テ乙丙兩者ノ勘定ヲ決濟スルノ便アルヘシ

此ノ如クニシテ甲廳ハ現有ノ資本金ヲ營業上ニ於テ轉々倍用スルノ便益ヲ得ヘク又之カ受賣ヲ爲スモノハ初メヨリ巨多ノ資本ヲ有セサルモ信用アレハ盛ンニ賣買ノ業ヲ營ムヲ得ヘシ然リ而シテ賣品低價ナルヲ得需用從テ增加スルヲ得ン

又甲廳ニ於テ政府ヨリ興業費等ヲ受取ル時甲廳直チニ其金額ヲ國庫ヨリ受取ラントスレハ多少ノ時日ヲ要シ爲メニ營業上ノ不便ヲ釀スコトアルヘシ如此場合ニ於テハ右爲替手形ノ法ニ倣ヒ國庫ヨリ受取ルヘキ金額ヲ記載セル爲替手形(第二號書式)ヲ製シ(受取金高ノ金額ヲ分ツテ數箇ノ手形トナスモ可ナリ但受取

金總高ニ超ユヘカラサルコト勿論ノコト)之カ引受ヲ請求シ日本銀行ヘ持參シテ割引ヲ請フヲ得ヘシ

右手形ノ金額仕拂期限ハ百日以內ニ在ルモノニ限ルヘシ萬一乙者(卽チ支拂人)ニ於テ約束ヲ履行セサル時ハ甲廳ハ乙者(支拂人)ニ代リテ日本銀行ヘ金額ヲ辨償スヘシ而シテ甲廳ト乙者トノ間ハ從來ノ方法ニ從テ處分スヘキモノトス

此ノ如ク甲廳ハ延賣ノ約束ヲ以テ物品ヲ乙者(支拂人)ニ引渡シ手形ヲ製シ直チニ割引ヲ以テ現金ヲ得ルト雖モ若シ其乙者(支拂人)ニ於テ約束ヲ履行セサル時ハ甲廳ハ乙者(支拂人)ニ代リ日本銀行ニ對シテ辨償スヘキ責任アルカ故ニ甲廳ニ於テハ豫テ乙者(物品買受人卽チ手形支拂人)ノ人物身代等ヲ充分取調ヘ後日不都合ヲ惹起スノ患ナキ樣厚ク注意ヲ加フルハ最モ緊要ノコトナリ

又甲廳ニ於テ物品ノ買入ヲナスニ當リ現金ヲ以テ代價ヲ仕拂フハ會計上或ハ不便ナルノ場合モアルヘシ去迚延賣ト爲セハ物品賣主ノ營業上亦甚不便ヲ覺ユヘシ此時甲廳ハ仕拂ノ約束手形ヲ發シ(第三號書式)テ之ヲ賣主ニ付與シ賣主若シ現金ヲ要スレハ日本銀行ニ來テ割引ヲ乞ヒ直チニ代價ヲ受取ルヲ得ヘク又現金ヲ要セサレハ仕拂期限ヲ俟チ甲廳ニ就テ代價ノ全額ヲ受取ルヲ得ルカ故ニ賣主ノ便益尠ナカラスシテ買上物品ノ價値モ亦勢低下ナルヲ得ヘキナリ

此他爲替及ヒ約束手形ノ取扱方ハ都テ明治十五年第五十七號ノ布告ニ遵フ者トス

(書式略)

更ニ同月三十日當座預金取扱規定指圖渡小切手用法心得持參渡小切手用法心得ヲ規定シ尋テ四月十四日共同運輸會社ニ對スル貸付金參拾萬圓ニ關シ大藏卿ニ稟伺シテ其許可ヲ得タリ

翌五月二十九日ニハ日本銀行ト他ノ銀行ト締結スヘキ「コルレスポンデンス」約定書同根抵當品及其價格ノ許可ヲ受ケテ送金爲換等ノ取引開始ノ基礎ヲ作セリ左ノ如シ

當銀行ニ於テ他ノ銀行ト締結可致「コルレスポンデンス」約條書別冊之通相定申度候條御許可被下度定款第三條ニ據リ此段奉願候也

明治十六年五月十九日

大藏卿 松方正義殿

日本銀行總裁 吉原重俊

追テ本文締約可致銀行ハ其締約ノ際具陳御許可ヲ請フヘクト存候尚又其締約スヘキ銀行ニ依リ約條書中取捨可致廉有之候節ハ其都度具案可仰高裁候此段添テ及上申候也

明治十六年五月二十九日

大藏卿 松方正義

願之趣聞屆候事

明治十六年五月二十九日

「コルレスポンデンス」約條書

（此約條書中掲クル處ノ金高及約條年月日等ハ其例ヲ示シタルモノナレハ本約條ハ其銀行ニ因リ異同アルヘシ）

日本銀行ト何某銀行トノ間ニ於テ「コルレスポンデンス」ヲ締結シ取引ヲ開クニ付日本銀行定款第二條ノ旨ニ遵ヒ大藏卿ノ許可ヲ受ケ雙方協議ノ上決定シタル約條左ノ如シ

第一條 貨財ノ融通ヲ利シ業務ノ便益ヲ圖ラン爲メ日本銀行ト何某銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルニ付自今兩銀行ノ間ニ於テ左ノ取引ヲ爲スヘシ

但通常ノ貸借割引預金等ノ取引ヲ爲スハ此外タルヘシ

第一 爲換取引ノ事

第二 商業手形取付ノ事

第三 代金取立ノ事

第四 何某銀行ヘ一時融通貸ヲ爲ス事

第二條 日本銀行ヨリ前第一條各種ノ取引上ニ於テ何某銀行ヘ貸付スヘキ金額ハ參萬圓ヲ極度トス

但此極度額ハ日本銀行ノ都合ニ依リ前以テ其旨ヲ通知シテ一時之ヲ低減スル事アルヘシ

第三條 兩銀行ノ間ニ於テ前第一條各種ノ取引ヲ開クニ付何某銀行ハ豫メ實價參萬圓ニ相當スル根抵當品ヲ日本銀行ヘ差入置ヘシ其抵當品種類竝ヒ價格ハ日本銀行ノ定ル所ニ隨フヘシ

但前第二條但書ノ如ク日本銀行ニ於テ極度額ヲ低減スルトキハ之ニ準スル抵當品ヲ一時返却スヘシ

第四條 何某銀行ニ於テ本約定ニ基キ日本銀行ヨリ振出シタル各種ノ手形ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ何某銀行ノ借方ト爲リタル金額ニ止ルヘシ

但日本銀行ノ都合ニ依リ豫メ照會シ何某銀行ノ承諾ヲ得ルニ於テハ本文ノ外尚振出スコトアルヘシ

第五條 前第二條ニ定メタル極度額ハ何某銀行ノ貸借差引貸殘額ナルニ付何某銀行ニ於テ返還ノ勘定ヲ了スルニ隨ヒ繰返シ極度額迄ノ取引ヲ爲スヲ得ヘシ

第六條　日本銀行ヨリ何某銀行ヘ送金手形爲換手形ヲ振向ルニハ一口ノ金額五千圓ヲ超過セサルヘシ然レトモ爲換ノ都合ニ依テハ實際取引ノ勘定尻貸金額マテ追掛振出スコトヲ得ヘシ

第七條　送金爲換ノ金額ハ一ト口百圓未滿ハ雙方共之ヲ振出スヘカラス

但公用ノ送金爲換ハ此限ニ非ス

第八條　送金爲換ハ雙方共一覽後定期拂ノ手形ヲ用ユヘシ尤其期限ハ一覽後三日以後タルヘシ

第九條　送金爲換ヲ振出シタルトキハ直ニ案內書ヲ其振向書ヘ送付スヘシ又現金仕拂濟ノ上ハ振向書ヨリ直ニ其旨ヲ振出元ヘ通報スヘシ

第十條　何某銀行ニ於テ本約條ニ基キ一時融通借ヲ請求スルトキ（至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テスルヲ得ヘシ）日本銀行ニ於テ差支無キニ於テハ前第二條ノ極度額三分一ニ超過セサル金額マテ貸付スヘシ

但既ニ各種ノ取引アリテ約條金額ニ餘贏ナキトキハ貸付スルコト能ハサルヘシ

第十一條　前第十條ノ貸金ハ左ノ二種トシ其時々雙方協議ノ上之ヲ定ムヘシ尤返濟期限ハ何レモ百日以內タルヘシ

第一　返濟期日ヲ確約スルモノ

第二　豫メ返濟期限ヲ定ムルモ何某銀行都合ニ依リ其期限內何時ニテモ返濟シ得ルコトヲ約スルモノ

第十二條　本約條取引貸借勘定ハ雙方共每年五月十一月ノ末日ヲ期トシテ決算ヲ爲スヘシ

第十三條　本約條ノ取引利子ハ雙方協議ノ上五月十一月ニ更定スルモノトシ其利子勘定書ハ五月十一月ノ末日ヲ期トシテ雙方ヨリ送付照會シテ其利金ヲ授受スヘシ尤利子ノ日割ハ雙方共現ニ其元金ヲ授受セシ日ヲ以テ勘定ヲ爲スヘシ

第十四條　本約條ノ取引ニ由リ受領スヘキ送金爲換割引等ノ手數料ハ現ニ之ヲ受領セシ方ノ所得タルヘシ

第十五條　諸手形ノ取付ヲ爲スニ方リ若其仕拂ヲ拒却セラレタルトキハ拒ミ證書ヲ受ケ互ニ其旨ヲ急報スヘシ

第十六條　何某銀行ニ於テ前第一條各種ノ取引上ニ於テ借方トナリタル金額其期限ニ至リ返償ノ義務ヲ果サヽルトキハ日本銀行ハ前第三條ノ根抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以テ其負債元利竝ヒ賣却費用ヲ償ヒ若シ剩餘アレハ之ヲ返付シ不足アレハ尙何某銀行ノ資產ヲ以テ之ヲ銷却セシムヘシ

但日本銀行ニ於テ抵當品ヲ賣却シタルトキハ何某銀行ハ其賣却手續價格竝ヒ費用等ニ付異議アルヘカラス又其賣却ヲ爲スニ當リ何某銀行ノ記名調印等ヲ要スルコトアレハ速ニ其手續ヲ爲スヘシ

第十七條　本約條ノ外ニ兩銀行ノ間ニ於テ取結ヒタル國庫金取扱所事務代理約條上ニ於テ損失或ハ引負ヲ生シ其約條ニ依リ償還スルモ尙不足アリ何某銀行資產ヲ以テ銷却セシメントスル場合ニ於テハ先本約條ニ依リ日本銀行ニ預リ置タル根抵當品ノ餘贏ヲ以テ其銷却ニ充ツヘシ

第十八條　本約條ハ明治十六年七月一日ヨリ明治十八年六月三十日マテ滿二年ヲ限リトス滿期ニ至レハ貸借決算ノ上其借越シタル方ニ於テ悉皆其金額ヲ償還シ日本銀行ハ根抵當品ヲ返却シテ此約ヲ了スヘシ

第十九條　何某銀行ニ於テ本約條ニ違背セシ廉アル乎若クハ其他ノ事故ニ依リ解約セサルヲ得サル場合ニ於テハ日本銀行ハ期限内ト雖モ此約條ヲ解クコトヲ得ヘシ但其場合ニ於テ貸借ノ決算ヲ爲ス等ハ第十八條手續ノ如クスヘシ

第二十條　本約條ハ期限中ト雖モ雙方熟議ノ上ハ更正增削スルコトヲ得ヘク尙又滿期後更ニ繼約スルコトヲ得ヘシ

右ノ條件ヲ確定シタル證トシテ雙方役員記名調印スルモノ也

明治十六年　月　日

日本銀行總裁　何　某
同　文書局長　何　某
何某銀行頭取　何　某
同　取締役　何　某

本約條書ハ本書一通正寫一通ヲ作リ其本書ハ日本銀行ニ保存シ其正寫ハ何某銀行ニ保存スルモノ也

明治十六年　月　日

同　支配人　何　某

書留

書記

各銀行會社ト締約スル「コルレスポンデンス」約條書第三條ニ記載スル根抵當品額ハ其約條店ノ分限ト本行ノ便宜ト實際取引スヘキ金額ノ豫算トニ依リ彼是勘量シテ相定ルモノトシ其時々許可ヲ請ヘクト存候將又根抵當ノ品種ハ公債證書（其約條店所有ノモノハ勿論他ヨリ其約條店ヘ借入又ハ預リ若クハ抵當ニ取置クモノハ更ニ本人ノ承諾狀ヲ添ヘテ差出シタル分モ）正貨幣地金銀政府ノ保證ニ係ル證券等本行ニ於テ抵當ノ效用アリト認ルモノヲ預リ可申尙又其約條店ノ都合ニ依リ別ニ本行ヘノ定期預ケ金ヲ一時使用ノ爲メ差出ストキハ詮議ノ上相預リ可申尤前ノ公債證書價格ハ當分別紙ノ通相定可申存候右御許可被下度候也

明治十六年五月十九日

大藏卿　松方正義殿

日本銀行總裁　吉原重俊

秩祿公債證書　百圓ニ付

抵當價　百　圓

金祿一割利付	百圓ニ付	抵當價 百圓
同 七分利付	同	同 八拾貳圓
同 六分利付	同	同 七拾參圓
同 五分利付	同	同 六拾四圓
起業公債證書	同	同 八拾五圓
新公債證書	同	同 七拾圓
舊公債證書	同	同實額高四分ノ一
金札引換公債	同	同 百圓

（右指令）

願ノ趣公債證書正貨幣地金銀ノ外ハ經伺上可取扱且公債證書價格ノ儀ハ當分付箋之通相定改定ノ都度可伺出候事

明治十六年五月二十九日　　大藏卿 松方正義

尋テ六月一日更ニ左ノ如ク日本銀行ト各銀行支店トノ間竝ニ日本銀行大阪支店ト各銀行支店トノ間ニ於テ取結フヘキ「コルレスポンデンス」締約ノ件ヲ申請シテ同十二日滋賀縣下銀行トノ「コルレスポンデンス」約條ノ以外ハ其許可ヲ得タリ即左ノ如シ

今般各地方銀行ヘ國庫金取扱方代理約條取結候ニ付右ニ連絡「コルレスポンデンス」約條取結度即チ第一號別紙列記候通甲印ノ根抵當品ヲ徵シ當銀行ヨリ各種ノ取引ニテ貸金ヲ爲ス極度額

ヲ乙印ノ如ク相定メ當銀行ヨリ振出ス手形一ト口ノ金額ヲ丙印ノ如クシ而シテ丁印ノ締約期限ヲ以テ戊印ノ銀行本店ト締約シ實際己印ノ店ト取引相開可申存候尤此際ハ當銀行本店ト各銀行支店トノ間又ハ當銀行大阪支店ト各銀行本店若クハ支店トノ間ニ於テ取引相開候儀ニ付既ニ御許可濟ノ約條案ヲ第二號第三號第四號ノ如ク修正シ之ヲ以テ締約可致存候

右ハ定款第二條ノ旨ニ遵ヒ相伺候條御許可被下度候也

明治十六年六月一日　　日本銀行總裁 吉原重俊

大藏卿 松方正義殿

追テ本文旨趣ヲ以テ實際締約ノ際先方ニテ異議有之大體ノ旨趣更正ヲ要スル儀モ有之候ハハ其分ハ更ニ相伺可申存候也

（右指令）

伺之趣聞屆候事

但滋賀縣下銀行ト「コルレスポンデンス」約條ノ儀ハ當分見合セ可申候事

明治十六年六月十二日　　大藏卿 松方正義

第二號約條案ヲ以テ締結スル部（東京横濱ハ「コルレスポンデンス」ヲ締約セス浦和ハ追テ取極メ候筈）

甲	乙	丙	丁	戊	己
根抵當品額	各種貸金極度額	手形振出一口限額	締約期限	締約銀行	實際取引ヲ開ク店
七、〇〇〇円	七、〇〇〇円	一、八〇〇円	明治十六年七月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 三井銀行	神奈川縣下南多摩郡八王子 三井銀行支店

甲	乙	丙	丁	戊	己
一二、〇〇〇円	一二、〇〇〇円	二、四〇〇円	明治十六年七月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 三井銀行	神奈川縣下相模國足柄下郡小田原 三井銀行支店
三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	六、二〇〇	明治十六年九月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	前同	愛知縣下尾張國名古屋 前同
二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	四、九〇〇	前同	前同	岐阜縣下美濃國岐阜 前同
三、〇〇〇	三、〇〇〇	八〇〇	前同	前同	同縣下飛彈國大埜郡高山 前同
三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	六、二〇〇	前同	前同	三重縣下安濃津郡津 前同
八、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	前同	前同	青森縣下東津輕郡青森 前同
一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	二、四〇〇	明治十六年七月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 安田銀行	栃木縣下下野國下都賀郡栃木 安田銀行支店
一六、〇〇〇	一六、〇〇〇	三、二〇〇	前同	前同	同縣下下野國河内郡宇都宮 前同
六、〇〇〇	六、〇〇〇	一、五〇〇	前同	前同	同縣下下野國足利郡足利 前同
七、〇〇〇	七、〇〇〇	一、八〇〇	明治十六年九月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 第一國立銀行	宮城縣下陸前國牡鹿郡石巻 第一國立銀行支店
八、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	前同	前同	同縣下陸前國志田郡古川 前同
一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	二、二〇〇	前同	前同	岩手縣下陸中國南岩手郡盛岡 前同
四、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	前同	前同	同縣下陸中國東閉伊郡宮古 前同
七、〇〇〇	七、〇〇〇	一、八〇〇	前同	前同	同縣下陸中國磐井郡一ノ關 前同
二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	四、七〇〇	明治十六年七月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 川崎銀行	千葉縣下下總國千葉郡千葉 川崎銀行支店
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	前同	前同	同縣下上總國望陀郡木更津 前同
一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	二、四〇〇	前同	前同	同縣下下總國香取郡佐原 前同

第三號約條案ヲ以テ締結スル部

甲 根抵當品額	乙 各種貸金極度額	丙 手形振出一ト口限	丁 締約期限	戊 締約銀行	己 實際取引ヲ開ク店
一八、〇〇〇円	一八、〇〇〇円	三、六〇〇円	明治十六年八月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	彥根 第百卅三國立銀行	滋賀縣下近江國犬上郡彥根 第百三十三國立銀行
二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	四、四〇〇	同十六年七月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	高松 第百十四國立銀行	愛媛縣讃岐國香川郡高松 第百十四國立銀行

第四號約條案ヲ以テ締結スル部

甲 根抵當品額	乙 各種貸金極度額	丙 手形振出一ト口限	丁 締約期限	戊 締約銀行	己 實際取引ヲ開ク店
二六、〇〇〇円	二六、〇〇〇円	四、四〇〇円	明治十六年八月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 三井銀行	滋賀縣下近江國滋賀郡大津 三井銀行支店
二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	四、二〇〇	同十六年七月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	大阪 第百卅四國立銀行	德島縣下阿波國名東郡德島 第三十四國立銀行支店
一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	二、二〇〇	前同	大阪 第百卅國立銀行	京都府下丹波國天田郡福知山 第百三十國立銀行支店
二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四、〇〇〇	明治十六年九月一日ヨリ同十八年六月三十日迄	東京 第五國立銀行	鹿兒島縣下薩摩國鹿兒島郡鹿兒島 第五國立銀行支店
八、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	前同	前同	同縣下大隅國姶羅郡加治木 前同

第二號

「コルレスポンデンス」約條書

日本銀行ハ何某銀行ノ何國何區(郡)何町(村)ニ在ル支店トノ間ニ於テ「コルレスポンデンス」ヲ締結シ取引ヲ開クニ付日本銀行定款第二條ノ旨ニ遵ヒ大藏卿ノ許可ヲ請ケ日本銀行ト何某銀行ト協議ノ上決定シタル約條左ノ如シ

第一條　貨財ノ融通ヲ利シ業務ノ便益ヲ圖ラン爲メ日本銀行ト何某銀行ノ何國何區(郡)何町(村)ニ在ル支店ハ「コルレスポンデンス」ヲ締結セルニ付自今互ニ左ノ取引ヲ爲スヘシ

但通常ノ貸借割引預金等ノ取引ヲ爲スハ此外タルヘシ

第一　爲換取引ノ事

第二　商業手形取付ノ事

第三　代金取立ノ事

第四　何某銀行ヘ一時融通貸ヲ爲ス事

第二條　日本銀行ヨリ前第一條各種ノ取引上ニ於テ何某銀行何地支店ヘ貸付スヘキ金額ハ圓ヲ極度トス

但此極度額ハ日本銀行ノ都合ニ依リ前以テ其旨ヲ通知シテ一時之ヲ低減スル事アルヘシ

第三條　日本銀行ト何某銀行何地支店トノ間ニ於テ前第一條各種ノ取引ヲ開クニ付何某銀行ハ豫メ實價　圓ニ相當スル根抵當ヲ日本銀行ヘ差入置クヘシ其抵當品種類竝ヒ價格ハ日本銀行ノ定ムル處ニ隨フヘシ

但前第二條但書ノ如ク日本銀行ニ於テ極度額ヲ低減スルトキハ之ニ準スル抵當品ヲ一時返却スヘシ

第四條　何某銀行何地支店ニ於テ本約條ニ基キ日本銀行ヨリ振出シタル各種ノ手形ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ何某銀行何地支店ノ借方ト爲リタル金額ニ止ルヘシ

但日本銀行ノ都合ニ依リ豫メ照合シ何某銀行何地支店ノ承諾ヲ得ルニ於テハ本文ノ外尙振出スコトアルヘシ

第五條　前第二條ニ定メタル極度額ハ何某銀行何地支店トノ貸借差引貸殘額ナルニ付其何某銀行支店ニ於テ返還ノ勘定ヲ了スルニ隨ヒ繰返シ極度額マテノ取引ヲ爲スヲ得ヘシ

第六條　日本銀行ヨリ何某銀行何地支店ヘ送金手形爲換手形ヲ振向ルニハ一ト口ノ金額　圓ヲ超過セサルヘシ然レトモ爲換ノ都合ニ依テハ實際取引ノ勘定尻貸金額マテ追掛振出スコトヲ得ルヘシ

第七條　送金爲換ノ金額ハ一ト口百圓未滿ハ雙方共之ヲ振出スヘカラス

但公用ノ送金爲換ハ此限ニアラス

第八條　送金爲換ハ雙方共一覽後定期拂ノ手形ヲ用フヘシ尤其期限ハ一覽後三日以後タルヘシ

第九條　送金爲換ヲ振出シタルトキハ直ニ案內書ヲ其振向需ヘ送付スヘク又現金仕拂濟ノ上ハ振向需ヨリ直ニ其旨振出元ヘ通報スヘシ

第十條　何某銀行何地支店ニ於テ本約條ニ基キ一時融通借ヲ請求スル時(至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テスルヲ得シ)日本銀行ニ於テ差支ナキニ於テハ第二條ノ極度額三分ノ一ニ超過セサル金額マテ貸付スヘシ

但既ニ各種ノ取引アリテ約條金額ニ餘贏ナキトキハ貸付スルコト能ハサルヘシ

第十一條　前第十條ノ貸金ハ左ノ二種トシ時々雙方協議ノ上之ヲ定ムヘシ尤返濟期限ハ何レモ百日以内タルヘシ

第一　返濟期日ヲ確約スルモノ

第二　豫メ返濟期日ヲ定ルモ何某銀行支店ノ都合ニ依リ其期限内何時ニテモ返濟シ得ルコトヲ約スルモノ

第十二條　本約條取引貸借勘定ハ雙方トモ毎年五月十一月ノ末日ヲ期トシテ決算ヲ爲スヘシ

第十三條　本約條ノ取引利子ハ雙方協議ノ上五月十一月ニ更定スルモノトシ其利子勘定書ハ五月十一月ノ末日ヲ期トシテ雙方ヨリ送付照會シ而シテ其利子ヲ授受スヘシ尤利子ノ日割ハ雙方トモ現ニ其本金ヲ授受セシ日ヲ以テ勘定ヲナスヘシ

第十四條　本約條ノ取引ニ由リ受領スヘキ送金爲替割引等ノ手數料ハ現ニ之ヲ受領セシ方ノ所得タルヘシ

第十五條　諸手形ノ取付ヲ爲スニ當リ若其仕拂ヲ拒却セラレタルトキハ拒ミ證書ヲ受ケ互ニ其旨ヲ急報スヘシ

第十六條　何某銀行何地支店ニ於テ前第一條各種ノ取引上ニ於テ借方トナリタル金額其期限ニ至リ返償ノ義務ヲ果サヽルトキハ日本銀行ハ前第三條ノ根抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以テ其負債元利曁ヒ賣却費用ヲ償ヒ若シ剩餘アレハ之ヲ返付シ不足アレハ尙何某銀行ノ資産ヲ以テ之ヲ償却セシムヘシ

但日本銀行ニ於テ抵當品ヲ賣却シタルトキハ何某銀行ハ其賣却手續價格曁ヒ費用等ニ付異議アルヘカラス又其賣却ヲ爲スニ當リ何某銀行ノ記名調印等ヲ要スルコトアレハ速ニ其手續ヲ爲スヘシ

第十七條　本約條ノ外日本銀行ト何某銀行トノ間ニ取結ヒタル國庫金取扱所事務代理約條上ニ於テ損失又ハ引負ヲ生シ其約條ニ依リ償還スルモ尙不足アリ何某銀行資産ヲ以テ償却セシメントスル場合ニ於テハ先本約條ニ依リ日本銀行ニ預リ置タル根抵當品ノ餘贏ヲ以テ其償却ニ充ツヘシ

第十八條　本約條ハ明治十六年　月　日ヨリ明治十　年　月　日迄滿二年ヲ限リトス滿期ニ至レハ貸借決算ノ上其借越アル方ニ於テ悉皆其金額ヲ償還シ日本銀行ハ根抵當品ヲ返却シテ其約ヲ了スヘシ

第十九條　何某銀行何地支店ニ於テ本約條ニ違背セシ廉アル乎若クハ其他ノ事故ニ依リ解約セサルヲ得サル場合ニ於テハ日本銀行ハ期限内ト雖モ此約條ヲ解クコトヲ得ヘシ

但其場合ニ於テ貸借ノ決算ヲ爲ス等ハ第十八條手續ノ如クスヘシ

第二十條　本約條ハ期限中ト雖モ雙方熟議ノ上ハ更正增削スル事ヲ得ヘク尙又滿期後更ニ繼約スルコトヲ得ヘシ

右ノ條件ヲ確定シタル證トシテ雙方役員記名調印スルモノ也

明治十六年　月　日

日本銀行總裁　吉原重俊

同文書局長副總裁　富田鐵之助
何某銀行頭取　何某
同　取締役　何某
同　支配人　何某
同何地支店長　何某

本約條書ハ本書一通正寫一通ヲ作リ其本書ハ日本銀行ニ保存シ其正寫ハ何某銀行ニ保存スルモノ也

明治十六年　月　日

書留書記　何某

第三號

「コルレスポンデンス」約條書

日本銀行大阪支店ト何某銀行トノ間ニ於テ「コルレスポンデンス」ヲ締結シ取引ヲ開クニ付日本銀行定款第二條ノ旨ニ準ヒ大藏卿ノ許可ヲ請ケ日本銀行ト何某銀行ト協議ノ上決定シタル約條左ノ如シ

第一條　貨財ノ融通ヲ利シ業務ノ便益ヲ圖ラン爲メ日本銀行大阪支店ト何某銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約セルニ付自今互ニ左ノ取引ヲ爲スヘシ

但通常ノ貸借割引預金等ノ取引ヲ爲スハ此外タルヘシ

第一　爲換取引ノ事

第二　商業手形取付ノ事

第三　代金取立ノ事

第四　何某銀行支店ヘ一時融通貸ヲ爲ス事

第二條　日本銀行大阪支店ヨリ前第一條各種ノ取引上ニ於テ何某銀行ヘ貸付スヘキ金額ハ圓ヲ極度トス

但此極度額ハ日本銀行大阪支店ノ都合ニヨリ前以テ其旨ヲ通知シテ一時之ヲ低減スルコトアルヘシ

第三條　日本銀行大阪支店ト何某銀行トノ間ニ於テ前第一條各種ノ取引ヲ開クニ付何某銀行ハ豫メ實價　圓ニ相當スル根抵當品ヲ日本銀行ヘ差入置クヘシ其抵當品種類竝ヒ價格ハ日本銀行ノ定ムル所ニ隨フヘシ

但前第二條但書ノ如ク日本銀行大阪支店ニ於テ極度額ヲ低減スルトキハ之ニ準スル抵當品ヲ一時返却スヘシ